

平成30年度
滋賀県立陶芸の森年報

The Shigaraki Ceramic Cultural Park
Annual Report 2018



公益財団法人 滋賀県陶芸の森

ごあいさつ



この年報は、公益財団法人 滋賀県陶芸の森が指定管理者として滋賀県立陶芸の森の運営を行った平成30年度の成果報告となります。

陶芸館、創作研修館、信楽産業展示館の3つの施設の管理・運営を通じて、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与するよう、事業を展開してきました。

陶芸館では、特別企画展として「ジャズ・スピリットを感じて…熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展を開催しました。ジャズを通して時代精神を受け止め、人間の魂の響きを感じ取った熊倉順吉。「ジャズを土で受け止める」試みとして制作した陶芸作品を紹介し、また、信楽に滞在し熊倉の熱い精神に触れた8名の陶芸家たちの作品を併せて展示しました。また夏には、特別企画「世界の形象土器」展を開催。その土地の素材である粘土や独特の手法によって制作され、人々の暮らしの中の祈りにも似た願いが込められている土器、1990年の現地調査を経て収集した世界の形象土器を展覧しました。さらに、秋には特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」。信楽の歴史や技術などへの関心から富本憲吉、八木一夫や岡本太郎など多くの作家がこの地を訪れました。そうした作家たちの取り組みを通して、信楽のやきものの新たな魅力を探りました。春には、特別企画「陶の花・FLOWERS-春、美術館でお花見」展を開催し華やかな「花」を入りに、様々な時代の陶による表現の世界を探りました。

創作研修館ではアーティスト・イン・レジデンス事業を展開しており、ゲストアーティスト19人、スタジオアーティスト48人（日本10人、海外38人）を受け入れました。また、レジデンスの活動を広く周知することを目的に、受け入れアーティストによる、オープンスタジオ、ワークショップ、講演会等を開催しました。

また、3年目になる文化庁の補助事業として、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2018」を実施しました。具体的には、海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との連携により、アーティストの派遣を連携するレジデンス機関とおこない双方向の交流をより一層活性化させました。このことにより陶芸の森が国際的に陶芸分野のレジデンスのハブ機能を持つ拠点機関としての役割を果たしました。

また、あわせて、国内の4つのレジデンス機関及び女子美術大学と共同で国内のレジデンス機関の連携を図ることを目的に、「アーティスト・イン・レジデンス研究会」を拡大して継続させレジデンス機関の運営課題の解決、一部のマニュアル化、また、評価基準の事例作成をおこない、産地の観点からレジデンス事業のサステナビリティを考えるきっかけとし、また、このことをとおして国内のレジデンス機関同士のネットワークの構築をおこないました。

また、あわせて、国内の4つのレジデンス機関及び女子美術大学と共同で国内のレジデンス機関の連携を図ることを目的に、「アーティスト・イン・レジデンス研究会」を拡大して継続させレジデンス機関の運営課題の解決、一部のマニュアル化、また、評価基準の事例作成をおこない、産地の観点からレジデンス事業のサステナビリティを考えるきっかけとし、また、このことをとおして国内のレジデンス機関同士のネットワークの構築をおこないました。

産業の振興に関する事業では、人材育成事業として滋賀県立信楽高等学校への支援事業と、地域産業の若手後継者等を主な対象としたトークショーを開催しました。

子どもやきもの交流事業では、滋賀県次世代文化芸術センターの協力を得て、世界にひとつの宝物づくり実行委員会とともに「つちっこプログラム」として、県下1万人を超える子どもたちに土を素材とした創作活動の指導を行いました。

信楽産業展示館では、信楽焼振興協議会を軸に企画展・常設展の開催をしてきました。陶芸の森の地域連携拠点であるFUJIKIでは、地域団体の若手有志を中心に構成するFUJIKI運営委員会と共にレジデンスアーティスト等を招いた展覧会及び「対話の森」というトークセッションを開催しました。

こうした事業を通じて滋賀県・甲賀市をはじめ多くの関係機関と強固な連携により事業を推進し、「陶芸文化の世界的拠点」として文化と産業が一体となった多様な機能を持つ公園を目指していきます。

来年は「陶芸の森開設30周年」を迎えます。今後ともご支援、よろしくお願ひします。

平成31年4月1日

滋賀県立陶芸の森
館長 松井利夫

目 次

県民に親しまれる施設運営に関する事業

公園機能の充実	陶芸作品の野外設置	1
	陶芸の森ボランティアの活動	
地域の観光拠点としての集客促進事業		1
	しがらき学ノススメ	2
イベントの開催・誘致		
	第12回 しがらき作家市in陶芸の森	3
	野外音楽&フリーマーケットイベント「SIVEL WARS2018」の誘致	4
	第23回 信楽セラミック・アート・マーケットin陶芸の森の開催	4
	わくわくウォーキングin陶芸の森の開催	5
財団所有作品の貸し出し		5
利用者拡大に向けた情報の発信		5
地域拠点活動事業		6
施設の管理		8
陶芸の森やきもの振興基金		9

陶芸文化の発信事業

展覧会開催事業	特別企画「ジャズ・スピリットを感じて… 熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展	10
	特別企画「世界の形象土器」展	16
	特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」	23
	特別企画「陶の花 FLOWERS-春、美術館でお花見」展	30
	細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展	35
	当館企画展の他館への巡回展	36
	陶芸館ギャラリー企画展	38
	博物館実習の受入	41
	陶磁ネットワーク会議の開催	42
	研究調査活動	42
創作事業	アーティスト・イン・レジデンス事業	44
	スタジオ・アーティストの受け入れ	44
	ゲスト・アーティストの招聘	54
	オープン・スタジオ、講演会等の開催	58
	スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等	61
	国内外のレジデンス機関等との連携	64
	国別・年度別アーティスト滞在回数	66
	種別・年度別アーティスト滞在回数	67
つちっこプログラム-子どもやきもの交流事業-		
	本物と出会う-総合学習プログラム	68
	陶芸の森来園プログラムと出張授業(連携事業)	68
	世界にひとつの宝物づくり	69

産業の振興に関する事業

県内陶器産業の振興	信楽産業展示館の活用	70
	人材育成事業	70
	デザイン活性化事業	71

信楽産業展示館

信楽産業展示館運営事業		
	展示会の開催	72
	企画展 ギャラリー展示	72

その他の事業

陶芸の森ミュージアムショップ6センス	73
職員の出向	74

資料

収蔵品収集事業	収蔵品収集実績	75
	平成30年度 陶芸館収蔵作品一覧	76
	陶芸館収蔵作品貸出実績	82
	特別観覧実績	82
施設利用実績	陶芸の森 年度別・月別入園数	83
	陶芸館年度別・月別観覧者数	83
	陶芸館展覧会別観覧者数	84
	信楽産業展示館年度別・月別観覧者数	87
	信楽ホール・会議室利用件数	87
沿革と記録		88
組織・名簿	組織図	91
	公益財団法人滋賀県陶芸の森評議役員	91
	滋賀県立陶芸の森収蔵品収集審査会委員	92
	滋賀県立陶芸の森収蔵品価格評価委員	92
	滋賀県立陶芸の森ゲスト・アーティスト選考委員	92
	滋賀県立陶芸の森スタジオ・アーティスト選考委員	92
	公益財団法人滋賀県陶芸の森職員	93

県民に親しまれる 施設運営に関する事業

公園機能の充実

太陽の広場や星の広場などで人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供しました。また、滋賀県の観光拠点として陶芸の森を広くアピールし、誘客促進に努めた結果、平成30年度の入園者数は346,164人（平成29年度：353,781人）でした。

陶芸作品の野外設置

作品の保全に努め、また新たに1作品を設置するなど、誰もが緑豊かな自然の中に点在する。作品の魅力を再認識できるよう取り組みました。

陶芸の森ボランティアの活動

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及のため、展覧会監視補助、子どもやきもの交流事業補助、園内園芸作業などボランティアによる活動をより積極的に推進し、利用者へのきめ細かなサービスを提供しました。

平成30年度登録者

45人（平成31年3月31日現在）

内容と活動実績

・つちっこプログラム事業補助	20人	
・園内清掃	10人	
・園芸作業	6人	
・研修会参加	7人	
・事業補助作業	2人	
・FUJIKI監視	4人	
・ボランティアミーティング	7人	延べ56人

ボランティア研修会

来園する学校、団体に対応するため「登窯、穴窯解説」や「つちっこ！なるほどやきものコーナー」の解説や、来園制作で最も希望の多い「たぬき制作」を実際に制作するなど、制作サポートや案内のための研修会を行いました。

開催日 5月16日(水) 7人

地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点として、地域資源を活かしながらやきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種体験講座や陶器市、様々なレクリエーションイベントを開催しました。また、甲賀市やびわこビクターズビューロー、観光協会等と連携し、陶芸の森の魅力発信をおこない、誘客促進に努めました。

しがらき学ノススメ

陶芸初心者から経験者まで、多くの方々に魅力を体感していただくことを目的にした講座です。地元信楽の陶芸家を講師に迎え、個別技法を専門的に学ぶ「技法別講座」や、薪窯の魅力に触れる「穴窯・登り窯講座」を開講。講師の行き届いた指導とニーズに即した幅広いメニューで参加者の作陶をサポートしました。

①技法別講座

やきものについて広く学ぶことができるよう絵付けや、ミニ窯づくりなど、初心者向けの講座から、一歩踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催しました。

開催日	テーマ	講師	参加者数
5月13日(日)	ラク焼の茶碗をつくる	奥田 英山	19人
6月10日(日)	食卓を彩るうつわをつくる	小川 顕三	16人
7月1日(日)	練り込みのうつわをつくる	村田 彩	20人
7月8日(日)	華やかな角皿を上絵付けする	渡部 味和子	8人
12月2日(日)	ラク焼の茶碗をつくる	奥田 英山	21人
3月17日(日)	ミニ窯をつくる	越沼 信介	14人
3月24日(日)	野焼きを学ぶ-磨いてつくる私だけの…	細川 政己	24人



②穴窯講座

中世古窯信楽の伝統技術・穴窯焼成を学ぶ講座。参加者の習熟度に合わせて、初級・中級・上級・焼成の4クラスに分けて実施しました。

初級講座：2kgの粘土を使用、自由制作もしくは下記のテーマで制作

中級講座：5kgの粘土を使用、下記のテーマで制作

上級講座：10kgの粘土で大壺を制作

焼成講座：30kgの粘土で自由制作、窯詰から焼成、窯出しまでを体験

開催日	講座種別	テーマ	講師	参加者数
10月14日(日)	初級	信楽酒器をつくる	五代 高橋 楽斎	8人
10月27日(土)、28日(日)	上級	信楽大壺をつくる	小牧 鉄平	11人
11月11日(日)	中級	信楽壺・花入をつくる	篠原 希	5人
11月18日(日)	初級	干支をつくる	八幡 満	11人

焼成クラス

参加者：15人

説明会：9月30日(日)

焼成日：3月20日(水)～24日(日)

窯出し：3月30日(日)



③登り窯講座

近世から近代における信楽焼の伝統技術のひとつ、登り窯焼成を学ぶ講座。火袋や一の間を用いた焼成を体験します。習熟度に合わせて、初級、中級、上級の3クラスに分けて実施しました。

初級講座：2kgの粘土を使用して講師の指導の元、自由に制作

中級講座：5kgの粘土を使用、下記のテーマで制作

上級講座：10kgの粘土で大壺を制作

開催日	講座種別	テーマ	講師	参加者数
9月9日(日)	初級	自由制作	大西 左朗	13人
9月23日(日)	中級	信楽壺、蹲をつくる	神山 直彦	7人
9月29日(土)、30日(日)	上級	信楽大壺をつくる	神崎 継春	11人

④団体受入

京都造形大学通信学部 スクーリング

開催日：6月22日(金)～24日(日) 講師：藤本 秀 (参加者：13人)

穴窯で焼成する作品を制作しました。また町内の見学もおこないました。

イベントの開催・誘致

やきものをテーマにした展示即売会等を開催して、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供し、関係団体と協力しながら年間をとおしてさまざまなイベントを開催しました。

第12回 しがらき作家市in陶芸の森の誘致

内 容

5月の連休に実行委員会形式で開催しました。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶芸作品販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得ました。

開催日時

平成30年5月2日(水)～5月5日(土・祝) <4日間>
9時～17時

主 催

しがらき作家市実行委員会



出展者、来園者数等

テント数	101張
出展者数	約160人
来園者数	28,886人

野外音楽&フリーマーケットイベント「SIVEL WARS2018」の誘致

8月の集客対策としてイベント誘致を行いました。昨年引き続き、地元信楽の魅力が詰まったフリーマーケットや飲食ブース、またステージではバンド演奏、BMX、キッズダンスパフォーマンスなど、信楽では類を見ない「野外フェスイベント」として多く人でにぎわい、入園者増につなげることができました。

**開催日時**

8月12日(日) 10時～17時

主 催

SIVELWARS実行委員会

出展者、来園者数等

ステージイベント	15組
物販ブース	5ブース
飲食ブース	22ブース
来園者	3,246人

**第23回 信楽セラミック・アート・マーケットin 陶芸の森の開催****内 容**

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内で活躍する陶芸家等が制作した質の高い作品の販売をおこない、作り手と使い手の交流の場を創出し、作家活動を支援しました。

開催日時

10月6日(土)～8日(月・祝) <3日間>
9時～17時(最終日は16時30分)

出展者、来園者数等

ブース数	133ブース
テントブース	104ブース
フリーブース	29ブース
飲食ブース	18ブース
出展者数	146人
来園者数	22,718人



わくわくウォーキングin陶芸の森の開催

内 容

陶芸作品が展示された広場、緑に囲まれた散策路など、陶芸の森は芸術と自然を気軽に楽しめる公園施設でもあります。「わくわくウォーキング」は、そうした陶芸の森の公園としての魅力を満喫していただくことができるイベントです。玉桂寺駅方面へと園外の散策路を歩くコースを設定し、多数の参加者を得ました。

開催日時

12月9日(日) 9時30分～12時30分

協 力

ぼぼんた倶楽部（総合型地域スポーツクラブ）
甲賀市スポーツ推進員



参加者

62人

財団所有作品の貸し出し

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品（財団所蔵作品）を、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めました。

貸出実績 6 箇所 計 25 作品

利用者拡大に向けた情報の発信

新聞広告をはじめとした有料媒体のみならず、WEBを中心とした無料媒体への情報提供や読者プレゼントの提供、パブリシティ、ホームページの充実を通して、積極的な情報発信を行いました。

また、SNS（Facebook、Twitter）では、桜の開花や紅葉といった四季折々の情報や、薪窯の焼成風景など、陶芸の森ならではのトピックスを頻繁にアップロードすることで、陶芸の森に親しみを深め、来園いただけるような情報発信を行い来園者の拡大に努めました。

【主な掲載・放送実績】

T V 『日曜美術館アートシーン』（NHK）

新 聞 『京都新聞』

『中日新聞』

雑 誌 『美術手帖4・5月号』（美術出版社）

『お出かけ美術館&博物館』（エルマガジン社）

『サイクリングを楽しむ本』（京阪神エルマガジン社）

『月刊アートコレクターズ』（生活の友社）

『炎芸術 2018冬』（阿部出版）

『現代插花』（一般財団法人中山文甫会）

『GALLERY』（ギャラリーステーション）

『Casa Brutus』（マガジンハウス）

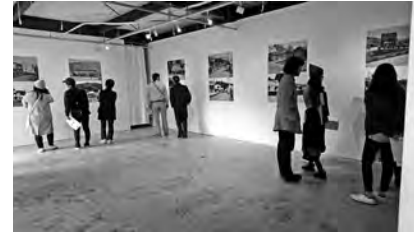
『景色のいいドライブ[関西版]』（京阪神エルマガジン社）

県広報誌 『滋賀プラスワン3・4月号』

フリーペーパー 『チェキポン7月号』 ほか

地域拠点活用事業

陶芸の森地域連携拠点であるFUJIKI（旧藤喜陶苑）を活用するため、管理運営を地域団体の若手有志を中心に陶芸の森が委嘱した委員で構成する「FUJIKI運営委員会」に委託し、陶芸の森も主体的に参画することで、地域に根差した施設運営を行いました。陶芸の森サテライトギャラリーとしてレジデンス・アーティストの展覧会を行うほか、運営委員会を通じて一般へのスペース貸出を行うことで、地域の活性化へとつながる事業を実施しました。



【展覧会】

- ・「ルイズ・コートの視点—海外に初めて信楽焼を紹介した研究者」展
 開催日：平成30年3月10日(土)～4月15日(日)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
- ・「平尾小代子 信楽ちぎり絵」展
 開催日：平成30年4月20日(金)～4月26日(木)
 主 催：平尾 小代子
- ・「Ian Wiczorek - Available Now -」(AIR事業)
 開催日：平成30年5月12日(土)～5月20日(日)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：イアン・ウィチョレク (アメリカ／平成29スタジオ・アーティスト)
- ・「Luisa Maisel - swirls & pearls -」(AIR事業)
 開催日：平成30年6月21日(木)～6月27日(水)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：ルイザ・メイゼル (フランス／平成30年度スタジオ・アーティスト)
- ・「サルエルパンツ展示会」
 開催日：平成30年7月21日(土)～7月23日(月)
 主 催：やまだ あやこ
- ・「AIRプロジェクト 旅する陶芸家たち～オランダ・EKWC～」
 開催日：平成30年9月11日(火)～9月16日(日)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：田中 哲也、大谷工作室、山田 浩之
 ＊関連企画「対話の森」平成30年9月15日(土)
 EKWCに派遣された作家3名と陶芸の森松井利夫館長とのトークセッション

- 「ハヤシコウのポスター展」
 開催日：平成30年9月19日(水)～9月23日(日)
 主 催：株式会社ミズコルビノデザイン
- これまでとここまでとここから展
 開催日：平成30年10月2日(火)～10月8日(月)
 主 催：硝子作家 大下 邦弘
 内 容：個展・硝子作品
- シータ・ウォン「adagio adagio」展（AIR事業）
 開催日：平成30年10月14日(日)～10月21日(日)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：シータ・ウォン（香港／平成30年度スタジオ・アーティスト）
- 「Anja Borgersrud 土 Antonella Cimatti」展（AIR事業）
 開催日：平成30年10月21日(土)～10月28日(土)※台風22号接近に伴い、10月29日は休館
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：アンヤ・ボルゲルスルド（ノルウェー／平成29年度スタジオ・アーティスト）、
 アントネラ・チマッティ（イタリア／平成30年度ゲスト・アーティスト）
- 水彩とパステルの出会い展
 開催日：平成30年11月4日(日)～11月18日(日)
 主 催：原 新治郎 蕭碧霜
 内 容：水彩画（原氏）パステル画（蕭碧霜）の2人展
- 信楽荘 ショートステイ「生活」展
 開催日：平成31年1月12日(土)～1月18日(金)
 主 催：特別養護老人ホーム 信楽荘
 内 容：施設紹介も兼ねたショートステイについての展示
- デイビッド・ヘルマーズ「Animal matter in enchanted space」展（AIR事業）
 開催日：平成31年2月20日(水)～2月28日(木)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森
 出品者：デイビッド・ヘルマーズ（オーストラリア／平成30年度スタジオ・アーティスト）
- 「信楽 汽車土瓶」展
 開催日：平成31年3月9日(土)～3月24日(日)
 主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森、横山 絵理（信楽地域おこし協力隊）
 *関連企画「対話の森 vo.2」平成31年3月9日(土)
 畑中 英二および横山 絵理と陶芸の森 松井 利夫館長によるトークショー

【ワークショップ】

- 風鈴をつくるワークショップ
 開催日：平成30年6月16日(土)
 主 催：社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

- ・滋賀近美よもやま講座 月刊学芸員「展覧会とメッセージ」
 開催日：平成30年9月1日(土)
 主 催：滋賀県立近代美術館
 講 師：渡辺 亜由美（滋賀県立近代美術館学芸員）

- ・万華鏡をつくるワークショップ
 開催日：平成30年9月8日(土)
 主 催：社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

- ・クリスマスリースを作ろう
 開催日：平成30年12月1日(土)
 主 催：社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
 内 容：陶器のリースにさをり織りなど青年寮が用意した材料でオリジナルリースを作る。

- ・オリジナル缶バッチを作ろう
 開催日：平成31年2月16日(土)
 主 催：社会福祉法人 しがらき会 信楽青年寮
 内 容：オリジナル缶バッチを作る

【その他】

- ・おくどはん
 開催日：平成30年12月2日(日)
 主 催：おくど飯実行委員会
 内 容：釜たきご飯体験イベント

施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、環境の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持することに努めました。

また、台風の接近により各種警報が発令されるとともに、交通機関の運行中止、道路の通行止め等が行われたため、計5日間、災害への警戒と来園者の安全を考慮して閉園としました。それぞれ翌日に園内の被害状況を確認し、県とも情報を共有しました。

7月6日(金)、7月7日(土)、8月23日(木)14:00～、9月4日(火)、9月30日(日)

花木の植栽管理

公益財団法人滋賀県緑化推進会の「ゴルファー緑化協力金事業」よりジンダイアケボノ（サクラの一種）11本の寄贈を受け、園内の道路沿いへ植栽し園内の景観維持に努めました。

施設の維持修繕

県の長期保全計画に基づく建物や設備の保全工事を県および事業者と調整して実施するとともに、園内および各建物にかかる所用の修繕を行い、長期的な機能確保に努めました。



陶芸の森やきもの振興基金

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行いました。

陶芸文化の発信事業

展覧会開催事業

特別企画

特別企画「ジャズ・スピリットを感じて… 熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展

趣 旨 戦後の前衛陶芸は、新しい時代の情熱に溢れた作家たちのエネルギーに満ちていました。伝統的な陶芸が主流であった中で、前衛陶芸のパイオニアのひとりとして造形的な作品を生み出していた熊倉は、常に何が伝統であるかを問いかけ、真の伝統の担い手とは、社会に根差し実験的で創造的な精神であると記していました。熊倉は強烈なサウンド、ジャズから時代精神を受け止め、ジャズの響きを土でうけとめようと試みる中で、日常のやきものの釉薬や技法をヒントに、新しく鮮烈な作品に仕上げました。

本展では、戦後の前衛陶芸を率いた熊倉順吉の陶芸と、1970年代のクラフトデザイン運動の盛り上がりの中、産地信楽から刺激を受けた日常の器もあわせて紹介しました。また、この企画を通して彼の熱い精神に触れ、信楽で滞り制作した若手作家たちの作品も併せて展示しました。信楽でさまざまな刺激を受け、ジャズを時代を読む手がかりとしていた熊倉と同様に、21世紀の今、訪れた信楽でそれぞれの手法で時代を捉えながら制作を行う陶芸家たちの作品を併せて紹介しました。

〈熊倉順吉について〉1920年京都に生まれる。1957年走泥社の同人となる。1959年滋賀県立信楽窯業試験場の嘱託となり信楽陶器のデザイン指導に携わりました。その頃より石油ストーブの普及が進み、主要商品であった火鉢の販売が低迷する産地信楽の命脈を探るべく、熊倉は信楽の大物ロクロの技術を生かした庭園陶器をデザインし、1963年「ガーデン・ファニチャー展」を東京で行い新しい信楽焼の発信に尽力しました。そして産地信楽は、徐々に植木鉢や庭園陶器の製造に転換していきました。熊倉のみずからの制作では、信楽の伝統的な火鉢の代名詞となっていた釉薬・海鼠釉をモダンなコーヒーセットやオブジェ作品に用いています。熊倉は作品制作においても産地からさまざまなインスピレーションを受けていたことがうかがえます。



展示構成および出品作家

Session I ジャズに魅せられた熊倉順吉

Session II 熊倉順吉の陶芸とクラフトデザイン

Session III 信楽と関わった熊倉へのオマージュ 21世紀の陶芸家たち：陶芸の森創作研修館のゲスト、スタジオ・アーティストから／安藤 郁子、石山 哲也、田中 哲也、今野 朋子、村山 まりあ、原 菜央、福岡 佑梨、谷口 明子

会 期 2018年3月10日(土)～6月17日(日)

〔休館日〕月曜日 4月30日 開館、5月1日 振替休館

主 催 公益財団法人 滋賀県陶芸の森、京都新聞

後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市、エフエム京都

観 覧 料 一般 600円 (480円)、高大生 450円 (360円)
中学生以下無料、() 内は20人以上の団体料金

入場者数 平成29年度1,003人 (1日平均 52人) 19日間
平成30年度5,773人 (1日平均 86人) 67日間 合計 6,776人

関連行事 (1)熊倉が訪れていた頃の信楽とは…

「ルイズ・コートの視点—海外に初めて信楽焼を紹介した研究者」展

1970年代、何度も信楽を訪れ調査研究を重ね、信楽焼の魅力を海外に発信したルイズ氏による貴重な写真や文章を展示する。

第一会場：陶芸館ギャラリー、2018年3月10日(土)～6月17日(日)

入場者数：14,035人

第二会場：FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点) 2018年3月10日(土)～4月15日(日)

休 館 日：毎週月曜、火曜日

入場者数：350人

(2)熊倉順吉の愛好していたナンバーを聞きながら～ジャズとともに熊倉の作品を鑑賞(展示室1)

ナンバーは、ソニー・ロリンズなど熊倉が好きだったアーティストからピックアップ。

SONY ROLLINS「SAXOPHONE COLOSSUS」／ORNETTE COLEMAN「FREE JAZZ」
／BILL EVANZ「PORTRAIT IN JAZZ」

(3)ジャズコンサート「栗田洋輔ジャズ・カルテット～Pottery in Music～」

日 程：2018年4月21日(土) 14時～15時 入場無料

会 場：陶芸の森 信楽産業展示館ホール

メンバー：栗田洋輔 (サクソ)、牧知恵子 (ピアノ)、西川サトシ (ベース)、松田GORI
広士 (ドラム)

入場者数：163人

(4)子ども向け体験講座

「ちっちゃい、かわいいお皿！ スタンプで飾る 藍色の豆皿をつくろう！」

日 程：2018年3月25日(日) 13時～16時

講 師：松本恵理香 (陶芸家)

制 作 費：幼児～大学生1260円、大人2010円

参加者数：15名 (先着順/大人のみの参加も可)

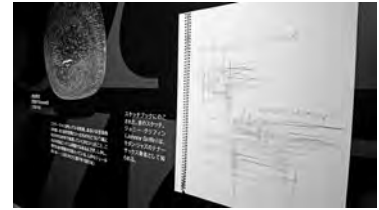
(5)ギャラートーク

日 程：4月30日(月・振) 13時30分～

参加者数：20人

日 程：5月27日(日) 13時30分～

参加者数：20人



団体見学案内

4月10日(火)	トヨタ紡織滋賀株式会社	30人
4月19日(木)	(宝物) セントヨゼフ女子学園中学校1年生	72人
5月12日(土)	スタンフォード大学 (アメリカ)	22人
5月13日(日)	ミシガン大学芸術学部 (アメリカ)	15人
5月29日(火)	滋賀レイカディア大学校外学習	22人
5月30日(水)	シエラ・ネバダ・カレッジ (アメリカ)	20人 他

掲載記事等

(1)テレビ、ラジオ

- F M京都 開催予告および開催中局報 (2月～6月)
- 3月11日(日) 生番組パブリシティー F M京都 C S N NAVIGATION / DJ川島 郁子
- 3月13日(火) 生番組パブリシティー F M京都 α-MORNING KYOTO / DJ佐藤 弘樹
- 3月29日(木)～ あいこむこうか
- 4月22日(月) NHK Eテレ日曜美術館アートシーン

(2)新聞

- 2月9日(金) 京都新聞社告
- 2月28日(水) 京都新聞社告
- 3月10日(土) 京都新聞「ジャズ精神感じる陶芸 滋賀、熊倉順吉の92点」
- 3月31日(水) 京都新聞アートスクエア「ルイズ・コートの視点」展
- 4月3日(火) 毎日新聞 名品手鑑32「ジャズの響き土で形に」
- 4月7日(土) 京都新聞 ミュージアム欄 「土に情動の熱い息吹」
- 4月13日(金) 週刊トマト&テレビ京都 (京都新聞)「果敢な前衛精神」
- 4月13日(金) 「熊倉順吉展 自由でモダンな陶芸」京都新聞
- 4月28日(土) 滋賀リビング新聞 お出かけインフォメーション
- 5月6日(日) 滋賀報知新聞「突き刺さるジャズ魂！」 他
- 5月20日(日) 陶業時報「熊倉順吉とジャズにスポット」

(3)雑誌

- 『Gallery』(2-6月号)
- 地域創造レター3月号
- 『炎芸術』133-134号

(4)WEB

京都新聞アート&イベント情報サイト「ことしるべ」、「ぶらり美術館」、カフェボヤージュブログ、滋賀報知新聞サイト、KANSAI ART BEAT、イベントスクランブル、創設「電子図書館」大龍堂通信、公益社団法人びわこビクターズビューロー、彩里陶材WEBサイト、関西文化.com、福住画廊HP、ぶらっと信楽WEB信楽町観光協会、INTERNET MUSEUM、ストリートアートナビ、滋賀文化のすすめ、WEB LEAF、原葉央HP、村山まりあHP、個展ナビ、ギャラリー数寄HP、観仏三昧HP、関西3D：陶芸、るるぶCOM、デイリー、Lmaga.jp、陶芸ネット、福岡佑梨HP、関西休日案内、アートエキシビジョン、京都新聞ニュース、神原正明研究室、やきものPLAZA、MUSCA、地域創造HPレター3月号、ほっとミュージアム、アートナビネット、Mujam.comミュージアム、京都造形大学通信陶芸ブログ、株式会社森本建築事務所ブログ、NHK日曜美術館HP 他

(5)ミュージアムショップ

21世紀の作家たちによるオブジェやうつわといった小品や、音楽にちなんだグッズやジャズ関連の書籍を中心として特設ブースを開設しました。

■アンケート集計結果

入館者数	6,779人			
回答者数	178人			
回答率	2.6%			
性別	男性	97人	54%	
	女性	77人	43%	
	無回答	4人	2%	
地域	北海道・東北	1人	1%	
	関東・甲信越	2人	1%	
	首都圏	2人	1%	
	北陸	1人	1%	
	東海	19人	11%	
	滋賀県	64人	38%	
	京阪神	57人	34%	
	奈良・和歌山	17人	10%	
	中国	1人	1%	
	四国	1人	1%	
	九州・沖縄	0人	0%	
	無回答	3人	2%	
	展覧会評価	大変満足	56人	31%
		満足	69人	39%
普通		40人	22%	
やや不満		5人	3%	
不満		1人	1%	
無回答		7人	4%	
再来館したいと思いますか	思う	146人	82%	
	思わない	23人	13%	
	無回答	9人	5%	
信楽に来た目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	92人	47%	
	陶芸の森のイベント	20人	10%	
	町内のイベント	1人	1%	
	陶器の購入	11人	6%	
	旅行会社ツアー	0人	0%	
	MIHO MUSEUM	10人	5%	
	学校行事	16人	8%	
	その他	43人	22%	
	無回答	4人	2%	

■作品リスト

No.	作者 (窯・産地)名	作品名(日)	作品名(英)	寸法(cm)	制作年 (西暦)	所 蔵
1	熊倉 順吉	飛翔するSOUND	Soaring Sound	高51.0×幅52.0×奥行33.0	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
2	熊倉 順吉	楽奏-79	Musical Performance - 79	高44.0×幅33.5×奥行15.5	1979	滋賀県立陶芸の森陶芸館
3	熊倉 順吉	楽人の碑	Monument of Musician	高54.0×幅18.0×奥行18.0	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
4	熊倉 順吉	華麗なる音の像	Magnificent Figure of Music	高52.0×幅18.0×奥行18.0	1980	個人蔵
5	熊倉 順吉	Music	music	高29.5×幅29.5×奥行24.0	1978	個人蔵
6	熊倉 順吉	ブルースマン	Blues Man	高38.0×幅40.0×奥行31.0	1980	滋賀県立陶芸の森陶芸館
7	熊倉 順吉	レコードラック	Record Rack	高40.0×幅32.0×奥行13.0	1980	滋賀県立陶芸の森陶芸館
8	熊倉 順吉	ニューオーリンズの窓	Window of New Orleans	高27.0×幅12.0×奥行35.5	1977	滋賀県立陶芸の森陶芸館
9	熊倉 順吉	Jazz・Vocal	Jazz・Vocal	高23.0×幅25.6×奥行11.5	1970年代 後半	個人蔵
10	熊倉 順吉	無題	Untitled	高28.0×幅26.0×奥行11.0	1980	個人蔵
11	熊倉 順吉	碑・女	Monument・Woman	高54.0×幅25.5×奥行16.0	1976	滋賀県立陶芸の森陶芸館
12	熊倉 順吉	作品	Work	高47.5×幅22.0×奥行10.0	1976	個人蔵
13	熊倉 順吉	道化の華	Flower of Clown	高47.0×幅27.0×奥行14.0	1977	個人蔵
14	熊倉 順吉	一指頭	Finger with Paunch	高59.0×幅25.0×奥行19.0	1977	滋賀県立陶芸の森陶芸館
15	熊倉 順吉	演奏者	Player	高59.0×幅58.0×奥行25.0	1980	滋賀県立陶芸の森陶芸館
16	熊倉 順吉	演奏者	Player	高49.0×幅58.0×奥行25.0	1980年頃	個人蔵
17	熊倉 順吉	ピアニスト	Pianist	高44.0×幅39.0×奥行29.0	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
18	熊倉 順吉	壁	Wall	高70.0×幅45.5×奥行15.0	1977	滋賀県立陶芸の森陶芸館
19	熊倉 順吉	Vocal-Black Music	Vocal-Black Music	高37.5×幅23.5×奥行28.0	1983	滋賀県立陶芸の森陶芸館
20	熊倉 順吉	道化		高37.5×幅23.5×奥行28.0	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
21	熊倉 順吉	VOICE	Voice	高32.0×幅26.0×奥行10.0	1984	個人蔵
22	熊倉 順吉	Black Music	Black Music	高43.0×幅28.0×奥行11.0	1984	滋賀県立陶芸の森陶芸館
23	熊倉 順吉	夢の女(陶板)	Woman in Dream (Plate)	高28.0×幅22.0×奥行2.0	1983	滋賀県立陶芸の森陶芸館
24	熊倉 順吉	・金彩香炉	Incense Burner with Gold	高14.7×径10.6×奥行9.3	1985	滋賀県立陶芸の森陶芸館
25	熊倉 順吉	MUSICIAN	MUSICIAN	高20.2×幅16.5×奥行9.5	1983	滋賀県立陶芸の森陶芸館
26	熊倉 順吉	SOUND BOX	Sound Box	高15.5×幅17.0×奥行16.0	1983	滋賀県立陶芸の森陶芸館
27	熊倉 順吉	青いリンゴ	Blue Apple	高35.0×幅19.0×奥行19.0	1972	滋賀県立陶芸の森陶芸館
28	熊倉 順吉	傷心	Broken Heart	高47.0×幅49.5×奥行39.0	1956	滋賀県立陶芸の森陶芸館
29	熊倉 順吉	困却 64-A	Perplexity 64-A	高40.5×幅33.0×奥行44.0	1964	滋賀県立陶芸の森陶芸館
31	熊倉 順吉	鳥B	Bird B	高48.5×幅38.0×奥行60.0	1972	滋賀県立陶芸の森陶芸館
32	熊倉 順吉	作品	Work	高51.0×幅27.5×奥行50.0	1968	滋賀県立陶芸の森陶芸館
33	熊倉 順吉	悪魔のしるし	Mark of Devil	高48.0×幅59.0×奥行37.0	1972	滋賀県立陶芸の森陶芸館
34	熊倉 順吉	釉彩花絵壺	Vessel with Iris Design, with underglaze iron	高29.0×径28.2	1949	滋賀県立陶芸の森陶芸館
35	熊倉 順吉	色絵サボテン文大皿	Plate with Cactus Design	高8.0×幅46.5×奥行41.5	1951年頃	滋賀県立陶芸の森陶芸館
36	熊倉 順吉	抽象文角皿	Square Plate with Abstract Design	高2.8×幅15.9×奥行15.7	1950年代 前半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
37	熊倉 順吉	線彫抽象文湯呑	Tea Cup with Abstract Design	高5.5×径7.0	1950年代 前半	個人蔵
38	熊倉 順吉	線彫抽象文鉢	Bowl with Abstract Design	高9.5×径16.5	1950年代 前半	個人蔵
39	熊倉 順吉	美蝶藍瓶	Bottle with 'Bichoai'(Blue of Tropical Butterflies) Glaze	高20.5×径 17.9	熊倉 順吉	滋賀県立陶芸の森陶芸館
40	熊倉 順吉	深海緑大皿	Shinkaimidori large plate	高10.2×径41.2	熊倉 順吉	滋賀県立陶芸の森陶芸館
41	熊倉 順吉	深海緑コーヒースセット	Shinkaimidori Coffee Cup and Saucer	カップ 6.7×11.6×径9.9/ ソーサー 1.8×径16.4	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
42	熊倉 順吉	糸杉緑櫛目平鉢	Itosugimidori Flat Bowl with Combed Design	高6.0×径21.5	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
43	熊倉 順吉	糸杉緑小皿	Itosugimidori Bowl	高3.3×径14.7	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
44	熊倉 順吉	糸杉緑小皿	Itosugimidori Small Dish	高1.5径8.8/高1.0×径6.4	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
45	熊倉 順吉	糸杉緑小鉢	Itosugimidori Small Bowl	高3.3×径14.7	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
46	熊倉 順吉	織部線彫抽象文角皿	Oribe Square Plate with Abstract Design	高1.0×径11.0	1950年代 前半	個人蔵
47	熊倉 順吉	織部クレヨン絵鉢	Oribe Bowl with abstract Design	高7.0×径20.0	1950年代 前半	個人蔵
48	熊倉 順吉	織部クレヨン絵湯呑	Oribe Tea Cup	高9.5×径6.0/6.5×径4.5	1950年代 前半	個人蔵
49	熊倉 順吉	織部鶏形ジョッキ	Oribe Hen shaped Mug	高17.5×幅16.0×径8.7	1960年代	滋賀県立陶芸の森陶芸館
50	熊倉 順吉	白化粧徳利、酒盃	Sake Bottle with Slip Decoration	13.5×11.9×口径2.7×底径9.7、 11.0×10.0×口径2.3×底径6.0	1980年代 前半	滋賀県立陶芸の森陶芸館

No.	作者 (窯・産地)名	作品名(日)	作品名(英)	寸法(cm)	制作年 (西暦)	所 蔵
51	熊倉 順吉	火山赭茶碗	Tea Bowl with 'Kazansha'	6.3×口径13.0×底径4.8	1970年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
52	熊倉 順吉	鉄釉蠟抜犬文鉢	Bowl with dog Design.Iron glaze		1972年	滋賀県立陶芸の森陶芸館
53	熊倉 順吉	林檎文灰皿、蕪文灰皿	Square Ashtray with Apple Design, Square Ashtray with Turnip Design.	高3.6×幅12.9×奥12.9	1950年代 前半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
54	熊倉 順吉	織部とうもろこし文急須	Oribe Teapot with Corn Design	高14.0×幅17.8×奥15.9	1940年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
55	熊倉 順吉	色絵魚文皿	Plate with Fish Design	高4.0×径24.5	1940年代 後半	個人蔵
56	熊倉 順吉	鉄絵薔薇文陶板	Plate with Rose Design Iron Underglaze	高1.5×径25.0	1940年代 後半	個人蔵
57	熊倉 順吉	銅彩蠟抜犬文皿	Oribe Plate with Dog Design	高3.2×径14.0	1940年代 後半	個人蔵
58	熊倉 順吉	鉄絵茄子文皿	Plate with Eggplant Design. Iron Underglaze	高4.8×径25.4	1940年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
59	熊倉 順吉	鉄絵小犬文皿	Plate with Puppy Design Iron Underglaze	高2.7×径12.5	1940年代 後半	個人蔵
60	熊倉 順吉	抽象文花瓶	Vessel with Apple Design.	高さ14.5×幅11.0×奥11.0	1940年代 後半	個人蔵
61	熊倉 順吉	饒舌	Garrulity	高33.0×幅31.5×奥行26.0	1967	滋賀県立陶芸の森陶芸館
62	熊倉 順吉	城	Castle	高25.0×幅 28.0×奥23.0	1966	個人蔵
63	熊倉 順吉	作品	Work	高39.0×幅35.0×奥10.0	1980	個人蔵
64	熊倉 順吉	散歩	Stroll	高29.0×幅15.5×奥9.0	1972	個人蔵
65	熊倉 順吉	旅人	Traveler	高34.0×幅23.5×奥20.5	1972	個人蔵
66	安藤 郁子	ここにいる		h48×w60×15cm	2014	作家蔵
67	安藤 郁子	ここにいる		h48×w60×15cm	2018	作家蔵
68	安藤 郁子	ここにいる		h48×w60×15cm	2018	作家蔵
69	石山 哲也	Zero Graph		h66×w170×d114cm	2013	作家蔵
70	田中 哲也	輝器KAGAYAKI斬ZAN	KAGAYAKI [Vessel of light]-ZAN	h125×23×17cm	2016	作家蔵
71	田中 哲也	ヘキメンノシコウNo21-勃発		35×28.5×10.5cm	2004	作家蔵
72	今野 朋子	Life Bowl, 2017	Life Bowl, 2017	(h66×w170×d114cm)	2017	作家蔵
73	村山 まりあ	Stuffed animals - Black Rabbit -	Stuffed animals - Black Rabbit -	H49×W47×D38 (cm)	2017	作家蔵
74	村山 まりあ	Stuffed animals - Black Rabbit -			2017	作家蔵
75	原 菜央	あゆみよる		H49×W34×D11 (cm)	2017	作家蔵
76	原 菜央	あゆみよる			2017	作家蔵
77	福岡 佑梨	とをひらう		インスタレーション	2017	作家蔵
78	谷口 明子	感光	exposed	W41.0× D30.0 ×H21.0	2017	作家蔵
79	谷口 明子	夜を受ける	receive the night	W 48.0 ×D33.5 ×H 31.5	2017	作家蔵
80	(村山) 熊倉 順吉	凝視	Straining One' eyes	高25.0×幅44.0×奥18.0	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
81	(原) 熊倉 順吉	十二支 午	Horse		1978	滋賀県立陶芸の森陶芸館
82	(石山) 熊倉 順吉	燻黒釉扁壺	Ibushiguro(Black Smoked color) Tea Bowl		1970- 1980年前 半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
83	(谷口) 熊倉 順吉	想像的な肖像	Imaginative portrait	高29.5×幅20.0×奥25.0	1980年代 前半	個人蔵
84	(谷口) 熊倉 順吉	作品	Work	高37.0×幅26.5×奥17.5	1980年代 前半	個人蔵
85	(安藤) 熊倉 順吉	作品	Work	高38.0×幅35.5×奥行34.0	1950年代 後半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
86	(福岡) 熊倉 順吉	作品	Work	高38.0×幅35.5×奥行34.0	1970	滋賀県立陶芸の森陶芸館
87	(福岡) 熊倉 順吉	白化粧抽象文花器	White Slip Decorated Flower Vase	高13.6×径20.0	1970-80 年代前半	滋賀県立陶芸の森陶芸館
88	(田中) 熊倉 順吉	Rock	Rock	高30.5×幅28.5×奥11.0	1984	個人蔵
89	熊倉 順吉	雲	Clouds	高28.5×幅44.0×奥行23.0	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
90	熊倉 順吉	雲の表情	Expression of Clouds	高27.5×幅24.5×奥行13.5	1981	滋賀県立陶芸の森陶芸館
91	八田 焼	鉄絵おろし皿	Grated Radish Plate.Iron Glaze	高3.2×幅15.8×底径6.5	明治時代 から 昭和時代	滋賀県立陶芸の森陶芸館

特別企画

「世界の形象土器」展

趣 旨 世界の各地でつくられているやきものは、自然の中の精霊や祖霊、あがめられている動物がうつわの模様や造形に表現され、その土地の素材である粘土や独特の手法によって制作され、国や場所によってさまざまな姿を見せています。それらには、人々の暮らしの中の祈りにも似た願いが込められており、これらの形象土器はそれぞれの国の特徴を示す芸術であるといえるでしょう。

本展覧会では、当館の1990年代初めの現地調査等を経て収集した、アジアはインド、インドネシア、オセアニアはパプアニューギニア、南米はメキシコ、ペルー、グアテマラなどの世界各地の形象土器の数々を展観しました。



展示構成 総件数 8ヶ国 やきもの130 布4件

〈第一章 アジア〉

インド：ダルバンガ、オランガバード、ウダイプール、バスタ、ゴアルパラ、パンチムラ、カチラバリ、バンクラ、グリニ 35件（他 布4件）

インドネシア：プレレット、カソンガン、バリ島ベジャテン ジャワ島バヤット 22件

日本：沖縄 2件

〈第二章 オセアニア〉

パプアニューギニア：アイボム、デイミリ、セリキム、カマンガウイ、ズミム 39件

〈第三章 中南米〉

メキシコ：ゲレロ、メテベック、グナファト、トナラ 16件

ペルー：アヤクーチョ、プカラ、アマゾン、チュルカナス 13件

グアテマラ：トトニカパン 2件

ブラジル：カラジャ族 1件

会 期 平成30年6月24日(日)～9月24日(月・振) 77日間

〔休館日〕月曜日（7月16日、9月17日、9月24日は開館し、翌日振替休館）

（台風のため7月6日、7日、8月23日午後、9月4日は臨時休園）

主 催 滋賀県立陶芸の森、京都新聞

後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市

観 覧 料 一般 500円（400円）、高大生 380円（300円）

*中学生以下無料（ ）内20人以上の団体料金

入場者数 6,615人（1日平均 82人）

関連行事 (1)レクチャー「インドネシアの野焼土器」川崎 千足氏
 日程：平成30年8月11日(土・祝) 14時～15時30分 参加者数 38人
 会場：視聴覚室

(2)ギャラリートーク（学芸員による展示解説）13時30分～
 日程：平成30年8月12日(日) 参加者数 20人



(3)夏のこどもやきもの特別講座

- ①プログラム：世界にひとつ！オリジナル貯金箱をつくろう！ 参加者数 33人
 7月21日(土) 講師：木ノ戸 久仁子
- ②プログラム：ハンコで埋めよう！誰でもかんたん、ステキなお皿づくり！ 参加者数 26人
 7月22日(日) 講師：橋功 一郎
- ③プログラム：ウェルカムアニマルをつくろう☆ 参加者数 27人
 7月28日(土) 講師：津守 愛香
- ④プログラム：切って！貼って！カラフルなうつわをつくろう☆ 参加者数 34人
 7月29日(日) 講師：高間 智子
- ⑤プログラム：ドキドキ！ワクワク！花びんづくり！ 参加者数 17人
 8月4日(土) 講師：岡田 南央
- ⑥プログラム：楽しくランタンをつくろう！ 参加者数 29人
 8月5日(日) 講師：灘 さとみ

団体案内 7月12日(木) 関西大学第一中学校
 7月14日(土)、15日(日) ユニバーサルミュージアム研究会
 7月24日(火) 甲賀市立貴生川小学校
 7月25日(水) 滋賀県立栗東高等学校
 7月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)、8月4日(土)、5日(日) 特別講座参加者案内
 8月3日(金) 馬渕学区子ども体験活動協議会
 8月22日(水) 滋賀県立信楽高校体験入学
 9月12日(水) 天理市陶芸教室
 9月19日(水) 大阪インターナショナル・スクール
 9月20日(木) 近江八幡市立金田小学校

紹介番組・掲載記事

(1)放送関係

- 8月9日(木)「SUNNYSIDE BALCONY」寺田有美子
- 8月15日(水)「KYOTO AIR LOUNGE」DJ森夏子
- 8月20日(月)「a - MORNING KYOTO」DJ佐藤弘樹
- 8月22日(水)「SUNNYSIDE BALCONY」寺田有美子
- 8月26日(日)「C' S NAVIGATION」DJ川島郁子
- 8月31日(金)「a - MORNING KYOTO」DJ佐藤弘樹
 ケーブルテレビ「あいコムこうか」



(2)新聞・雑誌

- 6月12日(火) 京都新聞 社告
 6月14日(木) 奈良新聞
 6月25日(月) 京都新聞「人々守る世界の土器」
 7月5日(木) 陶業時報「世界の形象土器を特集」
 7月6日(金) 日本経済新聞
 7月13日(金) 中日新聞
 7月26日(木) 毎日新聞「焼き物に見る暮らし・文化」
 8月3日(金) 京都新聞「精霊、祈りのある暮らし」
 8月7日(火) 日本経済新聞「暑さに負けぬ熱さを」
 8月19日(日) 点字毎日「体感ルポ 信楽で土器の制作と鑑賞」
 9月5日(水) 産経新聞「祈り込められた世界の形象土器」
 9月14日(金) 京都新聞 くらしインフォ
 読売新聞県民情報
 8, 9月号 『現代插花』
 7, 8月号 『東海ウォーカー』
 秋号 『炎芸術』
 7, 8, 9月号 月刊『ギャラリー』

(3)インターネット関係

イベントスクランブル／インターネットミュージアム／8/1滋賀報知／KOTOSHIRUBE
 ／滋賀・びわ湖観光情報／いこーよ子どもとおでかけ情報サイト／CAFEVOYAGE／滋賀
 文化のススメ／アストモ／個展なび／SHIGA MAMMA／今見られる全国のおすすめ展覧
 会／HOTEL21／日本美術倶楽部／ほっとする信楽／おでかけMOA／陶芸ネット／先住民
 族ニュース／MUSCA／ほっとミュージアム談話室 他

ミュージアムショップ

メキシコ、ペルーなどの出品作品に関連するやきものの産地の陶器や雑貨、書籍などのグッズを中心と
 した、特集コーナーを設け、好評をいただきました。

■アンケート集計結果

入館者数	6,615人			
回答者数	213人			
回答率	3.2%			
性別	男性	93人	44%	
	女性	115人	54%	
	無回答	5人	2%	
地域	北海道・東北	0人	0%	
	関東・甲信越	0人	0%	
	首都圏	6人	3%	
	北陸	2人	1%	
	東海	20人	10%	
	滋賀県	94人	46%	
	京阪神	57人	28%	
	奈良・和歌山	16人	8%	
	中国	4人	2%	
	四国	1人	0%	
	九州・沖縄	1人	0%	
	無回答	2人	1%	
	展覧会評価	大変満足	74人	35%
		満足	91人	43%
普通		37人	17%	
やや不満		3人	1%	
不満		2人	1%	
無回答		6人	3%	
再来館したいと思いますか	思う	181人	85%	
	思わない	18人	8%	
	無回答	14人	7%	
信楽に来た目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	97人	41%	
	陶芸の森のイベント	20人	8%	
	町内のイベント	2人	1%	
	陶器の購入	17人	7%	
	旅行会社ツアー	2人	1%	
	MIHO MUSEUM	24人	10%	
	学校行事	10人	4%	
	その他	61人	26%	
	無回答	4人	2%	

■作品リスト

【第一章 アジア】

国名	作家名	作品名	作品英名	制作年
インドネシア		取手付壺	Pot with a handle	1980-1990
インドネシア		取手付壺	Brown pot	1980-1990
インドネシア		バスケットを載せた象	Nose up elephant with basket	1980-1990
インドネシア		犬	Dog	1980-1990
インドネシア		座った馬	Sitting Horse	1980-1990
インドネシア		大羊	Big sheep	1980-1990
インドネシア		雄鶏	Cocks	1980-1990
インドネシア		母鳥とひな	Mother birds with baby birds	1980-1990
インドネシア		ガルダとへび	Garuda and snake	1980-1990
インドネシア		男性像	Male figure	1980-1990
インドネシア		水牛の上の人	People on the water buffalo	1980-1990
インドネシア		馬	Horse	1980-1990
インドネシア		ガルダ	Garuda	1980-1990
インドネシア		ライオン(黒)	Lion	1980-1990
インドネシア		ななめロクロによる注器	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる注器	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ガルダとへび	Garuda and snake	1980-1990
インドネシア		馬	Horse	1980-1990
インドネシア		冠型屋根飾り	Crown shaped ornament for roof top	1980-1990
インドネシア		ななめロクロによる貯金箱	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる貯金箱	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる壺	Indonesian pottery	1991
インド		サルシュ王とマイスワール	King Salhesh and Mauiswar	1980-1990
インド		馬に乗る公使—マウトリ	Minister, Mautri on horse	1980-1990
インド		マリン(庭木)	Malin (Garden trees)	1980-1990
インド		ヒンズーの神々のパネル	Plaque of Hindu deities	1980-1990
インド		象(ハティ)	Elephant, hathi	1980-1990
インド		水牛にのる神	Deity on buffalo	1980-1990
インド		馬にのる神	Deity on horse back	1980-1990
インド		馬	Horse	1980-1990
インド		象	Elephant	1980-1990
インド		虎にのる神	Deity on tiger	1980-1990
インド		楽器をひく人	Minstrel	1990年代
インド		陶板(神)	Plaque (Deity)	1980-1990
インド		母と子ども	Mother and child	1980-1990
インド		馬	Horse (Toy)	1980-1990
インド		彩色小犬	Small painted dog	1980-1990
インド		馬	Horse	1980-1990
インド	パシュパティナシュ クンノバハカー	馬	Horse	1992年頃
インド	パシュパティナシュ クンノバハカー	象	Elephant	1992年頃
インド	パシュパティナシュ クンノバハカー	人と馬	Man and Horse	1992年頃
インド	パシュパティナシュ クンノバハカー	母と子ども	Mother and Children	1992年頃
インド		象の灯明台	Elephant shaped sacred light stand	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	イスマール シディク、アイシャバイ シディク	絵皿	Decorative plate	1992年頃
インド	ハンシュバイ カチ	カチの壁(部分)	Kutch Wall	1992年頃
インド		象(ハティ)	Elephant, hathi	1980-1990
インド		象(ハティ)	Elephant, hathi	1980-1990
インド		アヒルのプランター(バタク)	Duck planters, batak	1980-1990
インド		象	Painted toy elephant	1980-1990
インド		母牛と子牛	Mother cow with calves	1980-1990
インド	パシュパティナシュ クンノバハカー	馬	Horse	1992
インドネシア		取手付壺	Pot with a handle	1980-1990
インドネシア		取手付壺	Brown pot	1980-1990

国名	作家名	作品名	作品英名	制作年
インドネシア		バスケットを載せた象	Nose up elephant with basket	1980-1990
インドネシア		犬	Dog	1980-1990
インドネシア		座った馬	Sitting Horse	1980-1990
インドネシア		大羊	Big sheep	1980-1990
インドネシア		雄鶏	Cocks	1980-1990
インドネシア		母鳥とひな	Mother birds with baby birds	1980-1990
インドネシア		ガルダとへび	Garuda and snake	1980-1990
インドネシア		男性像	Male figure	1980-1990
インドネシア		水牛の上の人	People on the water buffalo	1980-1990
インドネシア		馬	Horse	1980-1990
インドネシア		ガルダ	Garuda	1980-1990
インドネシア		ライオン(黒)	Lion	1980-1990
インドネシア		ななめロクロによる注器	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる注器	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ガルダとへび	Garuda and snake	1980-1990
インドネシア		馬	Horse	1980-1990
インドネシア		冠型屋根飾り	Crown shaped ornament for roof top	1980-1990
インドネシア		ななめロクロによる貯金箱	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる貯金箱	Indonesian pottery	1991
インドネシア		ななめロクロによる壺	Indonesian pottery	1991

【第二章 オセアニア】

国名	作家名	作品名	作品英名	制作年
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		盛り皿	Aibom ceremonial bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		盛り皿	Aibom ceremonial bowl	1980-1990
バブアニューギニア		鉢	Kamangai basin bowl	1980-1990
バブアニューギニア		棟飾り	Aibom ridge-end	1980-1990
バブアニューギニア		棟飾り	Aibom ridge-end	1980-1990
バブアニューギニア		棟飾り	Aibom ridge-end	1980-1990
バブアニューギニア		煮炊き用鍋	Aibom cooking pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		かまど	Aibom fire hearth	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用大壺	Aibom sago storage pot	1980-1990
バブアニューギニア		燻製つくりのための容器	Dimiri smoking pot	1980-1990
バブアニューギニア		燻製つくりのための容器	Dimiri smoking pot	1980-1990
バブアニューギニア		料理用皿	Dimiri frying pan	1980-1990
バブアニューギニア		ごとく	Dimiri pot stand	1980-1990
バブアニューギニア		土偶	Dimiri figurine	1980-1990
バブアニューギニア		土偶	Dimiri figurine	1980-1990
バブアニューギニア		木製面	Kamanebit wooden mask	1980-1990
バブアニューギニア		通過儀礼用器	Bowl for the rite of passage	1980-1990
バブアニューギニア		煮炊き用鍋	Zumim cooking pot	1980-1990
バブアニューギニア		料理用皿	Aibom frying pan	1980-1990
バブアニューギニア		煮炊き用鍋	Zumim cooking pot	1980-1990
バブアニューギニア		通過儀礼用器	Bowl for the rite of passage	1980-1990
バブアニューギニア		煮炊き用鍋	Zumim cooking pot	1980-1990
バブアニューギニア		ごとく	Dimiri pot stand	1980-1990
バブアニューギニア		ごとく	Dimiri pot stand	1980-1990
バブアニューギニア		ごとく	Dimiri pot stand	1980-1990
バブアニューギニア		サゴヤシ澱粉貯蔵用壺	Aibom sago storage pot	1980-1990

【第三章 中南米】

国名	作家名	作品名	作品英名	制作年
メキシコ		トリマンの女性像	Figure at Toliman	1980-1990
メキシコ		トリマンの女性像	Figure at Toliman	1980-1990
メキシコ		トリマンの女性像	Figure at Toliman	1980-1990
メキシコ		太陽のマスク	Sun mask	1980-1990
メキシコ		太陽のマスク	Sun mask	1980-1990
メキシコ		馬	Horse	1980-1990
メキシコ		馬	Horse	1980-1990
メキシコ		ライオン	Lion	1980-1990
メキシコ	ルイズ・ブランコ	アツオンパの人形	Atzompa Doll	1980-1990
メキシコ	ルイズ・ブランコ	アツオンパの人形	Atzompa Doll	1980-1990
メキシコ		アツオンパの人形	Atzompa Doll	1980-1990
メキシコ	S.ナバーロ	猫	Cat	1990年代
メキシコ	S.ナバーロ	猫	Cat	1990年代
メキシコ		鳥	Bird	1980-1990
メキシコ		鳥	Bird	1980-1990
メキシコ		鳥	Bird	1980-1990
ペルー		キャンドルスタンド	Unglazed candle-stand	1980-1990
ペルー		キャンドルスタンド	Unglazed candle-stand	1980-1990
ペルー		キャンドルスタンド	Unglazed candle-stand	1980-1990
ペルー		教会	Unglazed church	1980-1990
ペルー		教会	Unglazed church	1980-1990
ペルー		雄牛	Bull	1980-1990
ペルー	シビボ族	人面壺	Shipibo painted pot with face	1980-1990
ペルー	シビボ族	人面壺	Shipibo painted pot with face	1980-1990
ペルー	ヘラシモ・ソサ	仕事をする女	Painted ceramic doll	1990
ペルー	ヘラシモ・ソサ	仕事をする女	Painted ceramic doll	1990
ペルー	ヘラシモ・ソサ	仕事をする女	Painted ceramic doll	1990
ペルー	ヘラシモ・ソサ	仕事をする女	Painted ceramic doll	1990年代
ペルー	ヘラシモ・ソサ	仕事をする女	Painted ceramic doll	1990
グアテマラ		人面火鉢	Ceramic stove	1980-1990
グアテマラ		人面火鉢	Ceramic stove	1980-1990
ブラジル		リココ	Licoco	1980-1990

【第四章 日本】

国名	作家名	作品名	作品英名	制作年
日本	大下 勝弘	シーサー	Shisa	1990
日本	大下 勝弘	シーサー	Shisa	1990

特別展

信楽に魅せられた美の巨匠たち

趣 旨 中世古窯以来の伝統を誇る陶郷・信楽。豊かな自然と陶土に恵まれたこの地では、焼締め陶をはじめ特色あるやきもの文化が育まれてきました。長年にわたり人々の生活を支え続けてきた伝統と多彩な技術への興味や関心から、数多くの作家が信楽を訪れています。これまでも、国内外を問わずさまざまな作家が、この地で作陶を試みてきました。

近代陶芸の巨匠として広く知られる富本憲吉や河井寛次郎、そして現代陶芸の開拓者として活躍した八木一夫や熊倉順吉。また、岡本太郎をはじめ絵画や彫刻の世界で活躍した作家たちも、信楽で作品制作に挑んできました。岡本が1970年の万国博覧会で手掛けた太陽の塔（黒い太陽）は、彼等のそうした活動を象徴する取り組みといえるでしょう。

彼等はどのような経緯でこの地を訪れ、どのような仕事を手掛けてきたのでしょうか。本展では、近現代を代表する作家13人の作品や関連資料を紹介。彼等の信楽での足跡をたどりながら、幅広い交流のなかで育まれてきた信楽のやきもの文化の魅力を探りました。



展示構成 信楽ゆかりの作家13人の作品や関係資料97件を、下記のテーマから紹介。

セクションⅠ 理想を求めて－近代思潮と個人作家の挑戦

富本 憲吉／日根野 作三／熊倉 順吉／河井寛 次郎／濱田 庄司

セクションⅡ 出会いと発見のなかに－新たな創作への揺さぶり

北大路 魯山人／荒川 豊藏／小山 富士夫／八木 一夫／鈴木 治

セクションⅢ 産業とアート－作家を喚起する技術

岡本 太郎／ロバート・ラウシェンバーグ／横尾 忠則

会 期 平成30年10月6日(土)～12月20日(木) 65日間
〔休館日〕月曜日 10月8日 開館、翌10月9日 振替休館

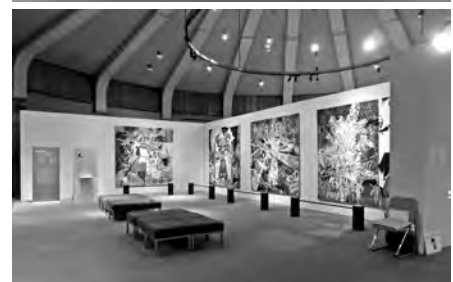
主 催 滋賀県立陶芸の森 京都新聞

後 援 滋賀県教育委員会 甲賀市 NHK大津放送局

特別協力 大塚オーミ陶業株式会社

観 覧 料 一般 700円 (560円) 高大生 500円 (400円)
中学生以下無料 * () 内は20人以上の団体料金

入場者数 7,588人 (1日平均117人)



展覧会図録 『信楽に魅せられた美の巨匠たち』

〔サイズ〕 横長判 縦14.8×横25.6×厚1.0 (cm) 96項

〔内容〕 あいさつ／セクション解説／作家ポートレート・解説・略歴
作品（資料）カラー図版・解説 鈎真一（滋賀県立陶芸の森）

関連行事 (1)ギャラリートーク 担当学芸員による展覧会解説

各作家の信楽での活動と交流など、作品制作の背景を交えて見所を解説しました。

〔日時〕 10月28日(日)、11月11日(日)

*両日とも13時30分～（1時間程度）

〔参加者〕 10月28日 25人、11月11日 20人



(2)親子向け特別講座 知る、つくる、楽しむ - いろいろなやきもの世界

①本格手びねりで、閉じられた形のランプシェードづくり

成形の基本となる手捻りを用いた制作に挑戦しました。紐状の粘土を積み上げ、口を徐々にすぼめながら閉じた形をつくり、ランプシェードを制作しました。難しい技術でしたが、スタッフの指導のもと保護者と協力して、個性あふれる魅力的な作品が完成しました。

〔日程〕 10月13日(土)

〔講師〕 笹山 忠保（甲賀市指定無形文化財技術保持者）

〔参加者〕 23人

〔後援〕 甲賀市教育委員会



②カラービーズで彩る 色模様のお皿づくり！

石膏型やスタンプ（印章）、ガラスビーズで装飾した皿を制作。小さなビーズの扱いに戸惑う低学年の参加者もいましたが、最後まで集中して制作に取り組むことが出来ました。なかには終了時間いっぱいまで、夢中にビーズを付けている家族もいらっしゃいました。

〔日程〕 10月21日(日)

〔講師〕 松本 治幸（陶芸家）

〔参加者〕 20人

団体案内 *印は世界にひとつの宝物づくり事業・子どもやきもの交流事業関連

*10月11日(木)	甲賀市立貴生川小学校／長邪魔私立速水小学校	校外学習	155人
	城陽市立青谷小学校5年生	校外学習	48人
10月16日(火)	高槻市塚原台ハイツなごみ		36人
	悠ツアー		21人
*10月18日(木)	大津市立中央小学校4年生	校外学習	43人
10月19日(金)	滋賀県立信楽窯業技術試験場研修	学外授業	10人
10月26日(金)	滋賀県立信楽高校2年生セラミック系列	特別授業	11人
*	湖南市立三雲小学校3年生	校外学習	87人
*11月8日(木)	草津市立草津小学校4年生	校外学習	79人
*11月15日(木)	栗東市立葉山東小学校4年生	校外学習	83人
11月16日(金)	野洲市立三上小学校4年生	校外学習	33人

	滋賀県立信楽高校2年生セラミック系列 特別授業	11人
	とこなめ焼技術協議会 視察研修	21人
*11月20日(火)	栗東市立治田小学校4年生 校外学習	100人
11月29日(金)	滋賀県立信楽高校2年生セラミック系列 特別授業	12人
12月1日(土)	びわこ成蹊スポーツ大学 学外授業	38人
12月2日(日)	箕面市陶芸愛好会	20人
12月9日(日)	日本遺産認定特別巡回展関連 ガイドツアー	32人
*12月11日(火)	栗東市立金勝小学校4年生 校外学習	90人

紹介番組・掲載記事

(1)放送関係

10月24日(水) ラジオ大阪 青木和雄の昼までええやん! 「関西おもしろっ!」

(2)インターネット

12月7日(金) マガジンハウスweb版『Casa Brutus』12月陶郷・信楽の魅力を探る展覧会が滋賀県で開催中!

旅する、千年、六古窯web(六古窯日本遺産活用協議会)/陶芸の森web/京都新聞web/大塚オーミ陶業web/ARTLOGUE展覧会(アートローグ)/HOTEL21web/滋賀・びわ湖観光情報(びわこビジターズビューロー)/展覧会ニュース(cafeポヤージュ)/イベントスクランブル(産業経済新聞社)/*maia's room*(個人ブログ)/ほっとする信楽イベント情報(信楽観光協会)/障がい者dB(個人web)/Internet Museum(丹青社)/travel.jp(フォートラベル)/滋賀文化のススメ(滋賀県文化振興事業団)/アストモ展示会・博覧会(バイザー株式会社)/岩と雪(個人blog)/関西文化.comイベント(関西元気文化圏推進協議会)/個展なび(個展なび)/「にゃん」の針しごと(個人blog)/陶芸ネット(RESERVED)/イベント情報(ぶらっと信楽web)/MusCa(株式会社ビーシャープ)

(3)新聞・雑誌など(抜粋)

①新聞

9月8日(土) 京都新聞 朝刊(社告) 信楽に魅せられた美の巨匠たち(カラー)
 9月20日(木) 京都新聞 夕刊(社告) 信楽に魅せられた美の巨匠たち(カラー)
 10月3日(水) 京都新聞 朝刊(特集) 湖国の陶郷 息づく造形美(カラー)
 10月6日(土) 京都新聞 朝刊(社会) 著名作家ら信楽焼へ熱視線(カラー)
 11月26日(月) 京都新聞 折込(広告) 信楽に魅せられた美の巨匠たち(カラー)
 11月30日(金) 京都新聞 折込(広告) 信楽に魅せられた美の巨匠たち(カラー)
 12月1日(土) 京都新聞 朝刊(美術) 芸術と時代と人の交流史(カラー)
 12月7日(金) 京都新聞 朝刊(情報) 美の巨匠の足跡を紹介(カラー)

・京都新聞 半五段有料紙面広告 10月6日・19日・24日、11月3日・13日・22日、12月1日・12日

*10月6日は京都・滋賀共通面に掲載

②雑誌・その他

10月1日(月) 生活の友社 『アートコレクターズ』展覧会ガイド(カラー)
 11月1日(木) 阿部出版 『炎芸術』展覧会を見に行こう(カラー)
 12月1日(土) 中山文甫会 『現代插花』MUSEUM 美術館の催し(カラー)
 12月1日(土) 誠文堂新光社 『陶工房』展覧会レビュー&レポート(カラー)
 12月1日(土) 地域創造 『地域創造レター』今月の情報
 12月1日(土) ギャラリーステーション 『GALLERY』スケジュール

■アンケート集計結果

入館者数	7,588人（1日平均117人）		
回答者数	144人		
回答率	2%		
性別	男性	71人	49%
	女性	69人	48%
	無回答	4人	3%
地域	滋賀県	80人	58%
	京阪神・奈良・和歌山	43人	30%
	東海	11人	8%
	関東・甲信越	1人	1%
	四国	1人	1%
	その他（含無回答）	0人	0%
展覧会評価	大変満足	53人	37%
	満足	64人	44%
	普通	18人	13%
	やや不満	1人	1%
	不満	0人	0%
	無回答	8人	6%
再来館したいと思いませんか	思う	124人	86%
	思わない	10人	7%
	無回答	10人	7%
信楽に来た目的 （複数回答あり）	陶芸の森の展覧会	82人	50%
	陶芸の森のイベント	12人	7%
	町内のイベント	2人	1%
	陶器の購入	11人	7%
	旅行社ツアー	2人	1%
	MIHOMUSEUM	10人	6%
	学校行事で	6人	4%
	その他	32人	20%
	無回答	6人	4%

■作品リスト

セクションⅠ 理想を求めてー近代思潮と個人作家の挑戦

No.	作者・窯(産地)名	国名	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	所蔵
1	富本 憲吉	日本	白磁大壺	1941/昭和16年	高27.0×口径21.0× 胴径36.1×底径21.6	岐阜県現代陶芸美術館
2	富本 憲吉	日本	染付陶板 京城東大門満月	1934/昭和9年	高2.0×径27.6	東京国立近代美術館
3	富本 憲吉	日本	色絵四弁花更紗模様六角節筥	1945/昭和20年* 八角銘に因み昭和18 (1943)年説あり	高6.6×幅25.4×奥行22.1	奈良県立美術館
4	富本 憲吉	日本	色絵金彩羊歯模様角瓶	1960/昭和35年	高21.0×口3.2×幅・奥行7.0×底5.9	奈良県立美術館
5	富本 憲吉	日本	土焼鉄描銅彩大和風景大皿	1929/昭和4年	高7.3×径46.5	滋賀県立陶芸の森(J-124)
6	富本 憲吉	日本	鉄描銅彩野葡萄文壺	1929/昭和4年	高20.8×口径8.0×胴径17.4×底 径10.0	個人蔵
7	富本 憲吉	日本	鉄描銅彩竹林月夜文皿	1950/昭和25年	高6.8×口径30.4×底径16.4	個人蔵
8	滋賀県立信楽窯業試験場 (富本憲吉絵付)	日本	鉄描銅彩「富貴」字火鉢	1951/昭和26年	高26.3×口径40.0×胴径40.5× 底径28.8	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
9	山茶窯 (小森忍デザイン・ 日根野作三描画)	日本	ラスター彩皿	c.1930/昭和5年頃	高1.8×口径16.3×底径9.5	多治見市美濃焼ミュージアム
10	山茶窯 (日根野作三デザイン・描画)	日本	ラスター彩皿	1929-1933/ 昭和4-8年	高1.4×口径13.3×底径8.0	多治見市美濃焼ミュージアム
11	商工省陶磁器試験所 (日根野作三デザイン)	日本	彩色人魚灰皿	1934/昭和9年	高18.0×径16.5×底径7.6	国立研究開発法人産業技術 総合研究所中部センター(愛 知県陶磁美術館管理)
12	日根野 作三	日本	宝瓶	1948/昭和23年	高9.5×幅9.0×奥行8.5×底径 6.0	多治見市美濃焼ミュージアム
13	日根野 作三	日本	青線文楽茶碗	1960-79/ 昭和35-54年	高26.9×口径11.6×胴径16.8× 腰径15.0×底径9.0	個人蔵
14	岐阜県陶磁器試験場 (日根野作三デザイン)	日本	色絵鳥文四方花挿	1954/昭和29年	高30.7×幅・奥行10.0	岐阜県セラミックス研究所
15	愛知県陶磁器試験場 (日根野作三デザイン)	日本	朱泥金彩花器	1958/昭和33年	高30.0×口径8.5×頸径7.5×胴 径13.0×底径9.8	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター常滑窯業試験場
16	滋賀県立信楽窯業試験場 (日根野作三デザイン)	日本	ガーデンライト (陶製照明器具)	1959/昭和34年	高65.0×幅33.5×奥行33.5	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場 (滋賀県立陶芸の森管理)
17	熊倉 順吉	日本	作品	1950-1959/ 昭和25-34年	高40.5×幅33.0×奥行44.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-002)
18	熊倉 順吉	日本	困却 64-A	1964/昭和39年	高40.5×幅33.0×奥行44.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-004)
19	熊倉 順吉	日本	くろい女	1974/昭和49年	高48.0×幅26.0×奥行14.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-131)
20	熊倉 順吉	日本	楽奏-79	1979/昭和54年	高44.0×幅33.5×奥行15.5	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-012)
21	熊倉 順吉	日本	雲	1981/昭和56年	高28.5×幅44.0×奥行23.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-020)
22	熊倉 順吉	日本	信楽壺	1960-1969/ 昭和35-44年	高29.0×径29.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-128)
23	滋賀県立信楽窯業試験場 (熊倉順吉デザイン)	日本	ガーデン・オブジェ(照明具)	1962/昭和37年	高84.5×幅60.0×奥行20.0	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場 (滋賀県立陶芸の森管理)
24	滋賀県立信楽窯業試験場 (熊倉順吉デザイン)	日本	干支(酉・戌・亥・子・丑・辰)	1968-1975/ 昭和43-50年	酉(1968)高15.1×幅17.4×奥行 6.4/戌(1969)高16.5×幅23.0 ×奥行5.3/亥(1970)高13.0× 幅23.0×奥行21.0/子(1971) 高6.3×幅16.7×奥行19.0/丑 (1972)高12.0×幅21.0×奥行 8.0/辰(1975)高22.0×幅16.5	滋賀県立陶芸の森陶芸館 (C-090-091-092-085-087-088-089)
25	河井 寛次郎	日本	青瓷 血文花	1924/大正13年	高17.0×口径8.7・9.7×頸径5.0× 胴径13.5×底径6.5-7.0	京都国立近代美術館
26	河井 寛次郎	日本	流掛壺	1933/昭和8年	高24.0×口径7.7×胴径20.0×底径8.8	京都国立近代美術館
27	河井 寛次郎	日本	打薬扁壺	1940/昭和15年	高22.5×口径4.5・5.4×幅23.0× 奥行10.5×底径20.5-10.0	京都国立近代美術館
28	河井 寛次郎	日本	青葉抜蠟菱花扁壺	1941-1944/ 昭和16-19年	高19.9×口幅8.8・7.4× 胴幅26.5・11.8×底幅15.4・6.4	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
29	河井 寛次郎	日本	呉州辰砂菱花六角食籠	1941-1944/ 昭和16-19年	高9.8×口幅10.9・12.1× 胴幅12.2・13.4×底幅7.1・7.6	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
30	河井 寛次郎	日本	辰砂菱花食籠	1941-1944/ 昭和16-19年	高10.0×口幅11.4×胴幅12.5× 底幅8.8	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
31	河井 寛次郎	日本	白地草花文隅切鉢	1941-1944/ 昭和16-19年	高7.6×口幅20.3・20.0× 底幅17.4・17.6	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
32	河井 寛次郎	日本	呉州釉陶彫	c.1962/昭和37年頃	高43.5×幅23.5×奥行17.5	京都国立近代美術館
33	濱田 庄司	日本	白釉抜絵笹文鉢	1938-1940/ 昭和13-15年	高9.8×口径17.4×胴径18.2× 底径8.4	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
34	濱田 庄司	日本	柿釉網目文筒描注瓶	c.1940/昭和15年頃	高18.1×口径10.1・8.5× 胴径17.3・13.0×底径9.3	個人蔵

No.	作者・窯(産地)名	国名	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	所蔵
35	濱田 庄司	日本	柿釉青差鉢	1938-1940/ 昭和13-15年	高6.3×口径18.6×胴径19.8×底 径10.4	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
36	濱田 庄司	日本	柿釉赤絵扁壺	1969/昭和45年	高15.7×幅22.0×奥行8.9	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-110)
37	滋賀県立窯業試験場 (濱田庄司デザイン)	日本	宮形火鉢	1942/昭和17年	高27.2×口径41.6×腰径41.0× 底径35.6	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
参考品1	信楽	日本	花立て	19C前半/1801-1850	銅青磁大=高12.8×口径7.5× 頸頸6.4・3.2×胴径6.1×底径5.1 /銅青磁小=高10.2×口径6.3 ×頸頸5.2・2.6×胴径5.1×底径 4.4/白萩釉=高10.5×口径6.0 ×頸頸6.0・3.1×胴径5.0×底径 4.1/黒釉=高10.2×口径7.8× 頸頸6.0・3.0×胴径5.8×底径4.2	個人蔵
参考品2	信楽	日本	青簾茶壺	19C-20C前半/ 江戸時代-明治時代	高33.0×胴径25.3×口径16.2× 底径13.2	滋賀県立陶芸の森陶芸館 (SO-188)
参考品3-1	滋賀県立窯業試験場	日本	カップ&ソーサー	1935-1944/ 昭和10-19年	カップ=高5.5×幅11.6×奥行(口 径)9.3×底径4.3/ソーサー= 高2.1×径14.0×底径6.7	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
参考品3-2	滋賀県立窯業試験場	日本	カップ&ソーサー	1935-1944/ 昭和10-19年	カップ=高5.5×幅11.2×奥行(口 径)8.9×底径4.2/ソーサー= 高2.6×径14.7×底径6.3	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
参考品4	滋賀県立窯業試験場	日本	カップ&ソーサー	1935-1944/ 昭和10-19年	カップ=高5.0×幅11.6×奥行(口 径)9.5×底径4.8/ソーサー= 高2.3×径14.7×底径7.8	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
参考品5	信楽	日本	山水土瓶	19C/1801-1900	高13.6(把手付20.0)×口径9.3 ×幅19.3×奥15.3×底径8.3	個人蔵
資料1	富本 憲吉	日本	平野敏三にあてた書簡	1951/昭和26年	書簡	個人蔵
資料2	日根野 作三	日本	賞状 アメリカワシントン州国際貿易 見本市(アメリカ)優良デザイン賞	1959/昭和34年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料3	日根野 作三	日本	スケッチブック	1930/昭和5年	縦18.8×横13.0×厚2.4(スケッチ ブック)	多治見市美濃焼ミュージアム
資料4	日根野 作三	日本	図案 彩色人魚灰皿	1934/昭和9年	縦38.9×横54.0	国立研究開発法人産業技術 総合研究所中部センター (愛知県陶磁美術館管理)
資料5	日根野 作三	日本	図案 色絵烏文四方花挿	1954/昭和29年	縦39.5×横27.5	岐阜県セラミックス研究所
資料6	日根野 作三	日本	図案 朱泥金彩花器	1958/昭和33年	縦39.5×横27.5×厚2.5(図案集)	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター常滑窯業試験場
資料7	日根野 作三	日本	図案 ガーデンライト(陶製照明具)	1959/昭和34年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料8	熊倉 順吉	日本	図案 ガーデンオブジェ(照明具)	1962/昭和37年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料9	熊倉 順吉	日本	ガーデンファニチャー展 (東京/丸善)パンフレット	1963/昭和38年		個人蔵
資料10	不詳(新聞記事)	日本	南方へ伸びる信楽焼、名匠 河井氏の指導受く	1942/昭和17年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料11-1	不詳(新聞記事)	日本	展けるか信楽火鉢、の新生面 さらに河合氏から色彩指導を受く	1942/昭和17年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料11-2	不詳(新聞記事)	日本	畏し御下命の代替品光栄に感 激の信楽陶器工組	1942/昭和17年		滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場

■セクションⅡ 出会いと発見のなかに—新たな創作への揺さぶり

No.	作者・窯(産地)名	国名	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	所蔵
38	北大路 魯山人	日本	染付烏文花入	1935-1944/ 昭和10-19年	高29.4×口径13.0×胴径22.7× 底径15.0	日登美美術館
39	北大路 魯山人	日本	色絵牡丹文鉢	c.1935/昭和10年頃	高13.2×口径24.2×底径10.0	東京国立近代美術館
40	北大路 魯山人	日本	織部花入	1953-1956/ 昭和28-31年	高26.5×口径11.1×頸径8.9× 胴径21.0×底径11.0	日登美美術館
41	北大路 魯山人	日本	赤絵金襴手向付	c.1938/昭和13年頃	高7.5×口径9.0×底径3.7	東京国立近代美術館
42	北大路 魯山人	日本	信楽茶碗	1930-1939/ 昭和5-14年	高8.5×口径11.7×底径4.2	個人蔵
43	北大路 魯山人	日本	書 樂水樂山	1930-1939/ 昭和5-14年	高102.0×幅117.4(衝立=高 118.0×幅133.0×奥行37.1)	個人蔵
44	荒川 豊藏	日本	志野山の絵茶碗 銘 瑞雲	1960/昭和35年	高8.4×口径12.5・12.9× 胴径13.2×底径7.0	荒川豊藏資料館
45	荒川 豊藏	日本	瀬戸黒金彩木葉文茶碗	1971/昭和46年	高9.3×口径13.2・14.0×底径6.9	岐阜県美術館
46	荒川 豊藏	日本	黄瀬戸杵形花生	1953/昭和28年	高21.0×口径3.1(5.2)×肩径8.4 ×胴径10.3×底径7.1	愛知県陶磁美術館 川崎音三 コレクション

No.	作者・窯(産地)名	国名	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	所蔵
47	荒川 豊藏	日本	染付赤絵桃花流水水指	1972/昭和47年	高11.6×幅21.6×奥行18.0×底径13.4	愛知県陶磁美術館 川崎音三コレクション
48	荒川 豊藏	日本	信楽茶碗	c.1978/昭和53年頃	高9.0×口径11.8・11.4×底径6.5	個人蔵
49	小山 富士夫	日本	斑唐津水指	c.1964/昭和39年頃	高14.3×口径18.6・17.6×底径17.5・17.1	岐阜県美術館
50	小山 富士夫	日本	種子島水指	1973-1975/昭和48-50年	高10.8(蓋付13.0)×口径16.7・16.1×胴径15.0・15.4×底径17.4・17.0	土岐市美濃陶磁歴史館
51	小山 富士夫	日本	白搔落花生	1973-1974/昭和48-49年	高22.2cm×口径7.3×胴径20.0×底径10.7	岐阜県現代陶芸美術館
52	小山 富士夫	日本	宋赤絵風色絵花茶碗	1969/昭和44年	高6.3×口径14.3×底径5.4	岐阜県美術館
53	小山 富士夫	日本	信楽茶碗		高9.2×口径11.4・13.2×底径6.7	個人蔵
54	小山 富士夫	日本	信楽水指		高13.0×口径9.8×胴径21.5×底径10.2	個人蔵
55	八木 一夫	日本	鉄象嵌花壺	1959/昭和34年	高29.2×口径12.8×底径6.1	個人蔵
56	八木 一夫	日本	信楽土管	1966/昭和41年	高28.0×幅77.0×奥行15.5	柳澤コレクション
57	八木 一夫	日本	壁体	1963/昭和38年	高30.5×幅55.0×奥行10.0(台付)	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-031)
58	八木 一夫	日本	ボルトとナット	1974/昭和49年	高43.0×幅19.2×奥行14.6	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-123)
59	八木 一夫	日本	白書	1972/昭和47年	高4.5×幅27.4×奥行20.5	京都国立近代美術館
60	滋賀県立信楽窯業試験場(八木一夫デザイン)	日本	干支(寅)	1961/昭和36年	高20.6×幅29.8×奥行6.2	滋賀県立陶芸の森陶芸館(C-003)
61	鈴木 治	日本	作品	1950-1959/昭和25-34年	高40.5×幅37.0×奥行10.5×底径9.4	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-307)
62	鈴木 治	日本	はばたく鳥	1973/昭和48年	高32.0×幅35.5×奥行21.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-033)
63	鈴木 治	日本	上を向く馬	1975/昭和50年	高38.7×幅17.2×奥行8.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-105)
64	鈴木 治	日本	波の化石	1988/昭和63年	高39.0×幅19.8×奥行21.6	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-100)
65	鈴木 治	日本	弁慶	1988/昭和63年	高21.5×幅51.5×奥行20.0(台付)	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-099)
66	鈴木 治	日本	秋日	1988/昭和63年	高31.6×幅25.8×奥行17.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-101)
資料12	荒川 豊藏	日本	画 信楽窯所見	1977/昭和52年		荒川豊藏資料館
資料13	荒川 豊藏	日本	写生帖 信楽から到来の/たらの芽と山宇(活)独の芽	1978/昭和53年	縦13.0×横19.0×厚22.0(写生帖)	荒川豊藏資料館
資料14	荒川 豊藏	日本	出入帖(宿帖)	1957/昭和32年	縦27.3×横38.0×厚8.0(出入帖)	荒川豊藏資料館
資料15	小山 富士夫	日本	書「山清水清人亦清 我不清」		縦27.2×横24.2×厚0.2	個人蔵

■セクションⅢ 産業とアートー作家を喚起する技術

No.	作者・窯(産地)名	国名	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	所蔵
67	岡本 太郎	日本	犬の植木鉢	1954/昭和29年	高39.0×幅54.0×奥行14.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館(J-351)
68	岡本 太郎	日本	坐ることを拒否する椅子	1963/昭和38年	高45.0×径40.0	川崎市岡本太郎美術館
69	岡本 太郎	日本	むすめ	1978/昭和53年	高29.0×幅26.0	個人蔵
70	岡本 太郎	日本	黒い太陽の顔(ミニチュア)	1970/昭和45年	高6.5×径30.0	個人蔵
71	岡本 太郎	日本	太陽の塔(ミニチュア)	c.1970/昭和45年頃	高40.0×幅40.0×奥行11.5	個人蔵
72	岡本 太郎	日本	ティーセット-夢の鳥	1977/昭和52年	ポット=高32.8×幅38.0×奥行13.0×口径6.6×底径11.4・8.4、水差=高11.3×幅23.0×奥行10.0×底径7.8・6.0、シュガーポット=高17.0×口径7.8×頸径2.0×底径6.8、クリーマー=高7.1×幅14.2×奥行6.4×底径4.2、カップ=高6.0×幅13.0×奥行8.8×底径4.8、ソーサー=高1.8×口径15.0×底径8.0	川崎市岡本太郎美術館
73	岡本 太郎	日本	ひらく肖像	1982/昭和57年	高50.5×幅40.0×奥行38.0×頸径10.0×底径15.0	川崎市岡本太郎美術館
74	岡本 太郎	日本	まなざし	1987/昭和62年	高6.3×口径13.2・12.4×底径5.2	川崎市岡本太郎美術館
75	ロバート・ラウシェンバーグ	アメリカ	ゲート・シュライン(西)	1982/昭和57年	高250.0×幅470.0	大塚オーミ陶業株式会社
76	ロバート・ラウシェンバーグ	アメリカ	ゲート(西)	1982/昭和57年	高247.0×幅340.0	大塚オーミ陶業株式会社
77	ロバート・ラウシェンバーグ	アメリカ	ムーン・ドラッガー(西)	1982/昭和57年	高200.0×幅60.0×奥行40.5	大塚オーミ陶業株式会社
78	ロバート・ラウシェンバーグ	アメリカ	アクセス(西)	1982/昭和57年	高289.0×径16.0	大塚オーミ陶業株式会社
79	ロバート・ラウシェンバーグ	アメリカ	Untitled	1982/昭和57年	高250.0×幅180.0	大塚オーミ陶業株式会社
80	横尾 忠則	日本	EDO PERIOD 1603 1868	1986/昭和61年	高240.0×幅240.0	大塚オーミ陶業株式会社
81	横尾 忠則	日本	EDO to MEIJI 1868 1911	1985/昭和60年	高240.0×幅240.0	大塚オーミ陶業株式会社
82	横尾 忠則	日本	1960s	1985/昭和60年	高240.0×幅240.0	大塚オーミ陶業株式会社
83	横尾 忠則	日本	PRESENT	1986/昭和61年	高240.0×幅240.0	大塚オーミ陶業株式会社

特別企画

「陶の花 FLOWERS—春、美術館でお花見」展

趣 旨 春めく季節。春から初夏にかけての頃は、わたしたちが花に最も親しみを感じる季節かもしれません。花は、古来より世界各地の様々な芸術のジャンルにおいて表現されてきました。もちろん、やきものの世界でも例外ではありません。東洋陶磁においては華やかな花をさまざまに意匠化した吉祥文様が器を彩り、人々は幸せな人生への願いを込めた花の陶磁器を好まれてきました。また日本では、明治時代に欧米から導入された最新技術や意匠（デザイン）を用いて、建築用タイルやインテリア用品など様々なものが陶磁器で制作されました。中でも最も好まれたのが、西洋と東洋の花を融合させた花のモチーフでした。そして現代陶芸においても、花を表現の源とする作家は多く活躍しています。美しさ、儚さ、生命力、清々しさなど、花のイメージを自己の作品に重ね合わせ、それぞれの思いをもって表現をおこなっているのです。

本展では、「花」を入り口にして近世、近代、現代という様々な時代の陶芸表現の世界を探りました。



- 展示構成**
- 第Ⅰ章 <—現代— 花咲く器>
現代作家による花モチーフのうつわを紹介
 - 第Ⅱ章 <—近代— 近代建築に咲いた花>
明治から昭和初期の建築を彩った花のタイルやエクステリアを紹介
 - 第Ⅲ章 <—近世— 古の器に咲いた花>
湖東焼、古伊万里など近世の江戸時代の器に描かれた花文様から、吉祥への願いを込めた先人たちの花への思いを探る。
 - 第Ⅳ章 <—現代— 陶の花は語る>
現代のアーティストたちは花をどのようなイメージでとらえ、表現しているのか？作家の言葉と共に作品を紹介。

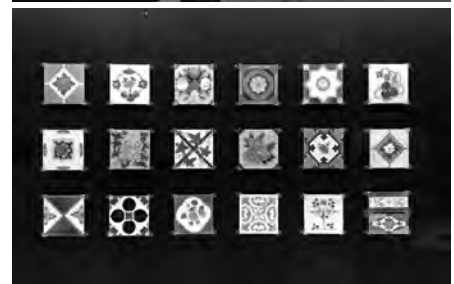
会 期 平成31年3月12日(火)～3月31日(日) 18日間
※次年度への継続事業～6月9日(日)
〔休館日〕毎週月曜日
4月29日(月・祝)、5月7日(火)は振替休館

主 催 滋賀県立陶芸の森、京都新聞

後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市、エフエム京都

観 覧 料 一般 500円(400円) 高大生 380円(300円)
中学生以下無料 * () 内は20人以上の団体料金

入場者数 平成30年度 1,437人(1日平均 80人)



関連行事 (1)子ども向け体験講座

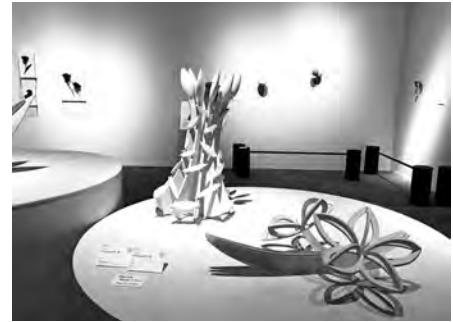
「春らんまん 花のうつわをつくろう！」(つちっこプログラム特別講座)

〔日 時〕 3月23日(土) 10時～15時

〔講 師〕 田中 哲也 (陶芸家)

〔会 場〕 信楽産業展示館 創作室

〔参加者数〕 9人



(2)町内ギャラリーとの連携イベント「信楽まちなかギャラリーでArtな花巡り」

本展会期中に信楽町内の企画ギャラリーでも「花」をテーマとした展示がオープンしました。
平成30年度参加ギャラリー：かまーとの森、クラフト&ギャラリーきりん

(3)陶芸の森内のカフェレストランBROWN RICE&WATERで、展覧会会期中限定メニューを提供

同時開催

細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展

会 期：平成31年 3月12日(火)～ 3月31日(日)

細川 正廣 氏（滋賀県在住）によって陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりのやきもの
信楽焼、湖東焼、門平焼、小富士焼、下田焼など約40点を展示

掲載記事等

(1) テレビ・ラジオ

FM京都 開催予告および開催中告知放送

3月12日(火) きらりん滋賀「美術館でお花見? 「花」がテーマの陶芸作品展」

3月31日(日) びわこ放送 なるほどミュージアム

(2)新聞

3月6日(水) 京都新聞夕刊 社告

3月15日(金) 産経新聞 春の特別展花ざかり

(3)雑誌、フリーペーパー

3月4日(月) トマト倶楽部

3月19日(火) 東海さんぽ旅4 信楽から海外まで世界の陶芸を紹介

(4)インターネット関係

京都新聞アート&イベント情報サイト「ことしるべ」／ぶらり美術館／関西文化Com.／
ストリート・アート・ナビ／ミュージアム・カフェ／信楽町観光協会／びわこビクターズ
ビューロー／artspace／大阪芸術大学附属美術専門学校HP／mujam.jp など

■作品リスト

Section 1 現代 現代作家の花咲く器

No	制作者	作品名	寸法(cm)	製作年	点数	所蔵先
1	中島 清	牡丹文陶花生	高35.0×直径20.0	昭和14年(1939)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
2	熊倉 順吉	釉彩花絵壺	高29.0×直径28.2	昭和24年(1949)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
3	今泉 今右衛門 (13代)	色絵薄墨珠樹文蓋付壺	高60.0×直径31.4	平成 8年(1996)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
4	廣田 忠美	秋明菊文角瓶	高36.4×幅16.0×奥行16.0	平成13年(2001)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
5	谷野 明夫	黒地堆二彩抜絵花文飾壺	高34.0×直径23.0	平成10年(1998)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
6	谷野 明夫	黒地堆二彩抜絵花小紋飾鉢	高13.0×直径47.6	平成17年(2005)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
7	谷野 明夫	黒地縞堆二彩小花紋陶筥	高6.0×幅36.5×奥行36.5	平成29年(2017)	1	個人蔵
8	赤地 健	赤絵花文蓋物	高18.5×幅28.2×奥行26.6	平成10年(1998)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
9	赤地 健	赤絵花文蓋物	高18.5×幅28.2×奥行26.6	平成10年(1998)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
10	落合 美代子	白地搔落花文大壺	高35.0×直径26.7	平成15年(2003)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
11	林 小六	琺瑯彩薫風師壺	高23.0×直径32.5	平成10年(1998)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
12	神山 清子	信楽ラスター彩菊花文壺	高36.5×幅27.8×奥行23.2	平成 5年(1993)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
13	神山 清子	信楽自然釉蓋物	高15.0×直径16.0	平成 5年(1993)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
14	今井 政之	塩窯鉄線壺	高39.0×直径41.0	平成 2年(1990)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
15	鈴木 治	爐花	高12.5×直径10.0	昭和52年(1977)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
16	安田 佳代	氷結の花	高51.0×幅51.6×奥行27.4	平成14年(2002)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
17	神谷 紀雄	鉄絵銅彩秋海棠文鉢	高11.0×幅43.8×奥行37.8	平成27年(2015)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館

Section 2 近代 近代建築に咲いた花

No	制作者	作品名	寸法(cm)	製作年	点数	所蔵先
18	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜風車に蝶＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
19	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜葡萄＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
20	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜紫陽花飾＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
21	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜流水に杜若と沢瀉＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
22	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜樹上に鳩(緑羽)＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
23	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜紫木蓮に大鷹＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
24	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜枝垂桜に山雀二羽＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
25	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜吊り鉢に桜花と鳥＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
26	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜雪囲いに薔薇＞	高60.4×15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
27	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜流水に萩＞	高60.4×15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
28	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜岩に大鷹＞	高60.4×15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
29	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜滝に松＞	高60.4×15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
30	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜夕日に薄＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
31	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜檜扇＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
32	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜松に葛＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
33	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜樹上に鳩(青羽)＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
34	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜流水に花菖蒲と河骨と沢瀉＞	高60.4×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
35	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜柳に鳥の子＞	高60.4×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
36	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜網代に菊＞	高60.4×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
37	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜菊に鳥＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
38	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜竹と辛夷に雪雀＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
39	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜流水に桃花と枯れ芦＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
40	ゴットフリート・ワグネル／ 旭焼製造組合	袖下彩装飾タイル ＜流水に萩と千鳥二羽＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場

No	制作者	作品名	寸法(cm)	製作年	点数	所蔵先
41	ゴットフリート・ワグネル／旭焼製造組合	釉下彩装飾タイル ＜菊に蝶＞	高60.4×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
42	ゴットフリート・ワグネル／旭焼製造組合	釉下彩装飾タイル ＜実南天に鳥＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
43	ゴットフリート・ワグネル／旭焼製造組合	釉下彩装飾タイル ＜椿と笹に鶴＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
44	ゴットフリート・ワグネル／旭焼製造組合	釉下彩装飾タイル ＜阿蘭陀海芋に鳥三羽＞	高75.5×幅15.1×厚み1.0	明治23-29年 (1890-1896)	5枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
45	農商務省陶磁器試験所	宝相華文装飾レリーフタイル	高67.0×幅67.0×厚み3.3cm	大正10年-昭和初期頃 (1921-1930年頃)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
46	農商務省陶磁器試験所	彩釉松藤文装飾レリーフ陶板	高62.0×幅137.3×厚み3.2	昭和4年 (1929)	22枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
47	農商務省陶磁器試験所	彩釉花鳥図装飾レリーフタイル	高72.5×幅144.5×厚み5.7	大正10年-昭和初期頃 (1921-1930年頃)	18枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
48	農商務省陶磁器試験所	金彩布目花唐草文タイル	高18.8×幅16.0×厚み1.8	大正11年頃 (1922年頃)	4枚組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
49	農商務省陶磁器試験所	四つ兎装飾電燈飾	高100.3×幅35.0×奥行35.0	昭和5年 (1930)	2点組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
50	農商務省陶磁器試験所	秩父宮邸陶器製装飾電燈台	高245.0×幅30.3×奥行26.0	昭和2年 (1927)	5点組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
51	農商務省陶磁器試験所	伊羅保袖透彫花文タイル	高23.5×幅23.5×厚み4.0	昭和4年 (1929)	1	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
52	農商務省陶磁器試験所	色釉透彫花文タイル	高16.3×幅16.3×厚み3.0	昭和4年頃 (1929年頃)	1	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
53	滋賀県立窯業試験場	透彫花唐草文ストーブカバー	高78.5×直径47.4	昭和4-19年 (1929-1944)	3点組	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
54	淡陶株式会社	花文様のマジョリカタイル	高15.0～15.6×幅15.0× 15.6×厚み0.9～1.1	明治後期-昭和10年頃 (20世紀前半頃)	19	個人蔵

Section 3 近世 古の器に咲いた花

No	制作者	作品名	寸法(cm)	製作年	点数	所蔵先
55	湖東焼	染付梅花図水鉢	高24.8×口径38.8×底径19.8	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
56	門平焼	鉄絵梅花文小鉢	高3.4×口径10.5	明治時代-昭和初期 (19世紀後半-20世紀前半)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
57	圓山湖東焼	染付梅牡丹文茶心壺	高11.3×直径9.2×底径6.4	明治時代初期 (19世紀後半)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
58	圓山湖東・耕堂絵付け	染付梅牡丹菊花文建水	高8.7×口径9.0×奥行10.7×底径6.3	明治2年 (1869)	1	個人蔵
59	古伊万里焼	染付桜花文輪花皿	高3.6×直径21.4×底径14.4	江戸時代中期 (18世紀)	1	喜楽コレクション
60	三井御浜焼	桜花文楊枝置	高3.1×幅8.9×奥行6.3	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館 (伊賀三男コレクション)
61	三井御浜焼	桜花文徳利	高5.5×口径19.4×底径9.0	江戸時代後期 (19世紀)	2口組	個人蔵
62	三井御浜焼	桜花文徳利	高5.5×口径19.4×底径9.0	江戸時代後期 (19世紀)	1	個人蔵
63	梅林焼	三彩桜花形鉢	高8.5×口径16.3×底径7.5	江戸時代 (18-19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館 (伊賀三男コレクション)
64	梅林焼	二彩三つ唐子桜花形鉢	高5.6×口径12.4	江戸時代 (18-19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館 (細川正廣コレクション)
65	山之上焼	黄釉色絵桜花文手焙り	高4.6×高15.1×幅14.8×底径8.4	大正時代-昭和時代前期 (20世紀前半)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
66	湖東焼	色絵牡丹図四方平鉢	高5.4×幅16.0×奥行14.1×底径6.1	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
67	古伊万里	銚釉色絵唐獅子牡丹文八角皿	高2.1×口径16.2×15.0底径.	江戸時代前期 (1670-90年代)	1	喜楽コレクション
68	古伊万里	染付牡丹花弁文皿	高3.4×口径21.2×底径13.2	江戸時代前期 (1670-90年代)	5口組	喜楽コレクション
69	湖東焼・自然齋絵付け	赤絵金彩玉堂富貴図皿	高8.3×口径23.0×底径7.9	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
70	湖東焼	色絵菊花図平鉢	高5.5×口径19.4×底径9.0	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
71	湖南焼・永楽保全	金襴手内染付雲鶴文鉢	高9.1×口径12.2×底径4.7	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
72	湖東焼・可水絵付け	色絵草花文鉢	高8.3×口径23.0×底径7.9	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
73	湖東焼	染付花卉文段重	高6.7×幅10.5×奥行6.7	江戸時代後期 (19世紀)	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館

Section 4 現代 陶の花は語る

No	制作者	作品名	寸法(cm)	製作年	点数	所蔵先
74	杉浦 康益	陶の博物誌 箱根山椒バラの実	高60×幅76×奥行60	平成26年 2014	1	個人蔵
75	杉浦 康益	陶の博物誌 ランの花	高27.0×幅16.6×奥行16.6	平成19年 2007	1	個人蔵
76	杉浦 康益	山法師の花	高39.7×幅45.8×奥行40.4	平成30年 2018	1	個人蔵
77	田嶋 悦子	Cornucopia 97-III	高21.0×幅16.1×奥行16.1	平成9年 1997	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
78	田嶋 悦子	Cornucopia 97-IV	高41.0×幅26.0×奥行13.5	平成9年 1997	1	個人蔵
79	田嶋 悦子	Cornucopia 01-VII	高92.0×幅42.0×奥行22.5	平成13年 2001	1	個人蔵
80	長谷川 直人	Plant	高54.0×幅41.5×奥行17.5	平成9年 1997	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
81	長谷川 直人	Plant	高31.5×幅22.0×奥行12.5	平成9年 1997	1	滋賀県立陶芸の森陶芸館
82	長谷川 直人	Plant	高15.3×幅16.0×奥行8.1	2010年代 2010's	1	個人蔵
83	秋永 邦洋	恒久切花 チューリップ	高41.0×幅26.0×奥行13.5	平成26年 2014	1	個人蔵
84	秋永 邦洋	恒久切花 向日葵	高92.0×幅42.0×奥行22.5	平成26年 2014	1	個人蔵
85	秋永 邦洋	恒久切花 木蓮	高54.0×幅41.5×奥行17.5	平成26年 2014	1	個人蔵
86	秋永 邦洋	恒久切花 バラ	高31.5×幅22.0×奥行12.5	平成26年 2014	1	個人蔵
87	大石 早矢香	Pied	高42.8×幅13.5×奥行7.7	平成29年 2017	1	個人蔵
88	高間 智子	はなことば	高10.5×直径32.6	平成25年 2013	1	個人蔵
89	高間 智子	はなことば	高10.5×直径32.6	平成25年 2013	1	個人蔵
90	高間 智子	はなことば	高10.5×直径32.6	平成25年 2013	1	個人蔵
91	高間 智子	はなことば	高10.5×直径32.6	平成31年 2019	1	個人蔵
92	高間 智子	はなことば	高10.5×直径32.6	平成31年 2019	1	個人蔵
93	熊倉 順吉	道化の華	高47.0×幅27.0×奥行14.0	昭和52年 1977	1	個人蔵
94	熊倉 順吉	華	高47.0×幅27.0×奥行14.0	昭和47年 1972	1	個人蔵

細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展

趣 旨 細川正廣コレクションは、大津市在住の細川正廣氏が「滋賀の地で生み出されたやきものの歴史と素晴らしさを後世にまで伝えたい」という思いから滋賀県立陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりの古陶磁コレクションです。中には、新発見の印銘がほどこされているものや、これまでの定説を変える作風のものなど、貴重な滋賀の古陶磁が多数含まれています。平成19年度より続けてご寄贈をいただき平成29年度には100点を数えるまでになりました。本展はこれを記念し、コレクションの中から約40点を選びご紹介しました。

会 期 特別企画「陶の花 FLOWERS」と同時開催
平成31年3月12日(火)～3月31日(日) 次年度への継続事業

展示構成 信楽焼／湖東焼／圓山湖東焼／長浜湖東焼／小富士焼／姥餅焼／梅林焼／八田焼／下田焼／門平焼／復興膳所 陽炎園

■作品リスト

細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展

No	窯 名	作品名	寸法	製作年	点数	銘
1	湖東焼	色絵蓮葉形置物	高5.1×幅24.2×奥行21.8	江戸時代後期 (19世紀前半)	1基	楕円印刻銘「湖東」
2	湖東焼	染付藻魚文手塩皿	高2.0×口径4.9×底径5.9	江戸時代後期 (19世紀前半)	5口	染付銘「湖東」
3	湖東焼	緑釉鉄絵夕顔図瓢足付瓶掛	高19.2×口径28.2×直径33.2	江戸時代後期 (19世紀前半)	1口	亀形印刻銘「湖東」
4	湖東焼	染付赤壁賦蓋付碗	高8.7×口径10.9×底径5.9	江戸時代後期 (19世紀前半)	5合	染付銘「湖東」
5	湖東焼・山口窯	黒釉金彩松文段重	高26.1×幅15.6×奥行15.6	明治時代前期 (19世紀後半)	4段一組	色絵銘「大日本西京清水湖東洲山口製」
6	圓山湖東焼	染付龍文煎茶器	急須(Teapot):高6.0×幅10.5×奥行9.7 ×口径5.9×直径8.3×底径5.1／茶碗 (Tea cup):高5.2×口径6.0×底径3.2	明治時代初期 (19世紀後半)	1合5口 一組	染付銘「湖東」
7	長浜湖東焼	盛絵花貝殻文鉢	高8.3×口径12.8×底径6.3	江戸時代末期- 明治時代前期 (19世紀後半)	1口	赤絵銘「湖東」、 鉄絵銘「杏屋寫」
8	梅林焼	交趾釉手付鉢	高10.3×直径12.7	江戸時代後期 (18世紀後半- 19世紀前半)	1口	
9	梅林焼	交趾釉瓢箪手付盃	高4.1×幅9.9×奥行7.3	江戸時代後期 (18世紀後半- 19世紀前半)	1口	
10	梅林焼	交趾釉蜜柑形水滴	高3.6×直径8.2	江戸時代後期 (18世紀後半- 19世紀前半)	1口	
11	梅林焼	交趾釉繫鉢	高7.7×幅22.4×奥行21.1	江戸時代後期 (18世紀後半- 19世紀前半)	3口1基	
12	姥餅焼	赤楽鉄絵匂入火入	高10.0×口径11.1×底径10.4	江戸時代後期 (19世紀前半)	1口	丸形印刻銘「姥餅」
13	門平焼	赤楽近江八景文蛸形足付向付	高4.3×幅12.8×奥行11.4/ 高4.3×幅13.1×奥行12.6	大正時代- 昭和時代初期 (20世紀前半)	2口	
14	門平焼	白釉梅花貼付文筒花生	高24.2×口径10.0×直径11.2× 底径10.2	大正時代- 昭和時代初期 (20世紀前半)	1口	鉄絵銘「セタ」
15	門平焼	鉛釉屋形舟形蓋物	高4.9×幅18.6×奥行8.7	大正時代- 昭和時代初期 (20世紀前半)	1合	印刻銘「せた」
16	門平焼	鉄絵漁夫図葛屋形蓋物	高8.9×幅12.1×奥行11.1	大正時代- 昭和時代初期 (20世紀前半)	1合	印刻銘「門平」
17	門平焼	乾山写色絵老松皿	高3.4×幅18.5×奥行13.0	大正時代- 昭和時代初期 (20世紀前半)	1口	印刻銘「せ多」

No	窯名	作品名	寸法	製作年	点数	銘
18	門平焼	鉄絵瀬田唐橋文桃形鉢	高4.8×幅8.5×奥行6.0	明治時代後期-昭和時代初期(20世紀前半)	1口	鉄絵銘「夕照」
19	八田焼	染付鉄絵草花文鉢	高7.9×口径24.3×底径12.3	明治時代後期-昭和時代初期(20世紀前半)	1口	
20	八田焼	鉄絵石山秋月文徳利	高23.5×直径7.5	明治時代後期-昭和時代初期(20世紀前半)	1口	鉄絵銘「八田」「かじ寅」
21	八田焼	鉄絵梅花文徳利	高24.5×口径4.5×4.0 直径8.5×底径8.5	明治時代後期-昭和時代初期(20世紀前半)	1口	印刻銘「八田」「^」
22	小富士焼	褐釉捻梅形小皿	高1.2×口径8.8×底径5.3	明治時代後期(20世紀前半)	5口	印刻銘「小富士」
23	小富士焼	緑釉掛分蓋付碗	高8.3×口径9.0×底径1.8	明治時代後期(20世紀前半)	5口	楕円印刻銘「小富士」
24	小富士焼	灰釉掛分鶴首花瓶	高27.8×口径4.2×直径9.9×底径6.2	明治時代後期(20世紀前半)	1口	印刻銘「小富士」
25	小富士焼	鉄絵蟹図靈芝形手付碗	高5.4×幅9.0×口径9.1×底径3.7	明治時代後期(20世紀前半)	5口	印刻銘「小富士」
26	小富士焼	灰釉割山椒向付	高7.0×口径12.0×底径4.6	明治時代後期(20世紀前半)	5口	角棒印刻銘「小富士」
27	小富士焼	灰釉瓢形皿	高3.8×幅13.2×奥行18.5	明治時代後期(20世紀前半)	1口	角棒印刻銘「小富士」
28	復興膳所焼・陽炎園	鉄釉四方瓶掛	高20.2×幅26.0×奥行28.3	昭和時代前期(20世紀前半)	1口	
29	復興膳所焼・陽炎園(山元春拳絵付け)	白玉椿図筒茶碗	高7.8×口径9.3×直径19.1×底径5.0	大正時代末期-昭和時代初期(20世紀前半)	1口	琵琶形印刻銘「せ」、鉄絵銘「春拳(花押)」
30	下田焼	鉄絵染付松に月圓蓋付鉢	高10.5×口径19.3×底径9.1	明治時代後期-昭和時代前期(20世紀前半)	1合	
31	信楽焼	腰白茶壺	高48.9×口径12.7×直径39.2×底径19.6	江戸時代前期(18世紀前半)	1口	
32	信楽焼・信光山	あられ茶壺	高22.2×口径11.5×直径20.2×底径12.0	江戸時代後期(19世紀前半)	1口	印刻銘「信楽」「信光山」
33	信楽焼・奥田信斎	灰釉飛葉茶壺	高30.0×口径10.8×直径21.0×底径13.2	江戸時代末期(19世紀後半)	1口	壺形印刻銘「叶」、楕円印刻銘「壺信」
34	信楽焼・奥田三右衛門	白釉掛流茶壺	高32.0×口径10.8×直径27.0×底径13.4	明治時代-大正時代(19世紀後半-20世紀前半)	1口	印刻銘「信楽長野/10製」「別製」、墨書「10」
35	信楽焼	瑠璃釉掛流茶壺	高28.0×口径12.2×直径22.6×底径12.6	明治時代-大正時代(19世紀後半-20世紀前半)	1口	
36	信楽焼	銅青磁釉茶壺	高28.0×口径16.7×直径22.6×底径11.6 / 高27.2×口径11.6×直径22.6×底径11.6	江戸時代末期-大正時代(19世紀後半-20世紀前半)	1口	丸形印刻銘「志製」「馬」
37	信楽焼	三彩掛流茶壺	高27.6×口径12.0×直径21.6×底径11.2	明治時代-大正時代(19世紀後半-20世紀前半)	1口	
38	信楽焼	青簾茶壺	高48.4×口径13.5×直径32.2×底径14.4	江戸時代後期-明治時代(19-20世紀前半)	1口	

当館企画展の他館への巡回展

愛知県陶磁美術館 開館40周年記念企画展

「THE YUNOMI 湯のみ茶碗-ちょっと昔の、やきもの日本縦断旅」

趣旨 滋賀県立陶芸の森陶芸館所蔵の<坂口湯呑コレクション>は、明治末期から昭和前期にかけて坂口恭逸氏(1884-1965)によって蒐集された湯呑茶碗にまとをしぼった個人コレクションです。蒐集された時期は日本人がやきものに親しみ、楽しんだ時代であり、その内容は北海道から沖縄まで、各地の多彩な技法や技術が用いられ、名所旧跡なども意匠化された地域性豊かな湯のみ茶碗です。まその小さな器には、つくり手たちの技とこだわりが凝縮されています。陶芸の森企画による本巡回展の第5回目の会場として愛知県陶磁美術館にて開催されました。

会 期 平成30年9月1日(土)～10月21日(日) (43日間)
※9月30日は台風のため臨時休館

会 場 愛知県陶磁美術館
(住所：愛知県瀬戸市南山口町234番地)

主 催 愛知県陶磁美術館

共 催 滋賀県立陶芸の森、朝日新聞社

観覧者数 3,962人 (1日平均92人)

関連行事 (1)スペシャルギャラリートーク
〔日 時〕9月1日(土) 11時30分～12時
〔講 師〕大槻 倫子(滋賀県立陶芸の森 専門学芸員)

(2)ワークショップ「私だけの湯のみと茶托をつくる」
茶托

〔日 時〕8月25日(土)、9月2日(日)

〔講 師〕安藤 源一郎(漆芸家)

湯のみ

〔日 時〕9月2日(日) 13時30分～15時

〔講 師〕加藤 圭史(陶芸家)

(3)記念講演会「湯のみ茶碗で日本縦断旅」

〔日 時〕9月24日(祝・月) 13時30分～15時

〔講 師〕大槻 倫子(滋賀県立陶芸の森専門学芸員)

(4)イベント「愛知の茶屋」

〔日 時〕9月29日(土)、10月20日(土) 11時～16時

(5)学芸員による展示解説

〔日 時〕9月9日(日)、23日(日)、30日(日)、10月13日(土)、20日(土) 13時30分～

岩手県立美術館 企画展「“うつわ” ドラマチック」

趣 旨 やきものの“うつわ”は、世界各地でつくられ暮らしの中で用いられています。“うつわ”とは、まさにやきもののシンボルであるといえるでしょう。また、現代の陶芸において“うつわ”は、用途を離れやきものの美を表現するテーマのひとつになっています。“うつわ”の中に追い求めたつくり手たちの美は、ひとつの作品としての存在から、うつわをとりまく空間へと、陶芸の可能性や魅力を押し広げています。

本展は、陶芸の森の国内外の所蔵品をベースに世界の陶芸家たちが極めたドラマチックな“うつわ”の数々を紹介する第一会場として、岩手県立美術館で開催しました。

会 期 平成30年11月14日(水)～12月20日(木) 32日間

主催 岩手県立美術館、公益財団法人岩手県文化振興事業団

会場 岩手県立美術館 企画展示室（住所：岩手県盛岡市本宮字松幅12-3）

企画協力 滋賀県立陶芸の森

観覧者数 4,218人（1日平均131人）

関連行事 (1)スペシャルトーク

1. 「うつわの中の冒険—日本・世界の陶芸家たち」
〔日 時〕2018年11月18日(日) 14時～15時30分
〔講 師〕三浦 弘子（滋賀県立陶芸の森専門学芸員、本展企画者）
2. 「暮らしを彩るうつわの時代」
〔日 時〕2018年11月24日(土) 14時～15時30分
〔講 師〕広瀬 一郎（桃居店主）、菅野 康晴「新潮社『工芸青花』編集長」
3. 「桑田卓郎の仕事」
〔日 時〕2018年12月1日(土) 14時～15時30分
〔講 師〕桑田 卓郎氏（陶芸家、本展出品作家）

陶芸館ギャラリー企画展

Louise Cort' s point of view ルイズ・コートの視点 —海外に初めて信楽焼を紹介した研究者—

趣 旨 オックスフォード大学大学院で東洋美術史を学んだルイズ・コートは、修士論文のテーマとして日本のやきものを選び、1967年に日本を訪れました。東京の美術館で、中世の信楽焼の大壺と出会い、すっかり感激しました。その後、何度も信楽に足を運び調査研究の成果を論文にまとめ、『Shigaraki, Potters' Valley』（Kodansha USA Inc,1980）を出版し、いち早く信楽焼の魅力を海外に発信しました。彼女が初めて信楽を訪れてから50年。本展では、ルイズ・コートが撮影した当時の信楽の貴重な写真を彼女の文章とともに展示し、その眼差しを振り返りました。

【ルイズ・コート／Louise Cort】

国立スミソニアン協会、フリーア美術館・アーサー・M・サックラー・ギャラリー学芸員

会 期 平成30年3月10日(土)～6月17日(日)

〔休館日〕月曜日 4月30日(月・祝) 開館し、5月1日(火) 振替休館

〔入場料〕無料

会 場 滋賀県立陶芸の森
陶芸館ギャラリー



アーティスト・イン・レジデンス企画展「思い出は海の向こうに」

趣 旨 アーティスト・イン・レジデンス事業では、平成29年度は18か国から延べ54人のアーティストが創作研修館に滞在しました。その中でも海外からの参加者は30名に上ります。本展では、アメリカ、アルゼンチン、イタリア、オランダ、ドイツ、フィンランドの世界各地から、ここ信楽に滞在し制作した彼らの作品を展示します。彼らは、この信楽で初めての素材や技術、生活習慣などさまざまな刺激を受け、これまでと違う自分自身の制作から脱皮し、新しい制作の糸口を見いだそうとしていたのでしょうか。彼らが再び信楽の地で作陶することは、もしかしたらもうないかもしれません。しかし作品は彼らがこの地で過ごしたことの痕跡です。海の向こうの彼らの活躍に思いを馳せながら、信楽で格闘し完成させた作品を紹介しました。

会 期 平成30年6月24日(日)～平成30年7月8日(日) 13日間
〔休館日〕月曜日
〔入場料〕無料

会 場 滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー

出品作家 7人 12点

Antje Scharfe (ドイツ／平成29年度ゲスト・アーティスト)、Antonella Cimatti (イタリア／平成29年度ゲスト・アーティスト)、Ashwini Bhat (アメリカ合衆国／平成29年度ゲスト・アーティスト)、Joris Link (オランダ／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト)、Kathryn King (アメリカ合衆国／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト)、Matias Liimatainen (フィンランド／平成29年度スタジオ・アーティスト、フィンランド・センターとの連携によるプログラム)、Vilma Villaverde (アルゼンチン／平成29年度ゲスト・アーティスト)



夏休み企画／子どもたちの土の造形 ミシガン大学×甲賀市立小原小学校、甲南第三小学校 ～自分の気持ちを形にしよう

趣 旨 陶芸の森は、学校・文化ボランティア・陶芸家が連携して、やきものを軸とした「本物との出会いの場」づくりを進めています。やきものプログラムにはさまざまなメニューがありますが、昨年より英語とやきものを結びつけた取り組みを始めています。5月初め、ミシガン大学芸術デザイン学部の学生が、アートとコミュニティのつながりを学ぶ研修のために信楽で滞りました。その研究のひとつとして小学校の子どもたちと1対1でコミュニケーションをとりながらひとつの土面作品を作り上げるプログラムが行われました。子どもたちは、やきものの粘土のやわらかさやどんな形にも変化する不思議と出会い、パートナーとなったアメリカの学生とともにジェスチャーを交えてコミュニケーションを重ね作品を完成させました。制作では、やきもの、アートを通じた言葉を越えたコミュニケーションの楽しさを、私たちに教えてくれました。

本展では、子どもたちとミシガン大学の学生たちによる共同制作の陶芸作品29点を展示しました。

内 容 協同で制作された土面作品、鳥をテーマにした作品と制作風景のパネル

来場者数 5,818人

会 期 平成30年7月14日(土)～8月26日(日) 38日間
〔休館日〕月曜日
〔入場料〕無料



主 催 滋賀県立陶芸の森／世界にひとつの宝物づくり実行委員会

協 力 甲賀市立小原小学校、甲南第三小学校、ミシガン大学

アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World +82」

趣 旨 平成30年度に創作研修館に滞在したゲスト・アーティストの成果展。本展では、韓国出身の5作家の作品8点を紹介しました。若手からベテラン作家に至る幅広い世代に広がる5作家の活躍場所は、母国である大韓民国のほか、アメリカ、日本などさまざまな国で活躍する。韓国の現代陶芸の特徴が浮き彫りとなる5作家たちの作品展示をおこない、アーティスト・イン・レジデンス事業を広く知ってもらえる機会となりました。

会 期 平成30年10月6日(土)～平成31年12月16日(日) 65日間
〔休館日〕月曜日
〔入場料〕無料

会 場 滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー

出品作家 5人 8点

李秀鐘（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、李康孝（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、呂宣九（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、趙光勳（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、金理有（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）



陶芸館・新収蔵の逸品展

趣 旨 滋賀県立陶芸の森陶芸館は、「日本の現代陶芸」「海外の現代陶芸」「滋賀ゆかりの陶芸」「クラフトと陶磁器デザイン」という収集方針をもとに、作品収集を行っています。陶芸の森の収集作品は、平成30年度と29年度の購入・寄付を合わせて、新たに145点を収蔵しました。

新収蔵となった古陶磁作品では、湖東焼を代表的する絵付師、鳴鳳の「色絵金銀彩葵神事図鉢」と、ほか5点を購入し、湖東焼の民窯・山口窯で制作された「黒釉金彩松図重箱」などほか42点は、寄付いただきました。また現代の滋賀のやきものでは、信楽焼の名工で知られた上田直方（五代）特有の柔らかな緋色の作風がよく表れた「白形水指」など11点が寄付により加わりました。さらに日本の現代作家では、1950年代の現代陶芸の草創期に彫刻家からのアプローチで土を素材に大胆な造形を生み出した辻晉堂の「寒山」のほか3点、人間国宝の宇野宗甕（初代）による作品4点、さらに四耕会で知られる宇野三吾が中近東の鮮やかなブルーに憧れ制作した「碧釉尊壺」など27点が、寄付により加わりました。また、国内でも数少ない滞在型制作「アーティスト・イン・レジデンス事業」でゲスト・アーティストらが制作した作品等が46点。またドイツの代表的な陶芸家である、カール・シャイトら4名の作品を作家らより、寄付を受けました。

本展覧会は、これら平成29、30年度に新たに収蔵した作品の逸品、20点を展示しました。

内 容 平成29、30年度に新たに収蔵した作品の逸品、20点を展示。

湖東焼 鳴鳳絵付／上田直方（五代）／辻晉堂／宇野宗甕／宇野三吾／カール・シャイト／ニココレクション 他

会 期 平成31年3月12日(火)～平成31年4月14日(日)

〔休館日〕 月曜日

〔入館料〕 無料

博物館実習の受入

陶芸館では、博物館学芸員資格取得のための実習生の受け入れを、平成7年度より行っています。平成30年度は、成安造形芸術大学より1人を受け入れました。当館での博物館実習では、各施設や特別展の見学を行い、展覧会企画と教育普及事業についての講義を行いました。また、実習では、やきもの作品の梱包方法や作品の取り扱い方を学び、茶器の調査台帳のまとめ方を実習や、展覧会パネルの制作やミュージアムショップ関連の実習を行いました。作品台帳の作成では、茶器の制作者の落款銘や器の形を丁寧にスケッチし、写真をとるなど、資料の整理を体験しました。

内 容 8月21日(火)

オリエンテーション／陶芸の森施設見学／特別企画展の鑑賞

講義1. 教育普及事業について／講義2. 展覧会事業について

8月22日(水)

実習1. 展覧会のパネル制作 (FUJIKI)、ミュージアムショップの仕事

8月23日(木)

実習2-1. 作品調書作成

8月24日(金)

実習2-1. 作成調書の整理

8月28日(火)

実習3. 子どもたちの土の造形展作品梱包撤収作業／総括

期 間 平成30年8月21日(火)～24日(金)、8月28日(火) 5日間

会 場 滋賀県立陶芸の森内 視聴覚室および陶芸館茶室

受入大学 成安造形大学 1人

陶磁ネットワーク会議の開催

〈陶磁ネットワーク会議〉は、陶芸若しくは陶磁を専門とする、県立の博物館と美術館8館で組織された。陶芸文化の発展と館活動の活性化、また加盟館相互の交流や情報交換を進めることや、また、共同企画展の開催をはじめ共同の研究や広報、そして各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的に、平成20年に設立されました。

平成30年度は滋賀県立陶芸の森が幹事館として、「第11回陶磁ネットワーク会議」を開催、議事の進行及び取りまとめを担当しました。

日 程 平成30年6月28日(木)～6月29日(金)

会 場 滋賀県立陶芸の森（管理棟視聴覚室・信楽産業展示館創作室・創作研修館）
社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮、まちなか交流拠点「FUJIKI」

参 加 館 愛知県陶磁美術館（瀬戸）、茨城県陶芸美術館（笠間）、
岐阜県現代陶芸美術館（美濃）、佐賀県立九州陶磁文化館（有田）
滋賀県立陶芸の森（信楽）、兵庫陶芸美術館（丹波）、
福井県陶芸館（越前）、山口県立萩美術館・浦上記念館（萩）

出 席 者 8館20人

議 題 1. 「地元産地との連携と対応について」各館の発表と全体討議
2. その他意見交換 自由討議

見 学 1. つちっこプログラム見学（甲賀市立甲南中部小学校）
2. 創作研修館レジデンススタジオ見学
3. 社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮見学
4. まちなか交流拠点「FUJIKI」見学

調査研究活動

三浦 弘子

1. 委嘱

- 兵庫陶芸美術館 収蔵作品価格評価委員
- ミシガン大学プログラム企画運営委員会委員

2. 著作・文章執筆等

- 毎日新聞「熊倉順吉」
- 「青白磁-古典から展開する現代のかたち」『炎芸術』2018夏No.134

3. 発表・講義

- 講演会 巡回展「うつわドラマチック展」岩手県立美術館 11月18日

- パネラー「台湾陶芸ビエンナーレ」新北市鶯歌陶磁博物館 10月1日
- 「芸術の世界とこどもの学び」滋賀県立陶芸の森つちっこプログラム、滋賀大学教職大学院 10月30日
- 滋賀文化プログラム推進会議「アーティスト・イン・レジデンスとつちっこプログラム」コラボしが21 3月19日

大槻 倫子

1. 出講・委嘱等

- 京都国立近代美術館 美術作品購入等評価員
- 兵庫陶芸美術館 収蔵作品価格評価委員
- 宇治市文化財保護委員
- 甲賀市信楽伝統産業会館館蔵品委員
- 甲賀市信楽伝統産業会館企画委員
- 東洋陶磁学会監事
- 華頂短期大学非常勤講師 博物館概論

2. 著作・文章執筆等

- 『季刊ろうさい』公益財団法人労災保険情報センター発行
やきもの玉手箱⑨「ちょっと 面白いやきもの」
やきもの玉手箱⑩「ニッポンの素敵なお皿」
やきもの玉手箱⑪「春だから 花のやきもの」
- 京都新聞アート&イベント情報サイトことしるべ「第1章より～谷野明夫 黒地堆二彩花紋飾鉢」

3. 発表・講演・講義等

- 岐阜市歴史博物館 記念講演会「やきもので見る江戸時代の暮らしと楽しみ」 6月16日
- 愛知県陶磁美術館 スペシャルギャラリートーク 9月1日
- 愛知県陶磁美術館 記念講演会「湯のみ茶碗で日本縦断旅」 9月24日

4. 調査

- 広誠院所蔵陶磁器調査
- 宮永東山家陶磁器共同調査

鉤 真一

1. 委嘱

- 滋賀県博物館協議会研修委員

創 作 事 業

アーティスト・イン・レジデンス事業

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めました。

スタジオ・アーティストの受け入れ

アーティスト・イン・レジデンス事業の中核である「スタジオ・アーティストの受け入れ」では13カ国、48人を受け入れました。

受け入れ実績	総数	48人（延べ52人）（13カ国）
	国内	10人（延べ13人）うち滋賀県：2人
	海外	38人（延べ39人）
	(内訳)	日本在住-10人（延べ13人）、アメリカ-5人（6人）、オランダ-1人、ギリシャ-1人、スウェーデン-4人、フランス-3人、台湾-3人、香港-8人、中国-2人、フィンランド1人、イギリス-4人、カナダ-3人、オーストラリア-3人、

受け入れ名簿

氏名	デニス・レイネン Denise Rijnen
居住地	オランダ
滞在期間	平成30年4月3日～平成30年5月15日
滞在日数	43日
概略	ろくろ成形によって、均整の取れた器作品を制作しました。



氏名	ルイザ・メイゼル Luisa Maisel
居住地	フランス
滞在期間	平成30年4月1日～平成30年6月30日
滞在日数	91日
概略	器、陶人形、抽象的なオブジェなど様々なタイプの作品を制作しました。
作品展示	「Luisa Maisel-swirls & pearls-」FUJIKI（陶芸の森地域連携拠点） 平成30年6月21日～6月27日



氏名	工藤 玲那 KUDO, Rena
居住地	日本 山形県
滞在期間	（前年度から継続）平成30年4月1日～平成30年4月20日
滞在日数	20日
概略	人がうろ覚えで描いたキャラクターを立体的に表現しました。作品は顔料で着色した他、野焼きでの炭化焼成も試みました。



氏名	黄正椰 ウォン・チンポン・ケヴィス Wong Ching-pong Kevis	
居住地	香港	
滞在期間	(前年から継続) 平成30年4月1日～平成30年4月30日	
滞在日数	30日	
概略	連続する板が作品のアウトラインを形成ものや、板を何層にも重ねたものなど、構造的な作品を制作しました。鉄や釉薬で着色し、ガス窯にて焼成しました。	
作品展示	「Kevis Wong」展 創作研修館ギャラリー 平成30年4月28日	
氏名	ソフィー・バイユ Sophie Bayeux	
居住地	フランス	
滞在期間	平成30年4月3日～平成30年5月21日	
滞在日数	49日	
概略	顔や鯉などを部分ごとに陶板で制作し、焼成後に針金で括り合わせて、パッチワークを想起させる作品を制作しました。	
氏名	アンニカ・スヴェンソン Annika Svensson	
居住地	スウェーデン	
滞在期間	平成30年4月8日～平成30年5月21日	
滞在日数	44日	
概略	造形的な大皿を制作しました。作品の一部は薪窯で焼成しました。	
氏名	井掛 紗百合 IKAKE, Sayuri (再滞在)	
居住地	日本 大阪府	
滞在期間	平成30年4月1日～平成30年10月28日	
滞在日数	211日	
概略	手びねりで成形した躯体に色土で作った棘をびっしりと貼り付けた作品を制作しました。	
氏名	イアン・ウィチョレク Ian Wiczorek	
居住地	アメリカ	
滞在期間	(前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年5月25日	
滞在日数	55日	
概略	現代人の大量消費を制作のテーマとして、食品の包装容器を型取りしそれらを組み合わせることで作品の成形を行いました。	
作品展示	「Ian Wiczorek - Available Now -」 FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点) 平成30年5月12日～5月20日	

氏名	齋藤 華奈子 SAITO, Kanako	
居住地	日本 北海道	
滞在期間	平成30年4月3日～平成30年5月31日	
滞在日数	59日	
概略	磁土を手びねりで成形しました。	
氏名	橋本 知成 HASHIMOTO, Tomonari (再滞在)	
居住地	日本 滋賀県	
滞在期間	(前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年5月31日 平成31年2月1日～3月31日 (次年度へ継続)	
滞在日数	120日	
概略	手びねりで円筒や角柱を積み上げ、低火度での焼成の後、粉殻を用いた炭化焼成を行いました。	
氏名	李 岱容 LEE, Dai rong	
居住地	台湾	
滞在期間	平成30年4月24日～平成30年7月17日	
滞在日数	85日	
概略	ろくろで成形した器の表面を彫りこみ、テーブルウェアを制作しました。	
氏名	今村 こずえ IMAMURA, Kozue	
居住地	アメリカ	
滞在期間	平成30年5月1日～平成30年8月1日	
滞在日数	93日	
概略	生き物をモチーフに、小型のフィギュアを制作しました。炭化焼成や薪窯での焼成にも挑戦しました。	
氏名	シータ・ウォン Sita WONG	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年5月1日～平成30年11月1日	
滞在日数	185日	
概略	たたらを網目状に巡らせた作品や、植物をモチーフとした小型の作品を展開しました。作品は薪窯にて焼成しました。	
作品展示	「Sita Wong - adagio adagio -」FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点) 平成30年10月14日～10月21日	

氏名	奈良 美智 NARA, Yoshitomo (再滞在)	
居住地	日本 栃木県	
滞在期間	平成30年5月21日～平成30年5月24日 平成30年6月14日～平成30年6月24日 平成30年12月8日～平成30年12月12日	
滞在日数	20日	
概略	手びねりで立体作品を制作しました。また壺などの生地に絵付けを施しました。	
氏名	呉 育霈 WU, Yu pei (台湾文化センターからの受け入れ)	
居住地	台湾	
滞在期間	平成30年6月1日～平成30年8月30日	
滞在日数	91日	
概略	土の可塑性を利用して、カップと人面が一体になった作品を制作しました。	
作品展示	「WU, Yu-pei」展 創作研修館ギャラリー 平成30年8月25日～8月26日	
氏名	伍 嘉浩 ゴ・カホ NG, Kaho	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年6月1日～平成30年10月31日	
滞在日数	153日	
概略	ろくろで成形した壺や球に無数の穴をあけ、ライティング効果を狙った作品を制作しました。	
作品展示	「BIWAKOビエンナーレ2018」近江八幡市内（滋賀県） 平成30年9月15日～11月11日	
氏名	チャン・カムクワン・フェニー Chan Kam kwan	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年7月1日～平成30年8月12日	
滞在日数	43日	
概略	ろくろで普段使いのテーブルウェアを制作しました。	
氏名	ラウ・ワンタット LAU, Wan tat	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年7月20日～平成30年8月16日	
滞在日数	28日	
概略	亀をモチーフにして、器や造形的な作品など、様々なタイプの作品を展開しました。	
作品展示	「GREEN」創作研修館ギャラリー 平成30年8月12日～8月16日	

氏名 小出 ナオキ KOIDE, Naoki
居住地 日本 千葉県
滞在期間 平成30年8月1日～平成30年8月31日
滞在日数 31日
概略 手びねりで造形的な鉢を制作しました。作品は顔料等によって着彩されました。



氏名 李 海霖 リ・ハイリン LI, Hai lin
(文化庁補助事業交換プログラム招へい者)
居住地 中国
滞在期間 平成30年8月1日～平成30年9月10日
滞在日数 40日
概略 竹をモチーフとして、壺や花器などを制作しました。



氏名 タノス・カランパトス Thanos Karampatsos
居住地 ギリシャ
滞在期間 平成30年8月1日～平成30年10月4日
滞在日数 65日
概略 地元の陶器メーカーから傘立ての生地を買い取り、テーブルやイスなどのガーデンファニチャーを制作しました。



氏名 ヴァージニア・クリセヴィシュート Virginija Kliseviciute
居住地 スウェーデン
滞在期間 平成30年9月1日～平成30年11月30日
滞在日数 91日
概略 塑像で原形を作り、型取りをしました。土に置き換えた作品には、釉薬を施したり、薪窯で焼成したりしました。



氏名 アントニオ・ウォン Antonio Wong
居住地 香港
滞在期間 平成30年8月21日～平成30年12月28日
滞在日数 130日
概略 鬱をテーマに作品制作をしました。作品は薪窯で焼成しました。



氏名	ヴァネッサ・ロー Vanessa Lo	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年9月1日～平成30年10月31日	
滞在日数	61日	
概略	虫の羽の骨格を磁土で成形しました。焼成時の収縮に備える工夫をしました。	
作品展示	「Vanessa Lo」創作研修館ギャラリー 平成30年10月14日～10月21日	
氏名	マン・ヤウ Man Yau (フィンランドセンターとの連携によるスタジオ・アーティストの受け入れプログラム)	
居住地	フィンランド	
滞在期間	平成30年10月16日～平成30年11月30日	
滞在日数	46日	
概略	様々な形に切り取ったたたらを重ねあげて、釉薬や顔料クレヨン等を使用して着色しました。	
作品展示	「Shiga-Love and Magic Carpets」キャンプガーデン (フィンランド) 平成31年1月11日～1月31日	
氏名	ネイサン・ウィルエヴァー Nathan Willever (文化庁補助事業交換プログラム招へい者)	
居住地	アメリカ	
滞在期間	平成30年9月24日～平成30年11月2日	
滞在日数	40日	
概略	マグカップやピッチャーなどのクラフト作品を制作しました。登り窯やビードロ窯等の薪窯を使用して、焼成を行いました。	
作品展示		
氏名	マット・レプシャー Matt Repsher (文化庁補助事業交換プログラム招へい者)	
居住地	アメリカ	
滞在期間	平成30年10月1日～平成30年11月8日	
滞在日数	39日	
概略	独自の形態のカップや鉢などに幾何学模様を線描しました。	
作品展示		
氏名	アマンダ・チャンバーズ Amanda Chambers (再滞在)	
居住地	イギリス	
滞在期間	平成30年10月2日～平成30年11月2日	
滞在日数	30日	
概略	「被爆樹木」をテーマに、樹木の枝を陶板の上に載せて焼成し、枝の痕跡を残す作品を制作しました。	
作品展示	「被爆樹木」創作研修館ギャラリー 平成30年10月24日～10月28日	

氏名	マーティン・ハーマン Martin Harman	
居住地	イギリス	
滞在期間	平成30年10月4日～平成30年11月3日	
滞在日数	31日	
概略	日本と台湾、そしてイギリスの友好を表現した転写を作品表面に施しました。	
作品展示	「身份：跨越空間」創作研修館ギャラリー 平成30年10月24日～10月31日	
氏名	ウェンシー・ハーマン Wen hsi Harman	
居住地	イギリス	
滞在期間	平成30年10月4日～平成30年11月3日	
滞在日数	31日	
概略	日本と台湾、そしてイギリスの友好を表現した転写を作品表面に施しました。	
作品展示	「身份：跨越空間」創作研修館ギャラリー 平成30年10月24日～10月31日	
氏名	バーバラ・トン Barbara Tong	
居住地	香港	
滞在期間	平成30年10月2日～平成30年3月31日	
滞在日数	181日	
概略	5センチメートル四方の中に様々な表現を試みた作品を多数制作しました。	
作品展示		
氏名	許超奇 シュ・チャオチー Xu Chaoqi	
居住地	中国	
滞在期間	平成30年10月18日～平成31年1月18日	
滞在日数	93日	
概略	木炭を練り込んだ土で成形をおこない、焼成しました。木炭が焼失し、月のクレーターのような表情を作り上げました。	
作品展示		
氏名	ジェニファー・リー Jennifer Lee (再滞在)	
居住地	イギリス	
滞在期間	平成30年10月9日～平成30年11月17日	
滞在日数	40日	
概略	型で成形した器や陶板に酸化金属を練り込んだ土を押し込み、器にもやがかかったようなラインを表現しました。	
作品展示	「ジェニファー・リー展」現代美術 艸居（京都府） 平成30年11月3日～12月8日	

氏名	尾形 アツシ OGATA, Atsushi (再滞在)	
居住地	日本 奈良県	
滞在期間	平成30年11月6日～平成30年12月11日	
滞在日数	36日	
概略	大壺の制作を行いました。作品には白化粧を施し、5.2㎡窯で焼成しました。	
氏名	石山 哲也 ISHIYAMA, Tetsuya (再滞在)	
居住地	日本 滋賀県	
滞在期間	平成30年11月13日～平成30年12月28日	
滞在日数	46日	
概略	手跡をダイナミックに残した大型の作品を制作しました。作品には施釉、本焼き焼成を行った後、金彩を施しました。	
作品展示	「ICON-あの輝ける日々-」築空間 (台湾・台北) 平成30年10月5日～11月11日	
氏名	利庭芳 リー・ティンファンLI, Ting fang (文化庁補助事業交換プログラム招へい者)	
居住地	台湾	
滞在期間	平成30年11月13日～平成30年12月24日	
滞在日数	42日	
概略	立方体や直方体を組み合わせた作品を展開しました。焼成後に立ち位置を変え、焼成時とは重力方向が異なる作品を展開しました。	
作品展示	「利庭芳展」創作研修館ギャラリー 平成30年12月16日	
氏名	デール・ドロッシュ Dale Dorosh (文化庁補助事業交換プログラム招へい者)	
居住地	カナダ	
滞在期間	平成31年1月4日～平成31年2月9日	
滞在日数	37日	
概略	ろくろを使い、壺や花器などの陶芸作品を展開しました。	
作品展示	「デール・ドロッシュ展」創作研修館ギャラリー 平成31年2月7日	
氏名	デイビッド・ヘルマーズ David Helmers	
居住地	オーストラリア	
滞在期間	平成30年11月25日～平成31年3月1日	
滞在日数	97日	
概略	連続した構造形態を歪ませつつ接続し、有機的な構造形態をもつ作品を制作しました。	
作品展示	「David Helmers - Animal matter in enchanted space -」FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点) 平成31年2月20日～2月28日	

氏名	鈴木 良一 SUZUKI, Ryoichi	
居住地	アメリカ	
滞在期間	平成30年12月8日～平成30年12月28日 平成31年2月22日～平成31年3月1日	
滞在日数	59日	
概略	無垢でモデリングした形態を石膏取りし、彫刻作品を制作しました。作品の一部は薪窯で焼成しました。	
氏名	アリエル・ゴート Ariel Gout	
居住地	フランス	
滞在期間	平成31年1月4日～平成31年3月28日	
滞在日数	84日	
概略	手びねりで、地中や水中に漂う植物を表現した作品を制作しました。作品展示「海の底の陶の森」創作研修館ギャラリー 平成31年3月16日～3月23日	
氏名	エイミー・ペレジャン＝カポネ Amy Perejuan-Capone	
居住地	オーストラリア	
滞在期間	平成31年1月10日～平成31年3月30日	
滞在日数	80日	
概略	プロペラ飛行機のそれぞれのパーツをすべて陶器で制作しました。作品の一部は炭化焼成を行い、古びた表情を演出しました。	
氏名	エイミー・ケネディー Amy Kennedy	
居住地	オーストラリア	
滞在期間	平成31年1月23日～平成31年3月29日	
滞在日数	66日	
概略	ガラス質に近くなるよう配合した原料を襷状に並べて成形しました。作品は窯内で溶けてしまわないように工夫を凝らしました。	
氏名	マリー・ダニエル Mary Daniel	
居住地	カナダ	
滞在期間	平成31年2月13日～平成31年3月29日	
滞在日数	45日	
概略	ろくろを使い、茶碗や花器などの陶器を制作しました。	
氏名	デブラ・スローン Debra Sloan	
居住地	カナダ	
滞在期間	平成31年2月13日～平成31年3月29日	
滞在日数	45日	
概略	シーサーや狛犬、また七福神をモチーフに、陶人形を制作しました。	

氏名 中里 隆 NAKAZATO, Takashi (再滞在)
居住地 日本 佐賀県
滞在期間 平成31年3月1日～平成31年3月31日
滞在日数 31日
概略 ろくろなどを使い、器物を制作しました。作品は薪窯にて焼成しました。



氏名 松永 圭太 MATSUNAGA, Keita
居住地 日本 岐阜県
滞在期間 平成31年3月15日～平成31年3月31日 (次年度へ継続)
滞在日数 17日
概略 練り込みでラインを出した生地を石膏型にて成形しました。作品は炭化焼成をしました。



氏名 レベッカ・ラーズドッター Rebecka Larsdotter
居住地 スウェーデン
滞在期間 平成31年1月31日～平成31年3月31日 (次年度へ継続)
滞在日数 60日
概略 ちぎった土に顔料等で着彩して組み合わせて平面構成をしました。作品は焼成を行わず、写真作品としました。



氏名 オスカー・エク Osker Ek
居住地 スウェーデン
滞在期間 平成31年1月31日～平成31年3月31日 (次年度へ継続)
滞在日数 60日
概略 工業用の製陶機を使用して、大皿を中心としたテーブルウェアを制作しました。



氏名 植松 永次 UEMATSU, Eiji
居住地 日本 三重県
滞在期間 平成31年1月5日～平成31年2月27日
滞在日数 54日
概略 シャモットを型として、泥しょうで大皿の制作をしました。また、土の塊の内部をくり抜いて成形する方法で制作をおこないました。



ゲスト・アーティストの招聘

受け入れ実績 総数 14人 (延べ22人)
 国内 7人 海外 7人
 (内訳) 日本在住-7人、ドイツ-1人、韓国-4人、アルゼンチン-1人、タイ-1人

氏名 アンチェ・シャーフェ Antje Scharfe
 居住地 ドイツ
 滞在期間 (前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年4月14日
 滞在日数 14日
 概略 薪窯内でツクとして何度も焼かれ、自然釉がかかった耐火煉瓦に着目し、その形状や模様を活かして煉瓦に絵付けを行いました。また、石膏型を使用して、壺形のシルエットを持った2.5次元の器作品の制作を行いました。



作品展示 「Antje Scharfe展」 創作研修館中庭
 平成30年4月13日
 「思い出は海の向こうに」 陶芸館ギャラリー
 平成30年6月24日～7月8日

氏名 原 菜央 HARA, Nao
 居住地 日本 京都府
 滞在期間 (前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年5月10日
 滞在日数 40日
 概略 磁土での大型作品の制作に挑戦しています。土台となる部分にはブレンド土を使用し、上部分を磁土で制作しました。素焼きの後上絵付けを行い、5.2㎡ガス窯にて焼成しました。



氏名 趙 光勳 CHO, Kwang hun
 居住地 韓国
 滞在期間 平成30年4月17日～平成30年7月8日
 滞在日数 83日
 概略 韓国の若者の思いを代弁することをコンセプトに制作しました。陶芸の森ブレンド土を使い成形をおこなった後に黒化粧、白化粧を重ねて焼成しました。焼成は、5.2㎡ガス窯にて行いました。



作品展示 アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World + 82」 陶芸館ギャラリー
 平成30年10月6日～12月16日

氏名	金 理有 KIM, Ri yoo	
居住地	日本 神奈川県	
滞在期間	平成30年5月18日～平成30年7月13日 平成30年8月16日～平成30年9月10日 平成30年9月23日～平成30年10月2日 平成30年10月17日～平成30年11月30日 平成31年1月25日～平成31年3月31日（継続）	
滞在日数	204日	
概略	量産の信楽焼の狸の石膏型を使用して成形し、縄文土器にインスピレーションを得た加飾を加えて作家独自の狸の置物を表現しました。作品には金属光沢のある釉薬が施され、近未来を彷彿させる狸の置物となりました。制作は平成31年度へ継続。	
作品展示	「苗字といみなと字」大阪高島屋ギャラリー NEXT（大阪府） 平成30年10月3日～10月9日 アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World + 82」陶芸館ギャラリー 平成30年10月6日～12月16日	
氏名	田中 哲也 TANAKA, Tetsuya	
居住地	日本 滋賀県	
滞在期間	（前年度から継続）平成30年5月15日～平成30年9月30日	
滞在日数	139日	
概略	陶芸の森ブレンド土を使用し、大型作品のパーツの制作を行いました。パーツは5.2㎡ガス窯で焼成し、ボルトを使ってパーツ同士を結合しました。	
氏名	ヴィルマ・ヴィラバーデ Vilma Villaverde	
居住地	アルゼンチン	
滞在期間	（前年度から継続）平成30年5月24日～平成30年6月30日	
滞在日数	38日	
概略	2 mを超える大型の陶人形の制作を行いました。作品は2分割で成形され、顔料を使って着色を施した後に、5.2㎡ガス窯にて焼成しました。	
作品展示	「思い出は海の向こうに」陶芸館ギャラリー 平成30年6月24日～7月8日	
氏名	李 秀鐘 REE, Soo jong	
居住地	韓国	
滞在期間	平成30年7月1日～平成30年8月7日	
滞在日数	38日	
概略	韓国の伝統的な白磁大壺（満月壺、ムーンジャー）の制作を行いました。ろくろで挽いた2つの鉢の口同士をつなぎ合わせ一体の壺としました。ガス窯を使用した還元焼成を行いました。また、穴窯の焼成も行いました。	
作品展示	アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World + 82」陶芸館ギャラリー 平成30年10月6日～12月16日	

氏名 李康孝 LEE, Kang hyo

居住地 韓国

滞在期間 平成30年7月1日～平成30年8月7日

滞在日数 38日

概略 韓国の伝統的なやきもののひとつであるオンギ（甕）を展開させた作品を制作しました。ろくろや手びねりで成形した赤土の器表面に、白化粧や色化粧を施して焼成しました。作品の一部は穴窯にて焼成しました。



作品展示 アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World+82」陶芸館ギャラリー
平成30年10月6日～12月16日

氏名 呂宣九 YUH, Sun koo

居住地 韓国

滞在期間 平成30年6月17日～平成30年8月15日

滞在日数 60日

概略 陶芸の森ブレンド土、また磁器土を使用して、手びねりで大型の造形作品を制作しました。また、器物の制作も並行して行い絵付けをして焼成しました。



作品展示 アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World+82」陶芸館ギャラリー
平成30年10月6日～12月16日

氏名 塩谷良太 SHIOYA, Ryota (文化庁補助事業招へい者)

居住地 日本 東京都

滞在期間 平成30年7月20日～平成30年9月25日

平成30年11月5日～平成30年11月7日

平成30年12月20日～平成31年1月9日

滞在日数 92日

概略 陶芸の森ブレンド土を使用し、大物作品2点の制作を行いました。有機的な造形の内側に多数の構造を張り巡らせ、造形の仕組みと形態の関係性について意識した作品となりました。内1点は17分割して焼成を行い、完成後は4mほどの大きさとなりました。焼成は5.2㎡ガス窯を使用して行いました。



作品展示 「塩谷良太展 かたちに、かたちのないもの」栗東芸術文化会館ささら（滋賀県）

平成30年11月24日～12月2日

氏名 大石早矢香 OISHI, Sayaka

居住地 日本 大阪府

滞在期間 平成30年7月1日～平成30年8月31日

平成31年1月4日～平成31年3月6日

平成31年3月25日～平成31年3月30日

滞在日数 130日

概略 イザナギ、イザナミの神話をモチーフとして2点のデコラティブな大物レリーフ作品の制作を行いました。素焼き後には釉薬や金彩で着色を行った後、さらに数回の焼成を行いました。作品は各4分割して成形、焼成を行いました。作品は5.2㎡ガス窯や電気窯を使用して行いました。作品は31年度に陶芸館ギャラリーにて展示しました。



作品展示 「大石早矢展 -identify-」ギャラリー Sophara（京都府）

平成30年11月16日～12月4日

氏名	若杉 聖子 WAKASUGI, Seiko (文化庁補助事業招へい者)	
居住地	日本 兵庫県	
滞在期間	平成30年11月3日～平成31年3月16日	
滞在日数	134日	
概略	石膏型の成形から泥漿鑄込み、焼成までを行いました。植物をモチーフとし葉が重なった並び立った造形作品を制作しました。普段の作家の制作では主に磁土を使用するが、今回の滞在では黒色の陶土による作品の制作も行いました。	
作品展示	「個展」あかまんま (群馬県) 平成30年10月19日～10月27日 「個展」ぎゃらりい栗本 (新潟県) 平成31年1月10日～1月20日	
氏名	新里 明士 NIISATO, Akio	
居住地	日本 岐阜県	
滞在期間	平成30年11月27日～平成30年12月28日	
滞在日数	32日	
概略	普段は磁器の器の仕事をしているが、信楽の原土を使用した土ものの仕事にも取り組んでいました。60cmから80cmほどの壺型のオブジェ作品の制作を行いました。	
作品展示	「新里明士展」板室温泉大黒屋サロン (栃木県) 平成30年11月1日～11月29日 「新里明士／陶磁器展 蓋物を中心に」寺田美術Antiques&Gallery (東京都) 平成30年11月18日～11月22日 「陶の表現四人展」和光ホール (東京都) 平成31年2月15日～2月24日 トーク「感性と技術と空間」Kashiya (京都府) 平成31年2月23日	
氏名	ポンパン・ソティプラパー・アー Pornphun Sutthiprapha Aor タイ	
居住地	タイ	
滞在期間	平成30年11月2日～平成31年1月28日	
滞在日数	88日	
概略	自身の制作のプロセスを仏教の教えでもある瞑想 (マインドフルネス) と捉え、自己との対話をテーマに制作を行いました。切っ立ちの器やオブジェなどの表面を多色の顔料で数層に重ねて塗装し、コテでその一部を削り取っています。作品表面には下地の色と表面の色が無作為にみられ、星空や宇宙を思わせる作品となりました。	
作品展示	「ポンパン・ソティプラパー・アー展」創作研修館ギャラリー 平成31年1月16日～1月23日	

オープン・スタジオ、講演会等の開催

・第1回オープン・スタジオ

開催日：平成30年4月29日(日)

会場：管理棟視聴覚室、創作研修館

講師：趙 光勳（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）

参加者：15人

内容：アーティスト・トーク、スタジオ見学

：韓国の若手陶芸家である趙光勳は、社会の理不尽さに対する作品制作について話しました。また滞在経験のあるCLAYARCH GIMHAE について紹介しました。スタジオでは、制作する作品について、技法や過程を参加者と共有しました。

・第2回オープン・スタジオ

開催日：平成30年5月13日(日)

会場：創作研修館

参加者：5人

内容：滞在するゲスト・アーティスト、またスタジオ・アーティストの作業現場の見学を行いました。

・第3回オープン・スタジオ

アーティスト・トーク「韓国の陶芸家たち」

開催日：平成30年7月8日(日)

会場：管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

講師：李 秀鐘（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）

李 康孝（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）

呂 宣九（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）

参加者：33人

内容：アーティスト・トーク、ワークショップ

李秀鐘氏、李康孝氏、呂宣九氏の3人によるアーティスト・トークを開催しました。それぞれ自身の制作に対する思いと手法について解説されました。スタジオでは、制作中の作品の見学、ワークショップ、質疑応答を行いました。

・第4回オープン・スタジオ

アーティスト・トーク「塩谷良太、大石早矢香」

開催日：平成30年8月5日(日)

会場：創作研修館、視聴覚室

講師：塩谷 良太（東京都／平成30年度ゲスト・アーティスト）

大石 早矢香（大阪府／平成30年度ゲスト・アーティスト）

参加者：35名

内容：アーティスト・トーク、スタジオ見学

塩谷氏は「仕組みとリアリティー」という自身の制作テーマについて解説しました。大石氏はカタチと装飾をテーマに自身の作品について解説されました。スタジオでは、作品の制作現場の見学を行い、質疑応答の時間としました。

• **第5回オープン・スタジオ**

開催日：平成30年10月14日(日)

参加者：6人

講師：ネイサン・ウィルエヴァー（アメリカ、平成30年度文化庁補助事業交換プログラム招へい者）
 マット・レプチャー（アメリカ、平成30年度文化庁補助事業交換プログラム招へい者）

内容：ネイサン・ウィルエヴァー、マット・レプチャーの制作を中心にスタジオの見学を行いました。

• **トークショー**

「クラフト・スクールUS－ヘイスタックとペンランド」

開催日：平成30年10月31日(水)

会場：管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

参加者：20人

講師：ネイサン・ウィルエヴァー（アメリカ、平成30年度文化庁補助事業交換プログラム招へい者）
 マット・レプチャー（アメリカ、平成30年度文化庁補助事業交換プログラム招へい者）

内容：ネイサン・ウィルエヴァー氏はヘイスタックレジデンスについて話をされました。
 マット・レプチャー氏は、現在3年間のレジデンスプログラムで滞在中のペンランドの施設について話をしました。スタジオでは作家の制作作品を鑑賞しての質疑応答を行いました。

• **第6回オープン・スタジオ**

開催日：平成30年11月11日(日)

参加者：5人

講師：マン・ヤウ（フィンランド、平成30年度フィンランドセンターとの連携によるスタジオ・アーティストの受入プログラム）

内容：創作研修館スタジオの見学を行いました。

• **トークショー**

「マン・ヤウーフィンランドでの陶芸制作ー」

開催日：平成30年11月23日(金)

会場：管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

参加者：16人

講師：マン・ヤウ（平成30年度フィンランド、フィンランドセンターとの連携によるスタジオ・アーティストの受入プログラム）

内容：マン・ヤウは陶芸の枠だけに収まらない多ジャンルをまたいだ表現の可能性について話をされました。

• **トークショー**

「台南芸術大学－台湾の陶芸事情と利庭芳の制作ー」

開催日：平成30年12月16日(日)

参加者：16人

講師：利庭芳（台湾、平成30年度文化庁補助事業交換プログラム招へい者）

内容：利庭芳は台南芸術大学の施設や環境について話していただきました。また彼女が現在教鞭を執る長栄大学の様子やその周辺の陶芸施設の様子などを解説されました。

・トークショー「ポンパン・ソティブラパー・アーとデール・ドロッシュの仕事について」

開催日：1月19日(土)

参加者：18人

講師：ポンパン・ソティブラパー・アー（タイ／平成30年度ゲスト・アーティスト）
デール・ドロッシュ（カナダ／文化庁補助事業交換プログラム招へい者）

内容：ソティブラパーは仏教思想を基に自身や他者との関わり方を探求することについて話されました。ドロッシュはディレクターを務めるレジデンス施設、AIRパロリスについて解説し、海外の陶芸施設の情報を収集できる場となりました。

・第7回オープン・スタジオ

開催日：3月3日(日)

参加者：12人

講師：金 理有（日本、平成30年度ゲストアーティスト）
若杉 聖子（日本、平成30年度ゲストアーティスト）
大石 早矢香（日本、平成30年度ゲストアーティスト）

内容：創作研修館スタジオの見学を行いました。

・トークショー

「金理有と若杉聖子の活動について」

開催日：3月3日(日)

参加者：22人

講師：金 理有（日本、平成30年度ゲストアーティスト）
若杉聖子（日本、平成30年度ゲストアーティスト）

内容：金 理有は現在に至るまでの思考の変遷や現在の作家活動をする上で考えていることについて話しをされました。また、若杉 聖子は石膏型への情熱や海外での制作経験について話されました。

(4)陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー、FUJIKIを基点とした情報発信、活性化

陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー及び、陶芸の森が町内への情報発信拠点として設置するFUJIKIを基点にアーティスト・イン・レジデンス事業の一層の情報発信、活性化を図った。上記のギャラリーを基点として滞在する作家の展覧会活動を積極的に行い、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、レジデンス事業の情報発信に努めた。

またFB等のSNSを有効活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行った。

◎陶芸館ギャラリー

アーティスト・イン・レジデンス企画展「思い出は海の向こうに」

開催期間：平成30年6月24日(月)～7月8日(日) 130日間

出品作家：Antje Scharfe（ドイツ／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Antonella Cimatti（イタリア／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Ashwini Bhat（アメリカ合衆国／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Joris Link（オランダ／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト）、Kathryn King（アメリカ合衆国／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト）、Matias Liimatainen（フィンランド／平成29年度スタジオ・アーティスト）、Vilma Villaverde（アルゼンチン／平成29年度ゲスト・アーティスト）

・アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello,Ceramic World+82」

開催期間：平成30年10月6日～12月16日

出品作家：李秀鐘（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、李康孝（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、呂宣九（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、趙光勳（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）、金理有（韓国／平成30年度ゲスト・アーティスト）

◎滞在作家の活動等

- ・MIHO MUSEUMにて展覧会の鑑賞をおこなった。また作家数名を連れて町内の窯元を見学した。（1回実施）
- ・地域連携拠点FUJIKIにて、滞在作家による作品展示を開催した。

「Ian Wiczorek – Available Now –」

開催日：平成30年5月12日(土)～5月20日(日) 9日間

会場：FUJIKI（陶芸の森地域連携拠点）

出品者：イアン・ウィチョレク（アメリカ／H29スタジオ・アーティスト）

参加者：180人

内容：オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

「Luisa Maisel – swirls & pearls –」

開催日：平成30年6月21日(木)～6月27日(水) 7日間

会場：FUJIKI（陶芸の森地域連携拠点）

出品者：ルイザ・メイゼル（フランス／平成30年度スタジオ・アーティスト）

参加者：93人

「Sita Wong – adagio adagio –」

開催日：平成30年10月14日(日)～10月21日(日)

会場：FUJIKI（信楽町）

出品者：シータ・ウォン（香港／平成30年度スタジオ・アーティスト）

内容：オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

「David Helmers – Animal matter in enchanted space –」

開催日：平成31年2月20日～2月28日

会場：FUJIKI（信楽町）

出品者：デイビッド・ヘルマーズ（オーストラリア／平成30年度スタジオ・アーティスト）

内容：オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

ケビス・ウォン「Kevis Wong展」

開催日：平成30年4月28日

会場：創作研修館ギャラリー

ラウ・ワンタット「GREEN」

開催日：平成30年8月12日～8月16日

会場：創作研修館ギャラリー

呉育零「WU,Yu-Pei展」

開催日：平成30年8月25日～8月26日

会場：創作研修館ギャラリー

ゴ・カホ 「BIWAKOビエンナーレ2018」

開催日：平成30年9月15日～11月11日

会場：近江八幡市内（滋賀県）

金 理有 「苗字といみなと字」

開催日：平成30年10月3日～10月9日

会場：大阪高島屋ギャラリー NEXT（大阪府）

石山 哲也 「ICONーあの輝ける日々ー」

開催日：平成30年10月5日～11月11日

会場：築空間（台湾・台北）

ヴァネッサ・ロー 「Vanessa Lo」

開催日：平成30年10月14日～10月21日

会場：創作研修館ギャラリー

若杉 聖子 「個展」

開催日：平成30年10月19日～10月27日

会場：あかまんま（群馬県）

マーティン・ハーマン、ウェンシー・ハーマン 「身份：跨越空間」

開催日：平成30年10月24日～10月31日

会場：創作研修館ギャラリー

アマンダ・チャンバーズ 「被爆樹木」

開催日：平成30年10月24日～10月28日

会場：創作研修館ギャラリー

新里 明士 「新里明士展」

開催日 平成30年11月1日～11月29日

会場 板室温泉大黒屋サロン（栃木県）

ジェニファー・リー 「ジェニファー・リー展」

開催日：平成30年11月3日～12月8日

会場：現代美術 艸居（京都府）1

大石 早矢香 「大石早矢展ーidentifyー」

開催日：平成30年11月16日～12月4日

会場：ギャラリー Sophara（京都府）

利 庭芳 「利庭芳展」

開催日：平成30年12月16日

会場：創作研修館ギャラリー

新里 明士「新里明士/陶磁器展 蓋物を中心に」

開催日：平成30年11月18日～11月22日

会場：寺田美術Antiques&Gallery（東京都）

塩谷 良太「塩谷良太展 かたちに、かたちのないもの」

開催日 平成30年11月24日～12月2日

会場 栗東芸術文化会館きさら（滋賀県）

若杉 聖子「個展」

開催日：平成31年1月10日～1月20日

会場：ざらりい栗本（新潟県）

ポンパン・ソティプラパー・アー「ポンパン・ソティプラパー・アー展」

開催日：平成31年1月16日～1月23日

会場：創作研修館ギャラリー

デール・ドロシュ「デール・ドロシュ展」

開催日：平成31年2月7日

会場：創作研修館ギャラリー

新里 明士「陶の表現四人展」

開催日：平成31年2月15日～2月24日

会場：和光ホール（東京都）

新里 明士 トーク「感性と技術と空間」

開催日：平成31年2月23日

会場：Kashiya（京都府）

アリエル・ゴート「海の昼の陶の森」

開催日：平成31年3月16日～3月23日

会場：創作研修館ギャラリー

マン・ヤウ “Shiga-Love and Magic Carpets”

開催日：平成31年1月11日～1月31日

会場：キャンプガーデン（フィンランド）

イケムラレイコ「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」展

開催日：平成31年1月18日～4月1日

会場：国立新美術館（東京）※収蔵作品貸し出し

国内外のレジデンス機関等との連携

文化庁の補助事業として、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業 2018-海外レジデンス機関との交換プログラム」の活用等により、4レジデンス機関と連携して、計作家10人の相互に派遣、受入れました。

I. 海外の機関との連携

・CRAFT SCHOOL US (アメリカ)

受入者1：マット・レブシャー	受入期間：平成30年10月1日～11月2日
受入者2：ウィーレヴァー・ネイサン	受入期間：平成30年9月24日～11月2日
派遣者1：工藤 玲那（京都府）	派遣期間：令和元年5月～6月
派遣者2：白木 千華（三重県）	派遣期間：令和元年5月～6月

・台湾国立台南芸術大学（台湾ROC）

受入者：利 庭芳（リ・ティン・ファン）	受入期間：平成30年11月13日～12月24日
派遣者：藤本 秀（滋賀県）	派遣期間：平成30年11月1日～11月31日

・中国美術学院（中国）

受入者：李 海霖（リ・ハイリン）	受入期間：平成30年8月1日～9月10日
派遣者：福本 歩（神奈川県）	派遣期間：平成30年10月25日～11月25日

・バロリスAIR（フランス）

受入者：デール・ドロシュ	受入期間：平成31年1月4日～2月9日
派遣者：岩村 遠（京都府）	派遣期間：平成31年2月11日～3月21日

海外の芸術関係団体との連携により2人の陶芸家をレジデンス・アーティストとして受入れました。

・フィンランド文化センター（フィンランド）

受入者：マン・ヤウ	受入期間：平成30年10月16日～11月30日
-----------	-------------------------

・台北駐日経済文化代表処台湾文化センター（台湾）

受入者：呉育霈（ウー・ユーペイ）	受入期間：平成30年6月1日～8月30日
------------------	----------------------

II. 国内の機関との連携

文化庁の補助事業として、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業 2018」において、「アーティスト・イン・レジデンス研究会及びトークショー」を2回開催し、産地でおこなうレジデンスの意義、レジデンスの評価方法などについて議論を深めるなど、また互いの連携強化を図った。

第1回アーティスト・イン・レジデンス研究会 及びトークショー

開催日時：平成30年9月23日(日)、24日（月・祝）

主 催：公益財団法人 滋賀県陶芸の森（企画立案）

参加機関：女子美術大学（東京都）・益子国際工芸交流館／益子陶芸美術館（栃木県）・
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団（愛知県）・公益財団法人 京都市芸術文化
協会（京都府）・遊工房アートスペース（東京都）

会 場：女子美術大学杉並キャンパス

アーティスト・イン・レジデンス研究会

開催日：平成30年9月23日(日)

参加者：20人

モデレーター：菅野 幸子（AIR Lab アーツ・プランナー／リサーチャー）
日沼 禎子（女子美術大学教授）

キーノートスピーチ：「大学教育の現場から-工芸学科 工芸専攻における教育・AIRと美術大学との実験的取り組み」

スピーカー：吉田 潤一郎（女子美術大学 工芸専攻 教授）
・遊工房アートスペース取組紹介
・「各レジデンスの近況報告」

トークショー

開催日：平成30年9月24日（月・祝）

参加者：60人

テーマ：「多彩な技術と産地におけるAIRの役割、可能性-ローカルからグローバルに」

スピーカー：「海外でのレジデンス経験」

伊藤 準（陶芸家、瀬戸）

「ヨーロッパ・セラミック・ワークセンター（EKWC）でのレジデンス」

西條 茜（陶芸家・美術家、京都）

「益子焼の伝統的な技術、若手陶芸家の育成についてAIRへの期待」

床井 崇一（益子焼伝統工芸士会会長、益子）

「私のレジデンス体験ーアジアからアメリカ、ヨーロッパへ」

村田 彩（陶芸家、信楽）

第2回アーティスト・イン・レジデンス研究会及びトークショー

参加者：28人

主催：公益財団法人 滋賀県陶芸の森（会場、企画立案、当日運営）

参加機関：女子美術大学（東京都）・益子国際工芸交流館／益子陶芸美術館（栃木県）・
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団（愛知県）・公益財団法人京都市芸術文化協会（京都府）・
奈良県国際芸術家村推進室（奈良県）

アーティスト・イン・レジデンス研究会

開催日：平成30年12月11日(火)、12日(水)

モデレーター：菅野 幸子（AIR Lab アーツ・プランナー／リサーチャー）、
日沼 禎子（女子美術大学准教授）

・参加機関からの近況報告等

・討議「陶芸の森のAIRプログラムを事例にして分析、評価する」

・「アーティスト・イン・レジデンスの評価を考える 1」

吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）

・ワークショップ「アーティスト・イン・レジデンスの評価」

トークショー

開催日：平成30年12月12日(水)

スピーカー：「レジデンスの成果と評価を考える 2」

吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）

「レジデンスと地域振興の視点から」

山出 淳也（BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト）

※アーティストの滞りが年度をまたぐ場合、前年度にカウントする
 ※同じアーティストが複数回滞在する場合、各滞在ごとにカウントする

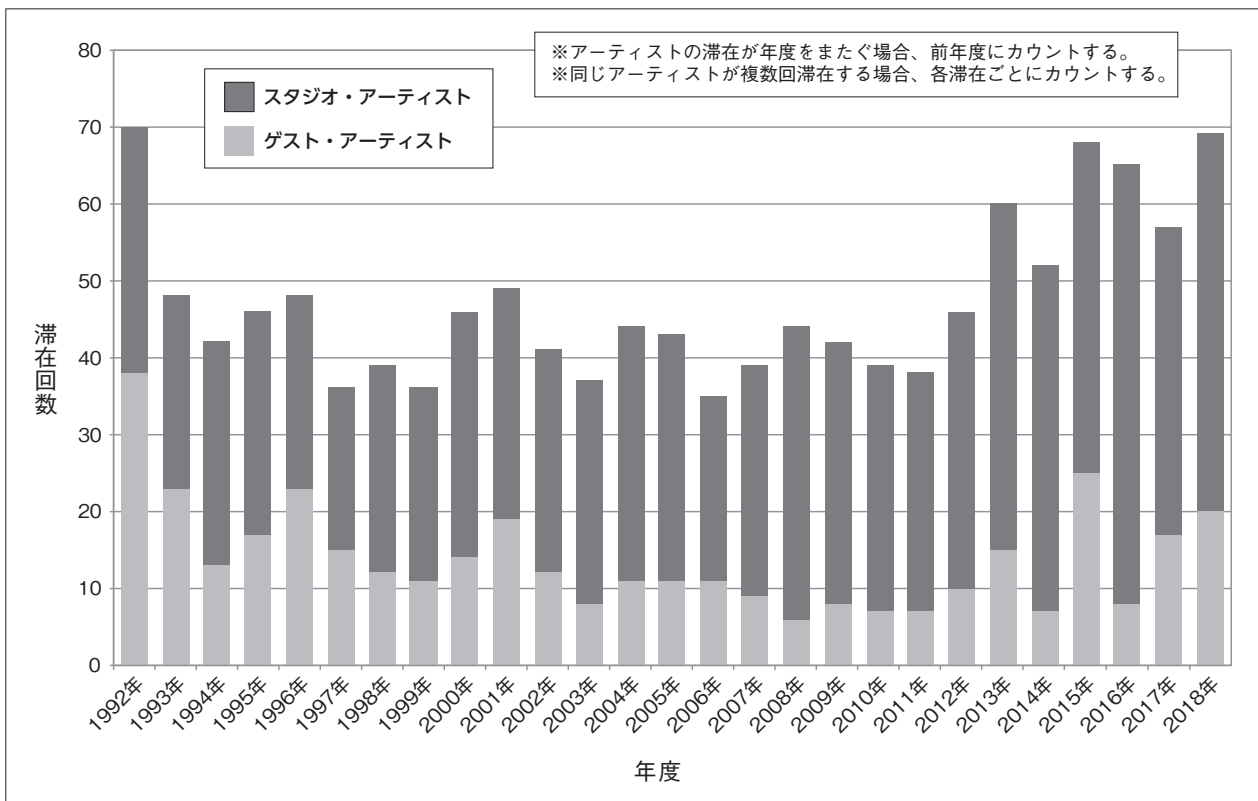
国別・年度別アーティスト滞在回数

滞在回数 国名(日本語)	年 度																		総計										
	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
アイスランド													1		1	1	1			1								5	
アイルランド											1								1									2	
アメリカ合衆国	8	11	7	7	6	1	5	4	2	6	2	7	1	7	4		2		1	3	6	4	5	4	4	6	4	117	
アルゼンチン	1					2																		1	1	2	1	8	
イギリス	1	1	1	2	1	1		2	4		2			3	1		2		1			2	4	3	1		5	37	
イスラエル							1																					1	
イタリア	2			2	1	1									1	1					1	1	1		1	1		13	
イラク												1																1	
インド																	1			1	1							3	
インドネシア																	1	1		1								3	
エストニア																		1	1									2	
オーストラリア	1				1	1		1			2				1	1	1	2		1	1		1	2	2		2	20	
オランダ	1		1	1		1				1			2	1		1	1	1			1		1		2	2	1	18	
ガーナ											1																	1	
カザフスタン										1																		1	
カナダ					1					1		3							2		1		4	4	1	3	2	22	
カンボジア																	1											1	
ギリシャ																										1		1	
グアテマラ																										1		1	
ジャマイカ																										1		1	
シンガポール													1			1									1	2		5	
スイス	1				1		1				2	1	2	4	1									1		1		15	
スウェーデン						1			1			1	1		1									1	1	1	4	12	
スペイン						1			1	1	2	2		2														9	
セルビア				1																								1	
タイ										1								1								1	1	4	
チェコ				1				1											1					2	2			7	
デンマーク				1		2	1		2			2	1	1	1	1			2	1		1		3			19		
ドイツ									3	3	1	3	2	1							1	1		2		1		18	
ニュージーランド							1											1					1					3	
ノルウェー					1		1									4							1		1			8	
パキスタン												1																1	
ハンガリー							1	1	1				1			1			1									6	
バングラデシュ	1																											1	
フィリピン																										1		1	
フィンランド				1	1			1	2	1			3	2	1	1	1	1				1				1	1	18	
ブラジル																								1				1	
フランス						1							2	3	1	2	5	5	1	4	3	3	4	5	7	3	3	52	
ベルギー									1															1				2	
ベルギー													1			1	1	2	2		1				1	1		10	
ポーランド						1																						1	
ボリビア										1					1		1											3	
ポルトガル		1	1										1															3	
メキシコ						1																			1			2	
ヨルダン													1															1	
ラオス																	2											2	
ルーマニア										1		1																2	
ロシア連邦																							1					1	
香港												1					3	2	7	2				2	1	2	1	5	26
台湾	1					1	3	1				1	2	3				2	1	1	4	4	3	6	2	2	2	42	
大韓民国	3	2	1	2	2	3	3	3	1	2	4	1			2	1	3	1	1				2	6	1		4	48	
中国		1			1									1					1		2	3	2	1			2	14	
日本	50	32	31	28	32	18	22	21	27	32	21	17	20	15	19	20	17	17	22	22	24	40	17	27	36	26	30	683	
総計	70	48	42	46	48	36	39	36	46	49	41	37	44	43	35	39	44	42	39	38	46	60	52	68	65	57	69	1,279	

種別・年度別アーティスト滞在回数

※アーティストの滞りが年度をまたぐ場合、前年度にカウントする。
 ※同じアーティストが複数回滞在する場合、各滞りにごとにカウントする。

滞在回数 年度	種 別		総 計
	guest	studio	
1992	38	32	70
1993	23	25	48
1994	13	29	42
1995	17	29	46
1996	23	25	48
1997	15	21	36
1998	12	27	39
1999	11	25	36
2000	14	32	46
2001	19	30	49
2002	12	29	41
2003	8	29	37
2004	11	33	44
2005	11	32	43
2006	11	24	35
2007	9	30	39
2008	6	38	44
2009	8	34	42
2010	7	32	39
2011	7	31	38
2012	10	36	46
2013	15	45	60
2014	7	45	52
2015	25	43	68
2016	8	57	65
2017	17	40	57
2018	20	49	69
総 計	377	902	1,279



つちっこプログラムー子どもやきもの交流事業ー

滋賀県立陶芸の森「子どもやきもの交流事業」と陶芸の森内で活動を行う「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」からなる、陶芸家に関わる「土」を素材とした体験事業「つちっこプログラム」は、今年で17年目を向かえました。地域の陶芸家やボランティア、学校などと協働して、子どもや障がい者に古琵琶湖層からの贈り物である信楽の「土」を用いて、ものをつくることの喜びや感動、本物の芸術を体感できる教育プログラムを提供し、次世代の心豊かな人材育成に努めています。また、つちっこプログラムは、第3期 滋賀県教育振興基本計画において、滋賀県の自然や文化、地域を学ぶ体験活動のひとつとして位置づけられています。

本物と出会うー総合学習プログラム 陶芸の森来園プログラムと出張授業（連携事業）

小・中・高等学校を対象に陶芸の素晴らしさや陶芸の森を広めるために、学校への出張授業や来園プログラムを進めています。学校・美術館・文化ボランティア・陶芸家の4者連携のプログラムです。

【平成30年度 子どもやきもの交流事業 実績】

	講座形態	件数	参加者数	備考
①	来園プログラム	14件	1,339人	県内学校 12件 779人 県外学校 2件 560人
②	出張授業 I	121件	7,456人	※すべて県内小中高等学校
③	来園制作 (ねんどとあそぶ)	4件	212人	
④	研修会			MIHO MUSEUMにて協力
	合計	139件	9,007人	幼児～高校生 8,996人 大人 11人 講座平均人数 64.8人



世界にひとつの宝物づくり

[滋賀県負担金、参加者負担金、その他の収入より運営]

子どもや障がい者などのみなさんが地元陶芸作家や地域ボランティアとの協力により「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感できることによって、次世代の心豊かな人材を育成する新しい滋賀モデルを創造していくプログラムです。

【平成30年度 世界にひとつの宝物づくり 実績】

	講座形態	件数	参加者数	備 考
①	来園制作（学校）	35件	1,734人	県内 26件 1,427人 県外 6件 274人 特別支援学校・学級 2件 22人 適応指導教室 1件 11人
	（団体）	13件	208人	県内学校 9件 159人 県外学校 4件 49人
②	出張授業Ⅱ	31件	660人	特別支援学校・学級 15件 233人 美ココロ・パートナーシップ 9件 99人 イベント 7件 328人
③	特別講座	9件	222人	一般の親子
④	研究会・研修会	6件	125人	ボランティア研修会 1件 7人 ミシガン大大学事前研修会 1件 15人 滋賀県立聾話学校教職員研修会 1件 26人 レイカディア大学 1件 20人 スキルアップ研修会 1件 26人 ユニバーサル ミュージアム研究会 1件 31人
合 計		94件	2,949人	幼児～大学生 2,666人 大人 283人 講座平均 31.4人

産業の振興に関する事業

県内陶器産業の振興

信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承し、人材育成を図ること、いわば将来の発展への足場強化を目的に、信楽高校の外部研修の受け入れと地域の業界の若手後継者等を対象としたトークショーを開催しました。また、信楽産地の新製品開発をデザインの側面から支援することを目的に、業界へのデザイン提供を図るための、既存製品をベースにした加飾による新製品の開発を実施しました。

信楽産業展示館の活用

信楽産業展示館での展示

平成29年度に試作した加飾デザイン作品の展示をおこないました。

展示期間：平成30年10月6日(土)～11月4日(日)

展 示 品：信楽透土を使用した照明（デザイン：落合 勉）

人材育成事業

(1)滋賀県立信楽高等学校への支援事業

実施回数：5回 受講者数：215人

デザイン科外部研修受け入れ

実施日：9月13日(休)

参加者：15人（3年生）

講 師：織田阿奴

3年生デザイン系列を対象とした、作家の指導による陶椅子への絵付け実習をおこないました。



茶道と陶芸の体験実習

実施日：10月19日(金)

参加者：74人（1年生）

講 師：奥田英山（茶道）、神崎秀策（茶道）、黒川徹（レクチャー）

1年生を対象に陶芸に関する知識と関心を高めるために、奥田英山先生に茶道、陶芸に関する講義をしていただきました。その後、グループに分かれて茶道体験、黒川徹先生による制作に関する考え方を学ぶ目的でスライドレクチャーをおこないました。



登り窯焼成実習

セラミック系列 セラミック実習A特別授業

実施日：10月26日(金)

参加者：19人（2年生）

伝統的で大規模な登り窯の焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と作陶活動に対する意欲の向上を図りました。



野焼き体験実習

1年生 産業社会と人間 校外学習

実施日：11月16日(金)

参加者：73人（1年生）

生徒が「産業社会と人間」で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深め、作陶や造形、焼成作業、陶芸の森施設見学を通して、2年次系列選択の選考材料としました。



作家指導による陶芸制作実習

実施日：11月20日(火)

参加者：34人（2年生）

講師：藤原 純、徳地 祐二、黒川 徹

作家の指導により設定したテーマにそって制作をおこないました。



(2) 「MINGEI-産地をひらくラディカルな思想 服部滋樹×松井利夫」の開催

近年、新たなムーブメントとして注目されている「民藝」と「産地」をテーマにgrafの服部滋樹さんをお迎えして、当館館長の松井利夫とのトークショーを開催しました。

開催日：3月21日(木)

参加者数：26人

開催場所：滋賀県立陶芸の森 創作研修館視聴覚室

スピーカー：服部 滋樹（graf代表）×松井 利夫（陶芸の森館長）

デザイン活性化事業

既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽焼の蛙の置物を取り上げ、デザインをゲスト・アーティストとして滞在した金理有氏に依頼し、新しい感覚の試作品が出来上がりました。2019年秋に産業展示館での展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とします。

信楽産業展示館

信楽産業展示館運営事業

展示会の開催（甲賀市が信楽焼振興協議会に委託）

期 間	展示内容	担 当	入館者数
平成30年4月1日 平成30年9月24日	信楽焼産業総合展	信楽陶器卸商業協同組合	38,065人
平成30年10月6日 平成30年11月4日	信楽陶器総合展	信楽陶器工業協同組合	10,708人
平成30年11月10日 平成31年3月17日	信楽焼産業総合展	信楽陶器卸商業協同組合	21,874人
合 計			74,876人 (75,925)

※入場者数の（ ）書きはH29年度の実績

企画展 ギャラリー展示

期 間	テーマ	担 当
平成30年4月1日 平成30年5月20日	ほろ酔いうつわと地酒展	企画事業委員会
平成30年5月26日 平成30年7月16日	信楽焼ビアカップ展	企画事業委員会
平成30年7月21日 平成30年9月24日	いまだき、しがらき、かやりき展	企画事業委員会
平成30年11月10日 平成30年12月2日	飯碗と茶の器展	企画事業委員会
平成30年12月8日 平成31年1月14日	平成31年干支（己亥）展	信楽陶器卸商業協同組合
平成31年1月19日 平成31年3月17日	信楽焼の動物展	企画事業委員会

その他の事業

陶芸の森ミュージアムショップ6センス

平成30年度は、春の「熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展では特集として出品作家の作品や、ジャズをテーマとした音楽グッズを販売しました。また、展覧会関連事業のJAZZコンサートにご出演いただいた栗田氏のCDは、コンサート後すぐに完売しました。

夏の「世界の形象土器」展は、出品作家のマネノ氏の作品やメキシコのビンテージ陶器、ペルーの雑貨などを販売し、大変好評でした。

秋の「信楽に魅せられた美の巨匠たち」展では、出品作家の岡本太郎や横尾忠則のグッズを特集しました。陶芸グッズや陶芸実用書、がちゃがちゃは年間を通してよく売れました。

特集企画内容

特別企画「熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展 3月10日(土)～6月17日(日)

特集：出品作家による小品、音楽グッズ、ジャズ関連書籍、CDなど

特別企画「世界の形象土器」展 6月24日(日)～9月24日(月・振休)

特集：メキシコ他南米の陶器作品、ペルー雑貨、ペルー出品作家マネノ氏夫妻の作品、関連書籍など

特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」 10月6日(土)～12月20日(木)

特集：岡本太郎グッズ、横尾忠則グッズ、関連書籍など

特別企画「陶の花 FLOWERS」展 3月12日(火)～6月9日(日)

特集：出品作家による小品、花モチーフの文房具雑貨や布小物、ハーブティー、関連書籍など



「熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」
展のミュージアムショップ

職員の出向

松井 利夫（公益財団法人滋賀県陶芸の森理事長）
信楽焼振興協議会理事

杉山 道夫（事務局次長（技術）兼創作研修課長）
陶都・信楽まつり実行委員会事務局幹事
信楽高等学校支援協議会幹事
秀明文化財団 秀明文化寄金賞選考委員
秀明文化財団 信楽伝統陶芸作家育成対象者選考委員
奈良県国際芸術家村AIR研究会委員

松波 義実（創作研修課主査）
信楽焼振興協議会企画事業委員

佐々木 翔（総務課主事）
信楽町観光協会理事
火まつり委員
信楽たぬきの日実行委員

資 料





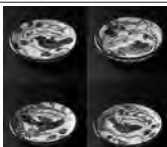






収蔵品収集事業

滋賀県立陶芸の森陶芸館 収蔵品収集実績

収蔵年度	区分	海外の現代陶芸	日本の現代陶芸	滋賀ゆかりの陶芸	クラフトと陶磁デザイン	計
平成元年～16年度	購 入	143	191	173	17	524
	寄 付	152	109	135	107	503
	計	295	300	308	124	1,027
平成17年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	1	15	41	11	68
	計	1	15	41	11	68
平成19年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	17	17	14	7	55
	計	17	17	14	7	55
平成21年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	11	7	38	10	66
	計	11	7	38	10	66
平成23年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	22	6	63	0	91
	計	22	6	63	0	91
平成25年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	3	17	92	11	123
	計	3	17	92	11	123
平成26年度	購 入	0	1	0	0	1
	寄 付	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	1
平成27年度	購 入	0	0	1	0	1
	寄 付	11	5	31	7	54
	計	11	5	32	7	55
平成29年度	購 入	0	0	1	0	1
	寄 付	23	10	42	0	75
	計	23	10	43	0	76
平成30年度	購 入	0	0	5	0	5
	寄 付	17	35	11	1	64
	計	17	35	16	1	69
合 計	購入合計	143	192	180	17	532
	寄付合計	257	221	467	154	1,099
総 計		400	413	647	171	1,631






平成30年度 陶芸館収蔵作品一覧









海外の現代陶芸








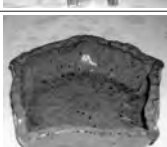



分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
FW-212	ヴィルマ・ ヴィラバーデ	アルゼンチン	アテネ (アテナ)	2017 (平成29)年	高63.0×幅56.0×奥行29.0	陶土・ 衛生陶器		寄付
FW-213	ヴィルマ・ ヴィラバーデ	アルゼンチン	チェロの女の子	2017 (平成29)年	高80.0×幅39.0×奥行29.0	陶土・ 衛生陶器		寄付
FW-214	アンティエ・ シャルフェ	ドイツ	カルト ベース 1	2018 (平成30)年	高49.5×幅21.0×奥行7.7	陶土		寄付
FW-215	アンティエ・ シャルフェ	ドイツ	カルト ベース 2	2018 (平成30)年	高51.0×幅20.0×奥行8.7	陶土		寄付
FW-216	キャシー・キング	アメリカ	鳥の皿	2017 (平成29)年	高2.0×口径19.0×底径16.0	陶土		寄付
FW-217	キャシー・キング	アメリカ	フクロウの壁掛け	2017 (平成29)年	高3.0×幅11.0×奥行18.0	陶土		寄付
FW-218	ヨリス・リンク	オランダ	コラム	2017 (平成29)年	高22.0×径15.0 / 高3.0×径13.0 / 高26.0×径11.0	陶土		寄付
FW-219	ヨリス・リンク	オランダ	オロイドパス	2017 (平成29)年	高15.0×幅20.0×奥行10.0	陶土		寄付
FW-220	ヨリス・リンク	オランダ	トライポッド	2017 (平成29)年	高23.0×径30.0	陶土		寄付
FW-221	マティアス・ リーマタイネン	フィンランド	イキペウラ	2017 (平成29)年	高60.0×幅40.0×奥行35.0	陶土		寄付
FW-222	李 秀鐘 (イ・スジョン)	韓国	白磁大壺 Moon Jar	2018 (平成30)年	高37.4×口径17.2× 胴径35.0×底径18.2	磁土		寄付








分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
FW-223	李 秀鐘 (イ・スジョン)	韓国	白磁大壺 Moon Jar	2018 (平成30)年	高40.0×口径20.0× 胴径37.0×底径18.8	磁土		寄付
FW-224	呂 宣九 (ヨー・ソング)	韓国	瞳の世界	2018 (平成30)年	高172.0×幅65.0×奥行60.0	陶土		寄付
FW-225	李 康孝 (イ・ガンヒョウ)	韓国	空	2018 (平成30)年	高28.7×幅50.5×奥行46.2	陶土		寄付
FW-226	李 康孝 (イ・ガンヒョウ)	韓国	粉引き壺	2018 (平成30)年	高18.2×径27.6	陶土		寄付
FW-227	趙 光勳 (チョウ・カンフン)	韓国	瞑想	2018 (平成30)年	高95.0×幅65.5×奥行60.0	陶土		寄付
FW-228	町田 桂子	フランス	トリ	2018 (平成30)年	高88.0×径84.5	陶土		寄付

日本の現代陶芸

分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
J-363	宇野宗堯 (初代)	日本	青磁瓦文香合	1951-1954 (昭和26-昭和29)年	高3.3×径6.3	陶土		寄付
J-364	宇野宗堯 (初代)	日本	青磁桔梗形香合	1951-1954 (昭和26-昭和29)年	高4.5×幅6.0×奥行6.0	陶土		寄付
J-365	宇野宗堯 (初代)	日本	鈞窯茄子形香合	高4.0×幅8.0×奥行4.0	陶土		寄付	
J-366	宇野宗堯 (初代)	日本	鈞窯鶴首花瓶	1952 (昭和27)年	高27.0×口径2.4× 胴径9.0×底径6.7	陶土		寄付
J-367	宇野 三吾	日本	富士茶碗	1940 (昭和15)年	高7.0×口径10.0・10.6× 胴径11.6×底径3.9	陶土		寄付

分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
J-368	宇野 三吾	日本	赤楽茶碗	1940 (昭和15)年	高6.3×口径12.0×底径5.0	陶土		寄付
J-369	宇野 三吾	日本	緑釉手付ランプ皿	1940 (昭和15)年	高4.5×口径7.5×幅11.2× 奥行10.0	陶土		寄付
J-370	宇野 三吾	日本	紅釉金彩黄葉文 紅茶碗皿	1948 (昭和23)年	茶碗 = 高4.5×幅11.4× 奥行9.4×底径5.0 皿 = 高2.0×口径14.0× 底径8.1	磁土		寄付
J-371	宇野 三吾	日本	楽焼火被平茶碗	1949 - 1954 (昭和24 - 昭和29)年	高5.0×口径13.8×底径5.3	陶土		寄付
J-372	宇野 三吾	日本	青白釉平茶碗	1949 - 1954 (昭和24 - 昭和29)年	高6.5×口径14.0×底径6.0	陶土		寄付
J-373	宇野 三吾	日本	青釉茶碗	1949 - 1954 (昭和24 - 昭和29)年	高6.8×口径14.0×底径6.0	陶土		寄付
J-374	宇野 三吾	日本	楽焼玉子手釉 茶碗	1949 - 1954 (昭和24 - 昭和29)年	高8.5×口径13.0×底径5.7	陶土		寄付
J-375	宇野 三吾	日本	刷毛目平茶碗	1949 (昭和24)年	高5.0×口径16.0×底径5.6	陶土		寄付
J-376	宇野 三吾	日本	ダークトルコブルー 手付小壺	1949 (昭和24)年	高16.0×幅10.3×奥行9.3× 底径4.6	陶土		寄付
J-377	宇野 三吾	日本	あけび釉花器	1952 (昭和27)年	高35.6×幅36.0×奥行14.0	陶土		寄付
J-378	宇野 三吾	日本	赤楽光悦写茶碗	1955 (昭和30)年	高9.0×口径13.0×底径5.2	陶土		寄付

分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
J-379	宇野 三吾	日本	二彩釉平茶碗	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高6.5×口径14.7×底径5.6	陶土		寄付
J-380	宇野 三吾	日本	黄瀬戸釉平茶碗	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高6.0×口径14.0×底径5.2	陶土		寄付
J-381	宇野 三吾	日本	素陶手捻茶碗	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高8.0×口径13.0×底径5.8	陶土		寄付
J-382	宇野 三吾	日本	織部釉芋頭水指	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高16.0×口径11.8× 胴径19.2×底径10.3	陶土		寄付
J-383	宇野 三吾	日本	織部釉皿	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高3.5×幅13.4×奥行10.0	陶土		寄付
J-384	宇野 三吾	日本	碧釉水指	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高22.0×口径14.8× 胴径24.5×底径10.8	陶土		寄付
J-385	宇野 三吾	日本	碧釉尊壺	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高30.0×幅21.0×奥行18.0	陶土		寄付
J-386	宇野 三吾	日本	碧釉五角鉢	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高6.0×幅22.0×奥行20.5	陶土 (練込)		寄付
J-387	宇野 三吾	日本	灰釉葵形向付 (10点組)	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高2.5×幅14.4×奥行10.3	陶土		寄付
J-388	宇野 三吾	日本	灰釉鳥形向付 (20点組)	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高2.3×幅12.5×奥行9.7	陶土		寄付
J-389	宇野 三吾	日本	灰釉ぐい呑	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高5.3×口径6.5×底径4.5	陶土		寄付


分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
J-390	宇野 三吾	日本	青釉大皿	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高8.0×口径26.5×底径10.0	陶土		寄付
J-391	宇野 三吾	日本	志野釉大皿	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高4.0×口径26.5×底径19.4	陶土		寄付
J-392	宇野 三吾	日本	乳白釉角鉢	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高3.0×幅21.0×奥行21.0	陶土		寄付
J-393	宇野 三吾	日本	葡萄葉形菓子皿	1955 - 1964 (昭和30 - 昭和39)年	高5.0×幅28.0×奥行18.6	陶土		寄付
J-394	小出 ナオキ	日本	Nursing Mamma	2011 (平成23)年	高127.0×幅47.0×奥行82.0	陶土		寄付
FJ-117	清水 真由美	日本	ボウル	2018 (平成30)年	高8.3×口径11.0×底径5.0	陶土		寄付
FJ-118	清水 真由美	日本	コーロ	2018 (平成30)年	高9.0×口径7.1×胴径8.2× 底径3.6	陶土		寄付
FJ-119	村山 まりあ	日本	Stuffed animals - Black Rabbit -	2017 (平成29)年	高49.0×幅47.0×奥行38.0	陶土・ 磁土		寄付

滋賀ゆかりの陶芸 (近現代)

分類番号	作者名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
SC-285	高井明山	日本	伊羅保鉛釉掛分 入隅形皿 (10点組)	20C前半 (大正時代 - 昭和時代前期)	高4.2×幅14.1×奥行13.1	陶土		寄付
SC-286	高井明山	日本	伊羅保緑釉掛分 稜花猪口 (10点組)	20C前半 (大正時代 - 昭和時代前期)	高4.6×口径5.0×底径3.1	陶土		寄付
SC-287	高橋楽斎 (三代)	日本	朝鮮茶釉 一閑人水盤	c.1940 (昭和15)年頃	高8.5×最大径34.8× 底径24.0	陶土		寄付

滋賀ゆかりの陶芸（古陶磁）

分類番号	作者・窯名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
SO-279	信楽焼・小川得齋	日本	色絵丸窓七宝繫文四方共蓋手焙	1831 (天保2)年	高22.5×幅35.3×奥行19.8	陶土		購入
SO-280	姥餅焼	日本	赤楽匂入茶碗	18C後半－ 19C前半 (江戸時代後期)	高6.0×口径10.6×底径5.2	陶土		購入
SO-281	粟津焼	日本	交趾釉手付扇形皿	18C後半－ 19C前半 (江戸時代後期)	高17.8×幅35.3×奥行19.8	陶土		購入
SO-282	梅林焼	日本	楽焼色絵三井寺図急須	18C後半－ 19C前半 (江戸時代後期)	高7.4×幅11.9×奥行10.3× 底径6.7	陶土		購入
SO-283	岩根 自然齋	日本	画帳 山水図	1868 (明治元)年	本紙 = 縦22.0×横30.5 画帳 = 縦24.3×横34.3× 厚3.2	紙本淡彩		購入
SO-284	信楽焼・一枝	日本	灰釉飛葉茶壺	19C前半 (江戸時代末期－ 明治時代)	高33.0×口径7.2× 胴径22.1×底径13.0	陶土		寄付
SO-285	湖東焼	日本	染付丸紋散鉢	19C前半 (江戸時代後期)	高6.5×口径24.9×底径14.3	磁土		寄付
SO-286	湖東焼	日本	染付前赤壁賦蓋付碗	19C前半 (江戸時代後期)	高8.7×口径10.9×底径5.9	磁土		寄付
SO-287	湖東焼	日本	青磁筋目筒花生	19C前半 (江戸時代後期)	高25.1×口径10.3× 胴径10.6×底径10.2	磁土		寄付
SO-288	圓山湖東焼	日本	染付龍文煎茶器	19C後半 (明治時代初期)	急須 = 高6.0×幅10.5× 奥行9.7×口径5.9× 胴径8.3×底径5.1 茶碗 = 高5.2×口径6.0× 底径3.2	磁土		寄付
SO-289	小富士焼	日本	鉄絵蟹図壺芝形手付碗	20C (明治時代後期－ 昭和時代初期)	高5.4×幅9.0×口径9.1× 底径3.7	陶土		寄付

分類番号	作者・窯名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
SO-290	小富士焼	日本	鉄絵染付霊芝文入隅形小皿	20C (明治時代後期-昭和時代初期)	高2.7×幅10.9×奥行9.2	陶土		寄付
SO-291	下田焼	日本	鉄絵染付松に月図蓋付鉢	19C-20C (明治時代-昭和時代初期)	高10.5×口径19.3×底径9.1	陶土		寄付

クラフトと陶磁デザイン

分類番号	作者・窯名	国名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質	作品写真	収蔵方法
C-130	常滑焼・萩焼など	日本	二口尚弘茶器コレクション	19C-21C (江戸時代後期-平成時代)	224件一括	陶土 または 磁土		寄付

収蔵品貸出実績

作者・窯名	作品名	分類番号	申請者	展覧会名	会期
ピーター・ヴォーコス	スタック	FW-029	新北市立鶯歌陶磁博物館	2018台湾R.O.C. 台湾国際陶芸ビエンナーレ	平成30年6月29日 ～平成31年3月3日
エイリアン・サックス	ミステリージャー	W-080			
奈良 美智	少女習作	FJ-113			
秋山 陽	Oscillation II	J-057	公立大学法人 京都市立芸術大学	京都市立芸術大学 退任記念展 秋山陽 —はじめてに土ありき—	平成30年11月6日 ～平成30年11月27日

特別観覧実績

作者・窯名	作品名	分類番号	申請者	出版物・番組名	発行日・放送日
宮永 東山 (三代)	陽炎燃ゆる	J-050	阿部出版株式会社	『炎芸術』134号特集 「青白磁」の図版として	平成30年5月 発売
深見 陶治	遥カノ景 (毅)	J-139			
八木 明	青白磁入子鉢	J-144			
ベティ・ウッドマン	ウッドパイプ	W-c90	京都造形芸術大学	『京都造形芸術大学通信教育部「美術科陶芸コース」テキスト「はじめて学ぶ芸術の教科書シリーズ陶芸篇 Reader1 伝統の技と表現」に掲載。電子書籍とオンデマンド出版で一般流通。	平成31年4月 発売予定
リチャード・ノートキン	四角い頭蓋骨のティーポット	W-c65			
カルメン・ディオニス	フェニックス	W-c33			
鈴木 治	爐花	J-126			

施設利用実績

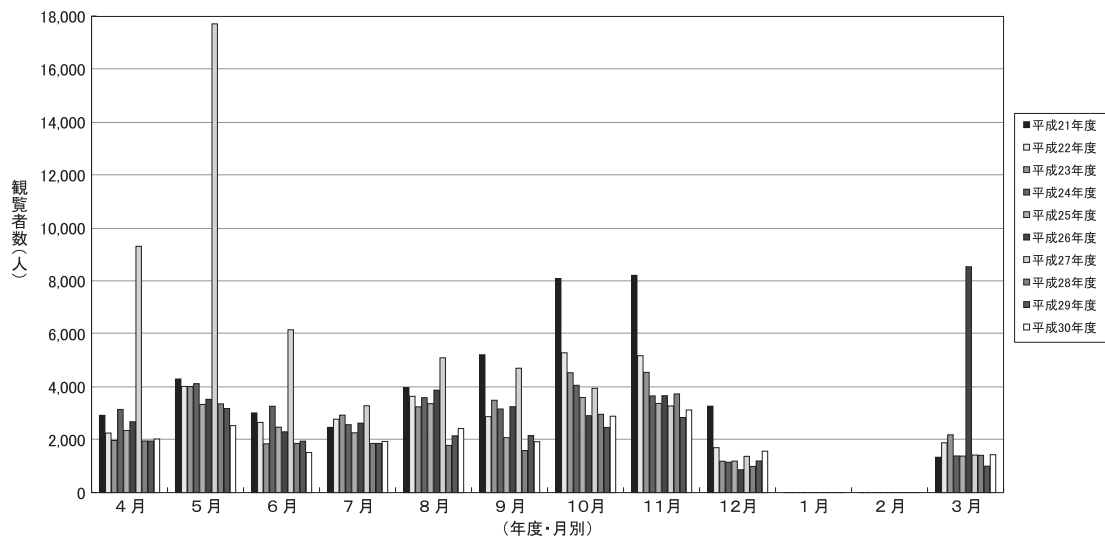
陶芸の森 年度別・月別入園者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1ヶ月平均
15年度	37,482	37,191	24,174	25,245	30,787	27,559	42,655	33,334	12,470	12,697	19,937	21,242	324,773	27,064
16年度	35,982	34,746	21,533	20,298	22,777	29,655	36,490	30,866	14,307	11,216	25,354	19,835	303,059	25,255
17年度	33,635	45,308	27,891	29,872	24,652	29,036	54,697	34,701	13,074	10,137	16,218	19,553	338,774	28,231
18年度	22,632	34,653	20,375	22,110	24,877	29,678	60,515	30,196	13,658	11,952	15,444	23,098	309,188	25,766
19年度	31,955	41,429	20,831	20,271	21,818	29,155	65,645	35,650	14,541	9,985	11,137	23,774	326,191	27,183
20年度	35,198	43,595	21,369	21,656	24,935	30,954	49,929	31,847	13,089	10,007	15,156	19,935	317,670	26,473
21年度	28,480	39,343	21,375	19,151	22,383	38,496	58,022	35,718	17,274	12,516	13,394	18,408	324,560	27,047
22年度	27,692	42,540	21,000	19,392	21,892	29,202	69,336	35,469	14,294	9,156	13,432	15,889	319,294	26,608
23年度	23,404	38,330	19,042	19,207	19,945	26,336	55,483	39,456	17,875	11,737	13,386	19,112	303,313	25,276
24年度	24,902	39,253	19,453	18,772	23,856	22,288	53,241	39,380	17,772	13,793	16,279	24,130	313,119	26,093
25年度	31,090	51,404	26,371	21,131	25,777	28,047	55,580	36,874	17,039	12,052	13,247	19,779	338,391	28,199
26年度	27,903	52,863	21,987	21,522	23,390	28,955	48,100	40,276	12,544	11,406	15,256	32,188	336,390	28,033
27年度	39,836	73,243	29,028	25,346	27,845	37,850	58,307	35,315	17,601	13,201	17,855	24,811	400,238	33,353
28年度	28,390	58,906	22,453	24,009	33,151	32,853	63,790	42,067	20,890	13,885	18,182	28,485	387,061	32,255
29年度	32,741	56,846	26,342	24,921	29,880	27,222	46,184	35,737	18,851	13,312	16,511	25,234	353,781	29,482
30年度	31,960	54,517	24,324	20,129	27,459	23,614	49,910	36,170	19,258	14,468	17,476	26,879	346,164	28,847
合計	493,282	744,167	367,548	353,032	405,424	470,900	867,884	573,056	254,537	191,520	258,264	362,352	5,341,966	455,164

※合計は入園者の計測開始年度（平成15年度）以降の計

陶芸館 年度別・月別観覧者数

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
3~20年度	観覧者数	67,760	102,681	72,779	78,240	104,821	84,461	97,866	104,996	30,208	22,253	29,200	51,292	846,557	179
	開催日数	437	430	411	431	470	409	461	439	310	274	286	379	4,737	
21年度	観覧者数	2,929	4,306	3,020	2,473	3,982	5,226	8,115	8,236	3,276	0	0	1,340	42,903	192
	開催日数	21	28	24	23	26	22	27	25	12	0	0	16	224	
22年度	観覧者数	2,258	4,025	2,660	2,782	3,650	2,879	5,299	5,189	1,704	0	0	1,889	32,335	133
	開催日数	26	27	19	27	26	20	31	29	11	0	0	27	243	
23年度	観覧者数	1,978	4,020	1,850	2,936	3,251	3,501	4,544	4,558	1,189	0	0	2,192	30,019	128
	開催日数	22	27	18	27	26	26	26	26	10	0	0	26	234	
24年度	観覧者数	3,152	4,131	3,274	2,576	3,600	3,170	4,067	3,666	1,152	0	0	1,390	30,178	128
	開催日数	26	27	26	22	26	22	26	26	14	0	0	20	235	
25年度	観覧者数	2,356	3,343	2,481	2,268	3,371	2,083	3,605	3,380	1,194	0	0	1,385	25,466	109
	開催日数	26	27	20	26	28	19	28	26	13	0	0	20	233	
26年度	観覧者数	2,687	3,535	2,305	2,634	3,882	3,258	2,917	3,674	868	0	0	8,562	34,322	146
	開催日数	26	28	20	27	27	24	23	26	13	0	0	21	235	
27年度	観覧者数	9,336	17,767	6,172	3,292	5,110	4,715	3,955	3,284	1,375	0	0	1,425	56,431	251
	開催日数	26	27	20	27	26	21	24	25	12	0	0	17	225	
28年度	観覧者数	1,958	3,365	1,865	1,864	1,790	1,596	2,969	3,741	994	0	0	1,414	21,556	94
	開催日数	26	26	21	27	26	20	29	26	10	0	0	18	229	
29年度	観覧者数	1,954	3,187	1,951	1,866	2,154	2,161	2,470	2,848	1,199	0	0	1,003	20,793	90
	開催日数	26	26	20	26	27	21	26	26	15	0	0	19	232	
30年度	観覧者数	2,032	2,539	1,519	1,940	2,428	1,930	2,889	3,130	1,569	0	0	1,437	21,413	93
	開催日数	26	26	21	26	27	21	22	26	17	0	0	18	230	
合計	観覧者数	98,400	152,899	99,876	102,871	138,039	114,980	138,696	146,702	44,728	22,253	29,200	73,329	1,161,973	165
	開催日数	688	699	620	689	735	625	723	700	437	274	286	581	7,057	



陶芸館展覧会別観覧者数

収蔵品展・特別企画展

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	一日平均
3年度	世界の現代陶芸展	H3.7.20～12.15	128	41,006	320
	世界の現代陶芸展Ⅱ				
	世界の現代陶芸展Ⅲ	H4.2.12～3.19	32	6,179	193
4年度	世界の現代陶芸展	H4.5.12～9.30	121	35,717	295
	朝日陶芸展'92	H4.9.18～9.30	11	4,141	376
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	H4.12.1～H5.3.19 (H5.3.2～3.14)	78	9,785	125
5年度	世界の現代陶芸展	H5.6.1～9.3	82	20,043	244
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	H5.11.3～H6.2.27 (H6.3.1～3.13)	104	17,072	164
6年度	世界の現代陶芸展	H6.6.12～9.15	83	18,667	225
	世界の現代陶芸展 特別企画展(森で生まれた作品展)	H6.12.3～H7.3.10 (H7.2.25～3.10)	75	7,141	95
7年度	世界の現代陶芸展	H7.6.3～7.13	35	7,353	210
	パプアニューギニアの土器展	H7.7.18～10.15	78	23,407	300
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	H7.11.25～H8.3.17 (H8.3.5～3.17)	90	11,377	126
8年度	陶芸の森新館蔵品展	H8.5.25～7.7	38	9,803	258
	陶芸の森館蔵品展	H8.7.11～9.23	65	21,652	333
	陶芸の森 館蔵品展 (森で生まれた作品展)	H8.11.30～H9.3.7 (H9.2.5～3.7)	74	6,955	94
9年度	新・収蔵品展	H9.5.31～7.9	34	6,332	186
	変貌する陶芸展	H9.7.13～9.14	55	14,185	258
	陶の表現展 (森で生まれた作品展)	H9.11.1～H10.3.15 (H10.2.4～3.15)	108	16,585	154
10年度	新・収蔵品展	H10.6.6～7.4	25	3,766	151
	滋賀やきもの探訪・やきもの動物の森展	H10.9.12～12.23	88	17,597	200
	陶芸の美展 (森で生まれた作品展)	H11.1.5～H12.3.14 (H11.2.3～3.14)	59	5,817	99
11年度	美の所産展	H11.5.29～7.4	32	5,612	175
	陶芸…使うこと・味わうこと展	H11.7.10～9.26	68	13,483	198
	アーティスト・イン・レジデンス90年代の歩み展	H11.12.5～H12.3.11	77	5,835	76
12年度	滋賀やきもの探訪「信楽焼－伝統の技」	H12.5.20～7.9	44	7,356	167
	滋賀やきもの探訪「陶芸の森コレクションから」	H12.7.15～9.17	56	10,257	183
	「陶芸－最前線」	H12.12.23～H13.3.11	61	3,868	63
13年度	陶芸の森10年の歩みⅠ－世界の現代陶芸	H13.7.14～9.24	63	10,074	160
	女性たちの陶芸展-女流陶芸と欧米作家たちとの競演	H13.12.1～H14.1.27	43	4,361	101
	陶芸の森10年の歩みⅡ－滋賀ゆかりのやきもの・日本の現代陶芸	H14.2.2～3.31	44	4,542	103
14年度	特別企画展「ルーシー・リー展 ～静寂の美～」	H14.4.6～6.30	74	12,189	165
	収蔵品によるテーマ展「古くて、新しい表現…陶の可能性」	H14.12.3～H15.3.30	96	6,123	64
15年度	企画展「まぼろしのやきもの－滋賀の郷窯」	H15.4.4～8.22	121	20,270	168
	特別企画展「神々の形象 パプアニューギニアの土器」	H16.3.20～3.31	10	1,122	112
16年度	特別企画展「神々の形象 パプアニューギニアの土器」	H16.4.1～7.30	104	13,161	127
	特別企画展「信楽のやきものとともに－寒六窯と遊陶人」	H16.11.23～12.15	20	3,106	155
17年度	特別企画「日本の現代陶芸・海外の現代陶芸－迫力の時代」	H17.6.19～9.25	85	10,038	118
18年度	特別企画「信楽を訪れた594人の陶芸家たち－アーティスト・イン・レジデンスの軌跡」	H18.7.4～9.24	72	7,924	110
19年度	特別企画「魅せられる…今、注目される日本の陶芸」	H19.6.10～9.24	92	10,771	117
20年度	特別企画「やきもの動物パラダイス」&「滋賀のやきもの」展	H20.9.21～3.31	95	15,935	168
21年度	特別企画「やきもの動物パラダイス」&「滋賀のやきもの」展	H21.4.1～4.12	11	1,561	142
	特別企画展「陶の“うつわ”と“かたち” Part 1 使ってみよう！ 愉しみの“うつわ”／心を潤す癒しの“かたち”	H21.4.19～6.28	62	8,694	140
	特別企画展「陶の“うつわ”と“かたち” Part 2 華やぎと味わいの“うつわ”／驚きと発見！ユーモラスな“かたち”	H21.7.5～9.12	60	7,812	130

年度	展覧会名	会 期	開催日数	観覧者数	一日平均
22年度	特別企画展「わくわくミュージアム-ちょっと不思議で楽しい“やきもの”」	H22.6.26～9.10	66	8,053	122
	特別企画展「近江に花開いたやきもの-街道とともに…」	H23.3.1～3.31	27	1,889	70
23年度	特別企画展「近江に花開いたやきもの-街道とともに…」	H23.4.1～4.17	15	1,307	87
	特別企画展「陶芸を楽しむ“グ・ル・メ”な、やきものたち」	H23.6.30～12.11	142	20,019	141
25年度	特別企画展「あれもやきもの これもやきもの —陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみ—」	H25.6.18～9.23	85	8,947	105
	特別企画展「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」 /特別企画展「信楽焼の美—炎がつくり出す野趣溢れる肌合い」	H25.3.8～3.30	20	1,385	69
26年度	特別企画展「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」 /特別企画展「信楽焼の美—炎がつくり出す野趣溢れる肌合い」	H26.4.1～6.22	73	8,323	114
	特別企画展「集まれ!奇想天外な“やきもの”たち」		78	9,978	128
27年度	特別企画「土・祈り・イメージーション…岡本太郎の言葉とともに」展	H27.6.14～9.23	88	14,974	170
28年度	特別企画展「インサイド×アウトサイド—陶芸の森アート・クルーズ」	H28.6.19～9.23	83	6,314	76
	特別企画「“うつわ” ドラマチック」展	H29.3.11～3.31	18	1,414	79
29年度	特別企画「“うつわ” ドラマチック」展	H28.4.1～6.11	62	6,217	100
	特別企画「十人陶色—豊かな色の世界」展	H29.6.20～9.24	84	7,056	84
	特別企画「ジャズ・スピリットを感じて…熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展	H30.3.10～3.31	19	1,003	53
30年度	特別企画「ジャズ・スピリットを感じて… 熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展	H30.4.1～6.17	67	5,773	86
	特別企画「世界の形象土器」展	H30.6.24～9.24	77	6,615	86
	特別企画「陶の花・FLOWERS—美術館でお花見」展	H31.3.12～3.31	18	1,437	80
合 計			3,875	599,378	155

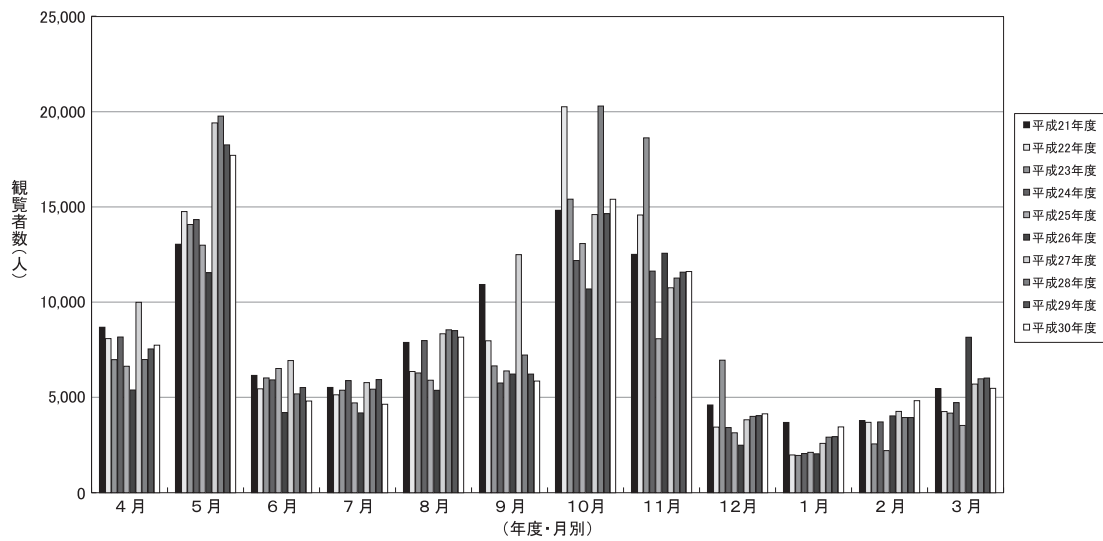
特別展・公募展

年度	展覧会名	会 期	開催日数	観覧者数	一日平均
3年度	おしゃべりなティポット展	H4.1.5～2.11	32	4,265	133
	近江のやきもの展	H4.3.20～3.31	10	2,786	279
4年度	近江のやきもの展	H4.4.1～5.10	35	10,943	313
	現代イタリア陶芸展	H4.10.10～11.23	39	8,389	215
5年度	熊倉順吉とその仲間たち	H5.3.20～3.31	10	1,355	136
	熊倉順吉とその仲間たち	H5.4.1～5.30	52	9,058	174
	八木一夫が出会った子供たち	H5.9.4～10.31	50	7,840	157
6年度	エイドリアン・サックス展	H6.3.20～3.31	10	1,180	118
	エイドリアン・サックス展	H6.4.1～6.5	57	6,724	118
	近江のやきもの展	H6.9.20～11.27	60	12,094	202
7年度	現代イギリス陶芸展	H7.3.19～3.31	11	1,300	118
	現代イギリス陶芸展	H7.4.1～5.28	50	7,494	150
	トブカブ宮殿の名品展	H7.10.21～11.19	26	10,650	410
8年度	凜—現代の陶芸美	H8.3.23～3.31	8	1,774	222
	凜—現代の陶芸美	H8.4.1～5.19	42	12,445	296
	明治のやきもの	H8.9.29～11.24	49	14,794	302
9年度	画家たちのやきもの	H9.3.15～3.31	14	2,580	184
	画家たちのやきもの	H9.4.1～5.25	48	11,053	230
	バーナード・リーチ展	H9.9.20～10.26	32	11,125	348
10年度	つくり手たちの原像展	H10.3.21～3.31	9	1,918	213
	つくり手たちの原像展	H10.4.1～5.31	53	10,782	203
	セーブル名品展	H10.7.11～9.6	50	11,407	228
11年度	なんてき・れ・いなんて不思議展	H11.3.20～3.31	10	1,892	189
	なんてき・れ・いなんて不思議展	H11.4.1～5.23	46	12,417	270
	やきもの20世紀	H11.10.2～11.28	50	14,147	283
12年度	アール・ヌーヴォーとアール・デコの陶芸展	H12.3.19～3.31	11	1,866	170
	アール・ヌーヴォーとアール・デコの陶芸展	H12.4.1～5.14	38	8,514	224
	「熊倉順吉ジャズの響きをやきものにした作家」 「イタリア陶磁器の伝統と革新—ジノリ展」	H12.9.23～12.17	74	9,155	124
		H13.3.18～3.31	12	1,418	118

年度	展覧会名	会 期	開催日数	観覧者数	一日平均
13年度	「イタリア陶磁器の伝統と革新－ジノリ展」	H13.4.1～5.20	43	10,730	250
	「ドイツ陶芸の100年－アール・ヌーヴォーから現代作家まで」	H13.5.27～7.8	37	6,234	168
	「大信楽展～焼締めの美への憧れとその軌跡～」	H13.10.2～11.25	48	11,195	233
14年度	特別展「スイスの陶芸－ルネッサンスから現代まで－」	H14.7.9～9.8	54	8,005	148
	特別展「暮らしに美を求めて－陶磁器試験場の技術とデザイン」	H14.9.15～11.24	61	8,552	140
15年度	特別展「桃山陶に魅せられた七人の陶芸家－陶片に学んだ技と美」	H15.8.30～10.13	39	7,698	197
	特別展「ロシア・アヴァンギャルドの陶芸－モダンデザインの実験」	H15.10.21～11.30	37	6,514	176
16年度	特別展「デンマーク王室の陶磁コレクション－ロイヤル・コペンハーゲン」	H16.8.8～11.14	85	15,261	180
	特別展「北欧のスタイリッシュ・デザイン－フィンランドのアラビア窯」	H17.3.19～3.31	11	1,706	155
17年度	特別展「北欧のスタイリッシュ・デザイン－フィンランドのアラビア窯」	H17.4.1～6.12	63	13,586	216
	特別展「湖国を彩るやきもの－滋賀の陶芸家たち」	H17.10.2～12.18	67	10,330	154
	特別展「人のかたち－もうひとつの陶芸美」	H18.3.18～3.31	12	1,104	92
18年度	特別展「人のかたち－もうひとつの陶芸美」	H18.4.1～6.25	75	8,431	112
	特別展「近江やきものがたり」	H18.10.1～12.17	67	9,737	145
	特別展「ようこそ！たぬき御殿へ－おもしろき日本の狸表現」	H19.3.17～3.31	12	2,482	207
19年度	特別展「ようこそ！たぬき御殿へ－おもしろき日本の狸表現」	H19.4.1～6.3	56	13,301	238
	特別展「ジャポニズムのテーブルウェア－西洋の食卓を彩った“日本”－」	H19.10.2～12.24	73	9,025	124
	特別展「近江の商家のくらしとやきもの」	H20.3.15～3.30	14	1,960	140
20年度	特別展「近江の商家のくらしとやきもの」	H20.4.1～6.29	80	12,935	162
	特別展「世界に誇る和製テーブルウェア－オールドパタケと懐かしの洋食器」	H20.7.6～9.15	62	10,141	164
21年度	特別展「没後50年 北大路魯山人」	H21.9.19～12.13	75	23,496	313
	特別展「ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新－」	H21.3.13～3.31	16	1,340	84
22年度	特別展「ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新－」	H22.4.1～6.17	68	8,389	123
	特別展「しがらきやき－直方の茶陶 春斎の壺－」	H22.9.18～12.12	82	14,004	171
23年度	特別展「ウィリアム・ド・モーガン－楽しい生活を彩るタイルと陶器」	H23.4.23～6.19	50	6,501	130
	特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」	H24.3.3～3.31	25	2,192	88
24年度	特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」	H24.4.1～7.6	84	11,222	133
	特別展「明治・大正時代の日本陶磁－産業と工芸美術－」	H24.7.14～8.26	43	5,511	128
	特別展「しがらきやきⅡ－大西忠左と勅旨の名工たち－」	H24.9.6～12.16	88	12,055	137
	特別展「フランス印象派の陶磁器1866-1886ジャポニズムの成熟」	H25.3.9～3.31	20	1,390	69
25年度	特別展「フランス印象派の陶磁器1866-1886ジャポニズムの成熟」	H25.4.1～6.9	61	6,955	114
	特別展「酒器の玉手箱」	H25.10.2～12.15	66	8,179	124
26年度	特別展「やきものって何ダ？－陶芸美術館8館の名品に学ぶ」	H26.10.5～12.14	61	7,459	122
	特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」	H27.3.7～3.31	21	8,562	408
27年度	特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」	H27.4.1～6.22	59	31,418	533
	特別展「信楽への眼差し」	H27.10.4～12.13	61	8,614	141
	公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今－伝統と革新」	H28.3.12～3.31	17	1,425	84
28年度	公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今－伝統と革新」	H28.4.1～6.12	63	6,124	97
	特別展「珠玉の湖東焼」	H28.10.1～12.11	65	7,704	119
29年度	特別展「粋な古伊万里－江戸好みの器デザイン」	H29.10.1～12.17	67	6,517	97
30年度	特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」	H30.10.6～12.20	65	7,588	117
合 計			3,141	566,937	180

信楽産業展示館 年度別・月別観覧者数

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
3～20年度	観覧者数	138,120	219,374	111,101	155,216	170,318	115,602	195,298	196,319	55,429	45,452	69,850	114,863	1,586,942	304
	開催日数	432	451	437	386	479	428	429	439	415	416	435	470	5,217	
21年度	観覧者数	8,707	13,075	6,173	5,540	7,908	10,957	14,861	12,542	4,616	3,698	3,792	5,477	97,346	315
	開催日数	26	28	25	27	26	27	27	25	24	24	24	26	309	
22年度	観覧者数	8,110	14,794	5,468	5,153	6,379	7,995	20,309	14,614	3,453	1,988	3,704	4,271	96,238	306
	開催日数	26	27	26	27	26	26	31	29	23	23	24	27	315	
23年度	観覧者数	7,001	14,114	6,040	5,394	6,302	6,674	15,446	18,673	6,974	1,962	2,569	4,190	95,339	309
	開催日数	26	27	26	27	26	26	26	26	23	23	25	28	309	
24年度	観覧者数	8,193	14,371	5,938	5,899	8,004	5,774	12,219	11,661	3,428	2,063	3,726	4,739	86,015	276
	開催日数	26	27	26	28	30	26	26	26	23	23	24	27	312	
25年度	観覧者数	6,655	13,025	6,536	4,727	5,920	6,409	13,111	8,103	3,154	2,125	2,216	3,540	75,521	245
	開催日数	26	27	26	26	28	24	29	26	23	23	24	26	308	
26年度	観覧者数	5,406	11,578	4,217	4,200	5,390	6,245	10,722	12,601	2,501	2,049	4,043	8,181	77,133	251
	開催日数	26	28	25	27	27	25	27	26	23	23	24	26	307	
27年度	観覧者数	10,018	19,459	6,955	5,794	8,364	12,527	14,636	10,784	3,839	2,596	4,279	5,717	104,968	341
	開催日数	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308	
28年度	観覧者数	7,009	19,817	5,201	5,448	8,573	7,245	20,346	11,295	4,017	2,924	3,956	5,994	101,825	330
	開催日数	26	26	26	27	26	26	29	26	23	23	24	27	309	
29年度	観覧者数	7,566	18,303	5,534	5,952	8,528	6,243	14,683	11,606	4,054	2,948	3,953	6,034	95,404	312
	開催日数	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	
30年度	観覧者数	7,763	17,752	4,825	4,655	8,186	5,876	15,441	11,639	4,152	3,463	4,844	5,492	94,088	307
	開催日数	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	
合計	観覧者数	214,548	375,662	167,988	207,978	243,872	191,547	347,072	319,837	95,617	71,268	106,932	168,498	2,510,819	302
	開催日数	692	720	694	654	748	686	703	700	647	648	676	738	8,306	



信楽ホール・会議室利用件数

(単位：回)

催事内容	3～22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計
式典・総会等	170	4	4	2	3	4	3	7	3	200
芸能・音楽発表会等	474	12	9	15	10	14	13	10	5	562
講演会・シンポジウム等	84	3	1	2	3	3	2	9	3	110
研修・映画会等	132	4	4	5	7	4	1	2	2	161
計	860	23	18	24	23	25	19	28	13	1033

沿革と記録

- 昭和60年（1985年） 4月
- 陶芸の森設置の検討（商工労働部商工課経済対策係）
- 昭和61年（1986年） 3月
- 滋賀県立陶芸の森整備基金条例の公布（基金10億円）
- 平成元年（1989年） 3月
- 建築工事着手
- 7月
- 公園工事着手
- 平成2年（1990年） 4月
- 財団法人 滋賀県陶芸の森設立
- 6月
- 竣工・プレ世界陶芸祭開催（6月2日～6日）
- 平成3年（1991年） 4月
- 世界陶芸祭開催（4月20日開幕）
- 5月
- 世界陶芸祭中止（5月15日閉場）
- 7月
- 平常業務再開（7月20日）
- 平成4年（1992年） 7月
- 創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業開始
- 平成7年（1995年） 10月
- 開設5周年記念シンポジウム「今日のうつわを考える－用と美の対立を超えて」開催
- 平成11年（1999年）
- オランダのフェンロ市立美術館で初めて海外での陶芸の森のコレクション「日本の現代陶芸－前衛の動向－」展を開催
- 平成13年（2001年） 10月
- 開設10周年記念イベント鼎談「土と炎と創作と－21世紀の陶芸を見すえて－」開催（10月7日）
 - 10周年記念展として陶芸館で特別展「第信楽焼展－焼締め的美への憧れとその軌跡」を開催
- 平成14年（2002年） 1月
- 陶芸館入館者数60万人記録
 - 創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受け入れ者の延べ人数が500人を超える
 - 信楽産業展示館入館者数100万人記録

- 平成16年（2004年） 10月
- 所在地の信楽町を含む近隣5町が合併し、甲賀市となる
 - 文部科学省「子どもの居場所づくり」キャンペーン事業「本物と出会うー森・もり！やきもの大作戦」開始
- 平成17年（2005年） 3月
- 中世穴窯／金山遺跡の再現事業で「金山再現窯」完成
- 平成18年（2006年） 4月
- 指定管理者制度に基づき財団法人滋賀県陶芸の森が滋賀県立陶芸の森の指定管理者となる
- 6月
- 創立15周年記念特別企画展「信楽を訪れた594人の陶芸家たち展」を開催
- 平成19年（2007年）
- 陶芸の森企画巡回展「魅せられる…今、注目される日本の陶芸」開催、以後国内2会場終了後、フランス、アメリカにて開催。
- 7月
- 『近江やきものがたり』京都新聞出版センターより出版
- 11月
- 天皇皇后両陛下を御迎えする
- 平成22年（2010年）
- 開設20周年記念特別展「しがらきやきー直方の茶陶 春斎の壺ー」を開催
 - 開設20周年記念シンポジウム「芸術・産業・観光から 活力あるしがらきの未来を考えるーやきものが信楽を創造するー」を開催
 - 創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受け入れ者の延べ人数が800人を超える
- 平成24年（2012年） 4月
- 公益法人制度改革により公益財団法人滋賀県陶芸の森に移行
- 平成25年（2013年）
- 陶芸館累計入館者数100万人達成
- 平成27年（2015年） 10月
- 開設25周年事業として、「25周年記念事業ー国際陶芸ワークショップ・シンポジウム アーティスト・イン・レジデンスを視点として「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」を開催。特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン」展等を開催。フレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチュアパーク（アメリカ、ミシガン州）との共同の公募展「伝統と革新ー日本陶芸の今」をアメリカにて開催。創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受け入れ者の延べ人数が1,000人を超える

平成28年（2016年） 10月

- 国際シンポジウム 関西アーティスト・イン・レジデンスin 信楽「アーティスト・イン・レジデンスの可能性とその評価」を開催
- 文化庁補助事業として、海外のレジデンス機関への陶芸家の派遣をはじめ

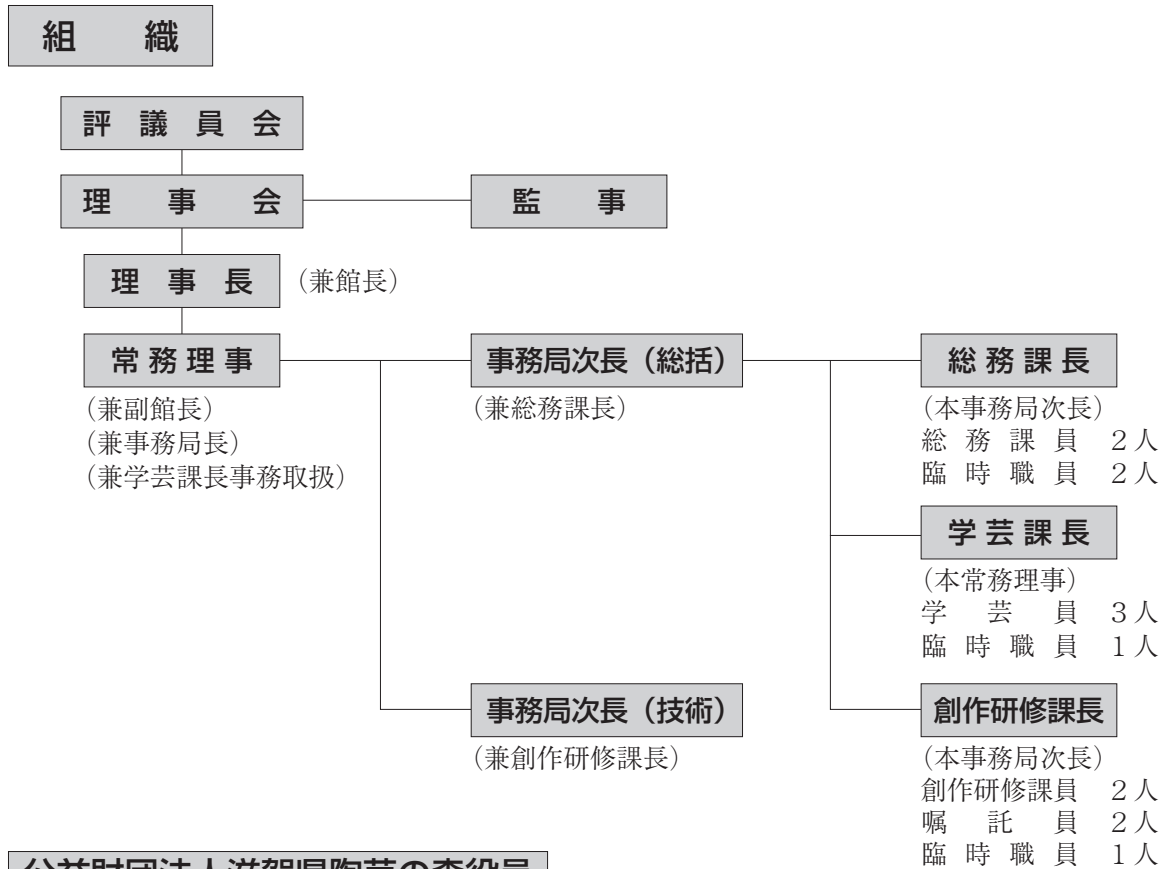
平成29年（2017年）

- 陶芸館累計入館者数120万人達成
- つちっこプログラム累計参加者数10万人達成
- 信楽長野地区の商店街の中に陶芸の森地域連携拠点として、「FUJIKI」をオープン

平成30年（2018年）

- 信楽産業展示館累計入館者数240万人達成

組 織 ・ 名 簿



公益財団法人滋賀県陶芸の森役員

公益財団法人滋賀県陶芸の森 評議員

役 職	現 職 名	氏 名
評 議 員	滋 賀 県 商 工 観 光 労 働 部 長	江 島 宏 治
評 議 員	甲 賀 市 産 業 経 済 部 長	中 島 昭 彦
評 議 員	愛 知 県 陶 磁 美 術 館 副 館 長	神 崎 か ず 子
評 議 員	岐 阜 県 現 代 陶 芸 美 術 館 顧 問	榎 本 徹
評 議 員	日 本 工 芸 会 理 事	神 農 巖
評 議 員	信 楽 陶 器 工 業 協 同 組 合 理 事 長	大 原 耕 造
評 議 員	信 楽 陶 器 卸 商 業 協 同 組 合 理 事 長	奥 田 立 博
評 議 員	甲 賀 市 商 工 会 信 楽 支 部 長	森 幹 雄
評 議 員	株 式 会 社 京 都 新 聞 社 滋 賀 本 社 代 表	藤 田 治 久
評 議 員	株 式 会 社 TM オ フ ィ ス 代 表 取 締 役	殿 村 美 樹

(平成31年3月31日現在)

公益財団法人滋賀県陶芸の森 理事・監事

役 職	現 職 名	氏 名
理 事	滋 賀 県 商 工 観 光 労 働 部 モ ノ づ くり 振 興 課 長	小 川 栄 司
理 事	滋 賀 県 工 業 技 術 総 合 セ ン タ ー 信 楽 産 業 技 術 試 験 場 長	川 澄 一 司
理 事	甲 賀 市 産 業 経 済 部 商 工 労 政 課 長	黒 田 芳 司
理 事	公 益 財 団 法 人 秀 明 文 化 財 団 専 務 理 事	石 丸 正 運
理 事	滋 賀 次 世 代 文 化 芸 術 セ ン タ ー 代 表	斎 藤 俊 信
理 事	信 楽 陶 芸 作 家 協 会 会 長	神 崎 継 春
理 事	信 楽 陶 器 工 業 協 同 組 合 理 事	奥 田 隆 次
理 事 長	滋 賀 県 立 陶 芸 の 森 館 長	松 井 利 夫
常 務 理 事	同 副 館 長	森 野 泰 起
監 事	滋 賀 銀 行 信 楽 支 店 長	駒 井 靖 也
監 事	一 般 社 団 法 人 滋 賀 県 中 小 企 業 診 断 士 協 会 監 事	大 谷 武 重

(平成31年3月31日現在)

滋賀県立陶芸の森収蔵品収集審査会委員 (任期 平成29年7月20日～令和元年7月19日)

榎本	徹	岐阜県現代陶芸美術館 顧問
神崎	かず子	愛知県陶磁美術館 副館長
洲鎌	佐智子	京都府京都文化博物館学芸課長補佐・主任学芸員
畑中	章良	MIHO MUSEUM 学芸部長
松原	龍一	京都国立近代美術館 副館長
守屋	雅史	神戸松蔭女子学院大学 教授

滋賀県立陶芸の森収蔵品価格評価委員 (平成31年3月末現在)

八木	毅	八木美術店
大長	智広	京都国立近代美術館 研究員
梶山	博史	中之島香雪美術館 学芸課長
花井	素子	岐阜県現代陶芸美術館 学芸員
横谷	賢一郎	大津市歴史博物館 学芸員
藤田	篤実	現代美術 艸居

滋賀県立陶芸の森ゲスト・アーティスト選考委員

洲鎌	佐智子	京都府京都文化博物館学芸課長補佐
外館	和子	工芸研究者
神崎	継春	信楽陶芸作家協会会長
松井	利夫	館長
杉山	道夫	創作研修課長
三浦	弘子	学芸課専門学芸員

滋賀県立陶芸の森スタジオ・アーティスト選考委員

森野	泰起	副館長
杉山	道夫	創作研修課長
松波	義実	創作研修課主査
三浦	弘子	学芸課専門学芸員

公益財団法人滋賀県陶芸の森職員	(平成31年3月31日現在)
------------------------	----------------

理事長 松井 利夫
(兼館長)

常務理事 森野 泰起
(兼副館長兼事務局長兼学芸課長)

事務局次長(総括) 河村 努 県派遣職員
(兼総務課長)

事務局次長(技術) 杉山 道夫
(兼創作研修課長)

【総務課】

課 長 河村 努 県派遣職員
(本事務局次長)

主任主査 樋口 久子

【創作研修課】

課 長 杉山 道夫

主 査 松波 義実

指 導 員 安藤 祐輝

嘱 託 員 高橋 美子

嘱 託 員 田尾 晃

【学芸課】

課 長 森野 泰起
(本副館長兼事務局長)

専門学芸員 三浦 弘子

専門学芸員 大槻 倫子

主任学芸員 鈎 真一

平成30年度
滋賀県立陶芸の森年報

The Shigaraki Ceramic Cultural Park
Annual Report 2018

制作／発行 **公益財団法人滋賀県陶芸の森**

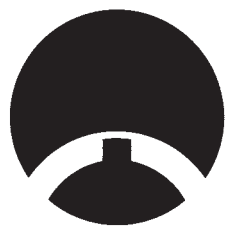
〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7

t e l (0748)83-0909

f a x (0748)83-1193

発 行 日 令和2年3月

アインズ株式会社



陶芸の森

**The Shigaraki Ceramic
Cultural Park**